

R-Netコントロール



取扱説明書

R-Netコントロール システム

The logo features a stylized, curved swoosh above the word 'QUICKIE' in a bold, sans-serif font, with a registered trademark symbol (®) to the right.

015670

利用者の皆様へ

電動車椅子の使用目的:

使用について

電動車椅子は、歩行が不能であるか、限定的な動作しか行えない使用者が、個人的に屋内外で使用するためのものです。介助者用コントロールモジュールが搭載されている場合、介助者が使用者に代わって電動車椅子を操作できます。デュアルコントロールモジュールが搭載されている場合、電動車椅子は、使用者が操作することも、介助者が使用者に代わって操作することもできます。

最大積載量（使用者および車椅子に搭載するアクセサリーの重量）は、車椅子の車体に貼付されたシリアルナンバーラベルに記載されています。

製品の保証は、特定の条件下で本来の目的で使用した場合のみ有効となります。

車椅子の想定耐用年数は5年です。Sunrise Medicalが公式に承認しているものを除き、非純正の部品を車椅子に使用したりつけたりしないでください。

対象

モジュラーデザインに加えて様々な調整を行えるため、歩行が不能であったり、限定的な動作しか行えない次のような方にお使いいただけます。

- ・ まひ
- ・ 四肢欠損（下肢切断）
- ・ 四肢欠損奇形
- ・ 関節拘縮/関節損傷
- ・ 卒中および脳の損傷
- ・ 神経障害（多発性硬化症（MS）、パーキンソン病など）
- ・ 心臓や循環器の障害、平衡障害や悪液質の方、および上半身がしっかりしているお年寄り
- ・ 車椅子の操作に必要な入力機器とその機能を安全に管理する精神的、肉体的能力のある方

提供を検討するにあたっては、体格、体重の分散を含む重力、ユーザーの肉体的心理的性質、ユーザーの年齢、生活状況や環境にも留意してください。疑問がある場合、医療従事者の協力を得て、ユーザーが許容できないリスクにさらされないようにしてください。

Sunrise Medical社はISO 9001認証を取得しており、本製品の開発および生産の全工程において品質が保証されます。



重要:

この説明書をすべて読み、内容を理解するまで、車椅子を使用しないでください。



Sunrise Medicalは自社の責任において、本製品が2007/47/EECで修正された指令93/42/EECの要件に準拠することを宣言します。

Sunrise Medical社は、本製品がISO 7176-19の[破壊試験]に対する性能要件に準拠することを宣言します。

本書で使用する用語の定義

用語	定義
危険!	守らない場合に重傷または死亡の恐れのあるリスクに関する指示を示します。
警告!	守らない場合に負傷の恐れのあるリスクに関する指示を示します。
注意!	守らない場合に機器が破損する恐れのあるリスクに関する指示を示します。
メモ:	利用者に対する一般的なアドバイスを示します。
	他の文書への参照を示します。

メモ:

- ・ お客様がお住まいの地域の販売代理店の住所と電話番号を、余白にメモしておいてください。故障した際に連絡をして詳細を説明し、すぐに対応してもらいようにしてください。
- ・ 本書に図示または説明する車椅子は、お客様のモデルとは完全に一致しない場合があります。詳細が異なる場合も、記載する指示は有効です。
- ・ 製造者は本書に記載する重量、寸法、その他の技術データを予告なく変更する権利を留保します。本書に表示する絵図、寸法、容量はすべて概略であり、正確な仕様を示すものではありません。

1.0 R-Netコントロールシステム	4	14.0 オムニの操作方法	40
2.0 保証	5	14.1 オムニの運転特性	40
2.0 保証	5	14.2 全般の操作方法	40
3.0 R-Netコントロールシステム	7	14.3 ユーザーメニュー	40
3.0 はじめに	7	14.4 ジョイスティックタイプSIDでの操作 (図13.2)	41
3.1 R-Netジョイスティックモジュール	8	14.5 スイッチタイプSIDでの操作 (図13.3)	41
3.2 ジョイスティックモジュールLCD画面 (図3.3)	8	14.6 3軸対応とスイッチタイプSIDでの操作 (ヘッドアレイ) (図13.5)	42
3.3 LEDボタン付きジョイスティックモジュール (図3.5)	10	14.6.1 ダブルクリックによる変更	42
4.0 R-Net LCD画面ジョイスティックモジュール	12	14.6.2 自動トグル変更	42
4.0 LCD画面	12	14.6.3 スイッチの中位変更	42
4.1 メイン画面エリア:運転画面	13	14.6.4 シーティングコントロール	42
4.2 メイン画面エリア:モード画面	14	14.6.5 関連プログラミング	42
4.3 メイン画面エリア:診断 (図4.24)	16	14.7 息操作タイプSIDでの操作 (図13.8)	43
4.4 ジョイスティックモジュールのロック (図4.26~4.29)	17	14.8 単スイッチスキャナータイプのSIDでの操作	44
4.4 アクチュエーター選択画面	18	14.9 速度調整モード	46
5.0 R-Net LEDジョイスティックモジュール	19	14.10 ライティングコントロールモード	46
5.1 LEDコントロールシステムの状態表示	19	14.11 持続操作	46
5.2 自己解決ガイド	20	15.0 オムニLCD画面	47
6.0 運転の準備	22	15.1 LCD画面詳細	47
6.1 運転の準備	22	15.2 トップバー (図15.0)	47
6.2 コントロールシステムの使用について	23	15.3 ポートの識別子 (図15.1)	47
7.0 設定メニュー	24	15.4 ベースバー (図15.2)	47
7.1 設定メニュー	24	15.5 ウィンカーアイコン (図15.3)	47
7.2 時間設定(Set Time)	24	15.6 ハザードアイコン (図15.4)	47
7.3 時間表示(Display Time)	25	15.7 ライトアイコン (図15.5)	47
7.4 距離(Distance)	26	15.8 メイン画面エリア (図15.6)	47
7.5 表示設定	27	15.9 選択した方向のウィンカー (図15.7)	47
8.0 バッテリーゲージ	28	15.10 モード画面	48
8.1 バッテリーゲージの読み方	28	15.11 アクチュエーターモード (図15.8)	48
9.0 充電ソケット	29	15.12 環境(Environment)モード (図15.9)	48
9.1 バッテリーの充電	29	15.13 PCモード (図15.10)	48
10.0 デュアル介助者用コントロールモジュール	30	15.14 速度調整 (図15.11)	48
10.1 ジョイスティック	30	15.15 ジョイスティックモジュールのロック (図15.12~15.15)	49
10.2 最高速度表示部	30	15.16 メイン画面エリア:診断 (図15.16)	50
10.3 加速/減速ボタン	30	15.17 判明モジュール	50
10.4 モードボタン	30	15.18 エラーテキスト	50
10.5 コントロール表示灯	30	15.19 エラーコード	50
10.6 コントロールスイッチ	30	15.20 診断手順 (図15.17)	50
10.7 注意事項	31	16.0 オムニ赤外線コントロール (IR)	51
10.8 毎日のチェック	31	16.0 赤外線コントロール (IR)	51
10.9 毎週のチェック	31	16.1 ユーザーメニュー	51
11.0 使用上の注意	31	16.2 赤外線設定メニューへのアクセス	52
11.1 警告:	31	16.3 赤外線コードの登録	53
11.2 安全点検	32	16.4 赤外線コードの有効化と無効化	54
11.5 保守点検	32	16.5 赤外線コードの削除	55
12.1 はじめに	34	17.0 使用上の注意	56
12.2 コントロールと接続部	34	17.1 ハザード	56
12.0 R-Netオムニの概要	34	17.2 安全点検	56
13.0 特殊入力装置 (SID)	36	17.3 毎日のチェック	56
13.1 電動椅子へのSID取り付け	36	17.4 毎週のチェック	56
13.2 SIDの接続 (図13.0)	36	17.5 保守点検	57
13.3 ユーザースイッチ	36		
13.4 D型コネクター	36		
13.5 息操作の入力	36		
13.6 オムニと併用するSIDのタイプの例	37		
13.7 ジョイスティックとユーザースイッチ (図13.2)	37		
13.8 5スイッチとユーザースイッチ (図13.3)	37		
13.9 3軸対応とユーザースイッチ (図13.4)	37		
13.10 3軸対応とユーザースイッチ (図13.6)	38		
13.11 息操作装置とユーザースイッチ (図13.6)	38		
13.12 息操作の較正 (図13.7)	38		
13.13 単スイッチスキャナー	39		
13.14 ユーザースイッチ	39		
13.15 車椅子の各機能へのアクセス	39		
13.16 表示背景 図13.10	39		

18.0 R-Netマウスモジュール	58
18.1 はじめに	58
18.2 コントロール	58
18.3 操作の決まり	58
18.4 Bluetooth受信 Dongle	58
18.5 システムの統合	59
18.6 ペアリング	60
18.7 マウスモードの設定	60
18.8 PCとのペアリング	61
18.9 複数のPCとのペアリング	64
19.0 R-NetCJSM2コントロールシステム	66
19.1 はじめに	66
19.2 コントロール (図19.1、図19.2、図19.3).	67
19.3 ボタン (図19.4)	69
19.4 LCD画面の詳細	69
19.5 プログラミング (図19.37)	77
20.0 CJSM2赤外線の設定と操作	78
20.1 CJSM2をオムニ赤外線で使用	78
20.2 赤外線コードユーザーメニュー	79
20.3 赤外線設定メニュー	79
20.4 赤外線コードの登録	80
20.5 赤外線コードの連続登録	81
20.6 赤外線コードの有効化/無効化	81
20.7 赤外線コードの削除	82
20.8 デフォルト赤外線メニュー	83
21.0 CJSM2Bluetoothの設定と操作	84
21.1 操作と設定	84
21.2 Bluetoothデバイスとのペアリング	85
21.3 Windowsとのペアリング	85
21.4 Androidデバイスとのペアリング	87
21.5 iOSデバイスとのペアリング	87
21.6 デバイスリストの更新	87
21.7 Windows PCの操作	87
21.8 Androidデバイスの操作	87
21.9 iOSデバイスの操作	88

1.0 R-Netコントロールシステム

弊社Sunrise Medicalは、お買い求めの車椅子を最大限にご利用いただきたいと望んでいます。このオーナーズマニュアルをお読みいただくと、R-Netコントローラーとその機能を使いこなせるようになります。本書には日常的な使用でのアドバイスや全般のお手入れ、さらに当社が遵守する高品質基準に関する情報、および保証の詳細を記載しています。

お買い求めのR-Netコントロールシステムは、工場出荷前に職員が丁寧に検品をした最高の状態でお手元にお届けしています。本書の指示に従って保守やお手入れを行なうことで、製品を最高の状態に保つことができ、お客様のご満足につながります。

コントローラーには包括的な運転設定情報が含まれており、活用していただけます。R-Netシステムには幅広い運転設定情報、モジュール、調整項目が揃っています。詳しくは、Sunrise Medicalの販売代理店にご連絡ください。

R-Netコントロールシステムは効率的でフレキシブルに、使いやすく設計されています。本システムを初めてお使いの場合、安全な環境で運転やコントローラーの操作に慣れるまで練習してください。コントロールシステムの適合性に疑問がある場合は、公道で使用する前に、お住いの地域のSunrise Medical販売代理店にご連絡ください。

R-Netシステムは完全にプログラム可能なため、プログラミングによってあらゆる要望に合わせてご使用いただけます。軽微な調整をする場合は、必ず事前にオーナーズマニュアルをお読みください。複雑な調整については、お近くのSunrise Medicalの販売代理店にお問い合わせください。

ご利用の車椅子の使用方法、メンテナンス、安全に関するご質問があれば、お住いの地域のSunrise Medical販売代理店にお問い合わせください。お住いの地域の販売代理店がわからない場合や、このほかのご質問については、下記に書面またはお電話でお問い合わせください。

サンライズメディカルジャパン株式会社

〒349-1145

埼玉県加須市間口456番地1

order@sunrisemedical.jp

TEL:0480-31-6480

Sunrise Medical社はISO 9001認証を取得しており、本製品の開発および生産の全工程において品質が保証されます。

本製品は欧州医療機器指令93/42/EECに準拠して製造されています。

販売店の署名と印鑑

2.0 保証

2.0 保証

この保証は、いかなる形でもお客様の法的権利に影響を与えるものではありません。

Sunrise Medical*はお客様に対し、保証条件で定めるとおり次の範囲で車椅子の保証を行います。

保証条件：

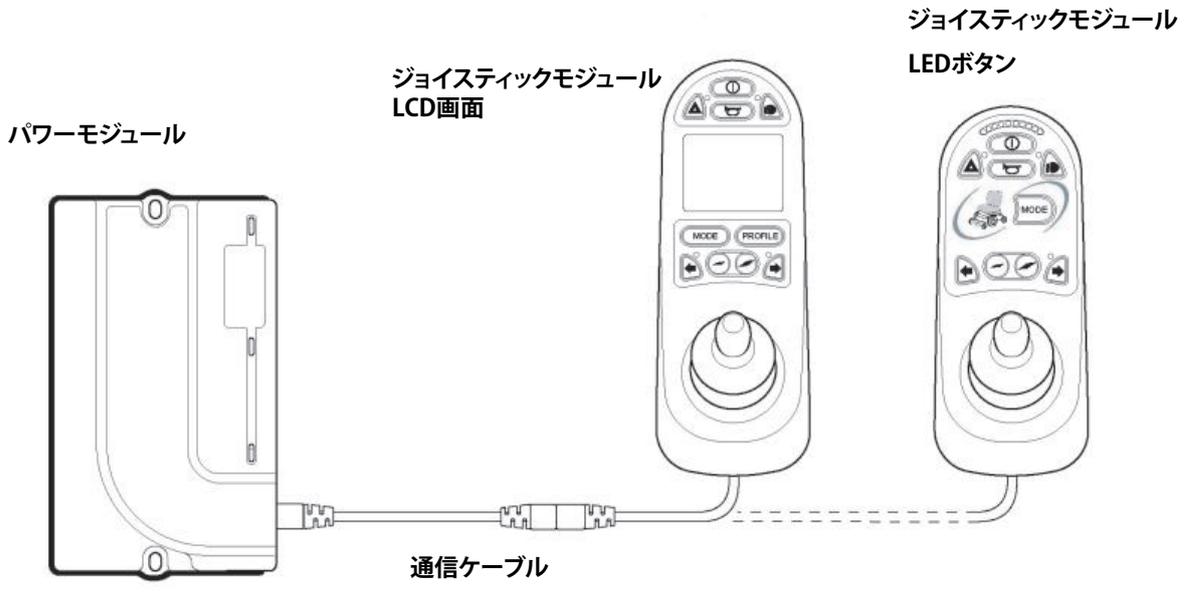
1. 製造または材質の欠陥によって車椅子の部品にお客様への納品から24か月以内に、またフレームや筋交いについては5年以内に、修理交換が必要となった場合、当該部品を無償で修理交換いたします。本保証では、製造上の欠陥のみを対象とします。
2. 保証を受けるには、問題の性質についてSunrise Medical販売代理店に詳細に連絡してください。Sunrise Medicalカスタマーサービスエージェントの管轄外にお住いのお客様に対する修理交換は、製造元が指定した別の会社が行います。車椅子の修理は、Sunrise Medicalが指定した販売代理店が行わなければなりません。
3. 本保証の範囲内で修理交換が行われた部品については、1)に定めるとおり、車椅子の残りの保証期間中この保証条件に従って保証します。
4. お客様が費用を支払って取り付けた純正スペア部品については、(取り付けから)12か月間、この保証条件に従って保証します。
5. 車椅子または部品の修理交換が次の理由で行われる場合、保証を求めることはできません：
 - a. バッテリー、アームレストパッド、クッション、タイヤ、ブレーキシューなどの通常の消耗。
 - b. 製品への過積載(使用者の体重の上限についてはECラベルを確認してください)。
 - c. 使用やサービスの指示に記載されている製造元の推奨事項に従って製品や部品のメンテナンスやサービスを行わなかった場合。
 - d. 純正アクセサリとして指定されていないアクセサリを使用した場合。
 - e. お手入れ不足、事故、不適切な使用により損傷した車椅子や部品。
 - f. 製造元の仕様から逸脱する改変を車椅子や部品に行った場合。
 - g. 販売代理店に状況を通知する前に行った修理。
6. この保証には、Sunrise Medicalから製品を購入した国の法律が適用されます*

* 製品を購入したSunrise Medicalの施設を指します。



LEDとCJSM1

図3.0



3.0 はじめに

R-Net電動車椅子コントロールシステムの操作はシンプルでわかりやすくなっています。このコントロールシステムには長年の研究によって培われた最新技術の電子部品を搭載しており、使いやすさと高い安全性を備えています。他の電子機器と同様に、本製品を正しく操作していただくことで最高の信頼性をお約束できます。車椅子の信頼性と安全性を守るために、本章を熟読してください。

R-Netコントロールシステムには必ず2個のモジュールが含まれます。ジョイスティックモジュールとパワーモジュールです。モジュール設計のため、コントロールシステムが厚くなる場合があります。図3.0は基本セットの例です。

コントロールシステム、特にジョイスティックに衝撃を与えないでください。運転中は、コントロールシステムやジョイスティックに障害物をぶつけないように注意してください。コントロールシステムは絶対に落とさないでください。車椅子を運ぶ際には、コントロールシステムが十分に保護されていることを確認してください。ケーブルを傷つけないでください。

ケーブルを外すには、コネクタハウジングをしっかりと持ち、コネクタを引き離します。ケーブルをつかんだり引っ張ったりしないでください。接続するときや接続を解除するときは、必ずコネクタを持ってください。

コントロールシステムのコンポーネントはすべて工業用グレードであるため、あらゆる条件下で信頼性の高い動作を保証します。なるべく過酷な条件を避けていただければ、コントロールシステムの信頼性がさらに高まります。

コントロールシステムやそのコンポーネントを長時間湿気にさらさないでください。コントロールシステムが食品や飲料で汚れた場合は、できるだけ早く拭き取ってください。

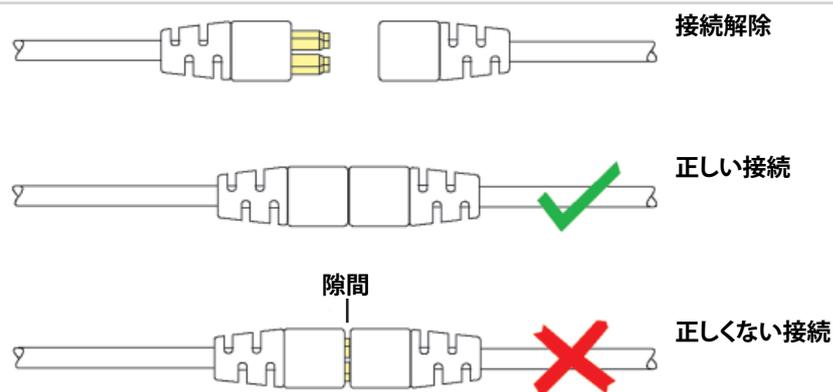
コントロールシステムとジョイスティックのお手入れは、薄めた洗剤を布に含ませて拭いてください。ジョイスティックと画面のお手入れは注意して行ってください。研磨剤やアルコール系の洗剤は絶対に使わないでください。

⚠ 警告:

お手入れの前に、コントロールシステムのスイッチが切れていて、通信ケーブルが外れていることを確認してください(図3.1を参照してください)。

接続やシステムのコンポーネントを変更後、初めてコントロールシステムのスイッチを入れると、タイマーが表示されてシステムが自己点検を行ない、その後リスタートアイコンが表示されます。コントロールシステムのスイッチを切って、入れ直してから操作します。

図3.1



3.1 R-Netジョイスティックモジュール

R-Netコントロールシステムには2つのバージョンがあります。LCD画面付きジョイスティックモジュール(図3.3)と、LEDボタン付きジョイスティックモジュールです(図3.5)。各コントロールはほぼ同じですが、違いもあります。各コントロールを本章で説明します。

3.2 ジョイスティックモジュールLCD画面(図3.3)

オン/オフボタン

オン/オフボタンでコントロールシステムの電子部品に電源を入れると、車椅子のモーターに電力が供給されます。緊急時以外は、オン/オフボタンを使って車椅子を止めないでください。(車椅子のドライブコンポーネントの寿命が短くなる場合があります)

クラクションボタン

このボタンを押すとクラクションが鳴ります。

減速ボタン

このボタンで最高速度の設定を下げます。

加速ボタン

このボタンで最高速度の設定を上げます。

モードボタン

モードボタンを押すと、コントロールシステムの有効な各操作モードを閲覧できます。有効なモードは、コントロールシステムに接続された補助出力装置の適用範囲と、プログラミングによって異なります。

設定情報ボタン

設定情報ボタンを押すと、コントロールシステムの有効な各設定情報を閲覧できます。利用できる設定情報の数は、コントロールシステムのプログラムによります。

ハザード警告ボタンとLED

このボタンで車椅子のハザードランプを有効/無効にします。ボタンを押すとハザードがオンになり、もう一度押すとオフになります。有効になると、ハザードLEDと表示部LEDは、車椅子の各表示部と同期して点滅します。

ライトボタンとLED

このボタンで車椅子のライトを有効/無効にします。ボタンを押すとライトがオンになり、もう一度押すとオフになります。有効になると、ライトLEDが点灯します。

左ウィンカーボタンとLED

このボタンで車椅子の左ウィンカーを有効/無効にします。ボタンを押すとウィンカーがオンになり、もう一度押すとオフになります。有効になると、左ウィンカーLEDは、車椅子の各表示部と同期して点滅します。

右ウィンカーボタンとLED

このボタンで車椅子の右ウィンカーを有効/無効にします。ボタンを押すとウィンカーがオンになり、もう一度押すとオフになります。有効になると、右ウィンカーLEDは、車椅子の各表示部と同期して点滅します。

外部オン/オフスイッチジャック

介助者用ボタンなどの外部装置から、コントロールシステムをオンまたはオフにできます。

外部設定情報スイッチジャック(図3.2と3.4)

このステレオジャックソケットは、適切なアダプターを使って2つの外部スイッチやボタンに接続できます。これらのスイッチやボタンの機能は、プログラミングで割り当てができます。販売代理店にご連絡ください。

ステレオプラグとの接続の詳細を以下に示します。

コントロールシステムを持続運転/アクチュエーター操作に設定している場合、外部設定情報ジャック1の極性が逆転し、緊急停止ボタンへのフェイルセーフ接続に影響します。

外部機器を接続していないときは、ジョイスティックモジュールに同梱されたゴム栓をジャックソケットに差し込んでください。

LCD画面の機能に関する詳しい説明は、第4.0章を確認してください。

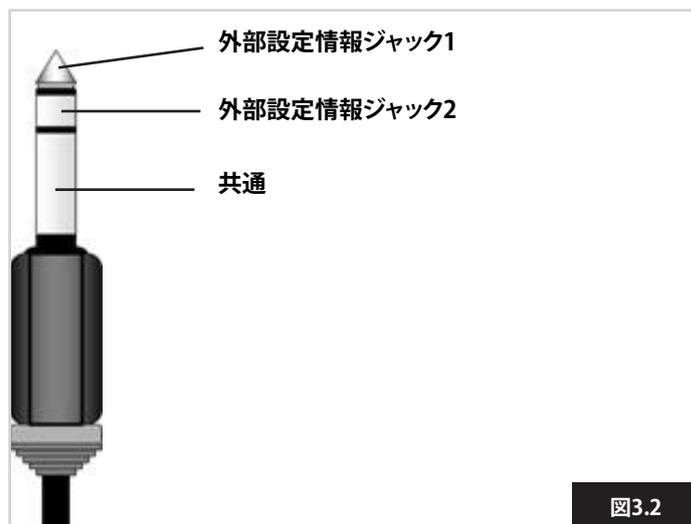


図3.2

図3.3

LCD画面付きジョイスティックモジュール

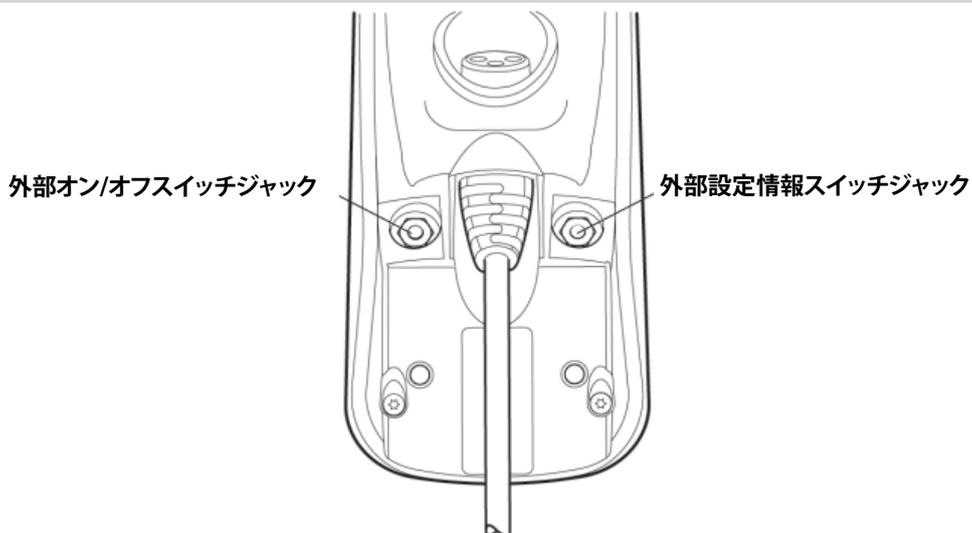


図3.4

3.3 LEDボタン付きジョイスティックモジュール(図3.5)

バッテリーゲージ

バッテリーゲージは車椅子のスイッチが入っていることを示します。また、車椅子の運転状況も示します。詳細は第5.0章で説明しています。

バッテリーゲージの色が赤と黄と緑の場合、バッテリーは充電済みです。(LEDの1~10)

バッテリーゲージの色が赤と黄のみの場合、できるだけ早くバッテリーを充電してください。(LEDの1~7)

バッテリーゲージの色が赤のみで点灯または点滅している場合、すぐにバッテリーを充電してください。(LEDの1~3)

バッテリーの残量が少ない場合は、コントロールシステムを操作しないでください。これに従わない場合、たとえば道路の真ん中の危険な場所に取り残され、立往生する可能性があります。Sunrise Medical社は、こうした条件を無視したことによって生じた損害について、一切責任を負いません。

詳細は第5.0章を参照してください。

最高速度/設定情報表示部

このゲージで車椅子の最高速度設定を示します。コントロールシステムを運転設定情報操作にプログラムしている場合は、選択済みの運転設定情報を表示します。

また、車椅子の速度が制限されているか、コントロールシステムがロックされているかも表示します。第5.21章を参照してください。

最高速度表示部

速度を表示するようにプログラムしていれば、このゲージで車椅子の最高速度設定を示します。速度は5段階で設定できます。ステップ1(1LED)が最低速度、ステップ5(5LED)が最高速度です。

設定情報表示部

設定情報を表示するようにプログラムしている場合、この表示部で選択済みの運転設定情報を示します。運転設定情報は5つまで表示でき、コントロールシステムのプログラミングによって異なります。運転の設定情報は、コントローラーのプログラムに組み込まれます。JSM-LED搭載のコントロールシステムでは、5つの設定情報を有効にしたプログラムのみとなります。プログラミングの情報については、販売代理店にご連絡ください。

速度/設定情報減少ボタン

このボタンを押すと、最高速度の設定が下がるか、運転設定情報操作のプログラムが行なわれている場合は、低い方の運転設定情報が選ばれます。

速度/設定情報増加ボタン

このボタンを押すと、最高速度の設定が上がるか、運転設定情報操作のプログラムが行なわれている場合は、高い方の運転設定情報が選ばれます。

モードボタン

モードボタンを押すと、コントロールシステムの有効な各操作モードを閲覧できます。有効なモードは、コントロールシステムに接続された補助出力装置の適用範囲と、プログラミングによって異なります。

運転とシーティング以外のモードでは、速度とアクチュエーターのLEDはすべて消えます。

アクチュエーター表示部

コントロールシステムがアクチュエーター・モードのときに、現在制御しているアクチュエーター・チャンネルを一連のLEDで示します。アクチュエーターの選択と操作はジョイスティックで行ないます。左または右に動かすと、さまざまなアクチュエーターチャンネルを選べます。

前と後ろに動かすと、選択済みのアクチュエーターを動かせます。

充電ソケット(図3.6)

このソケットは車椅子の充電専用です。このソケットにはプログラミングケーブルを接続しないでください。

充電についての詳細は第9.0章を参照してください。

このソケットを、ほかのいかなる電気機器にも電源として使わないでください。他の電気機器を接続すると、コントロールシステムを損傷したり、車椅子のEMC性能に影響を及ぼす恐れがあります。車椅子に付属のバッテリー充電器以外の機器をソケットに接続した場合、コントロールシステムの保証は無効になります。

割り当て用ボタン

ほとんどのボタンの機能はプログラミングで変更できます。たとえば、他のボタンの機能を割り当てたり、ボタンにシーティング移動機能など特定の操作のショートカットを割り当てることができます。これに加えて、ボタンに2つめの機能を持たせて、これを一定時間ボタンを押して呼び出すこともできます。

ボタンの機能変更と2つめの機能割り当てについての詳細は、販売代理店にご連絡ください。

図3.5

LEDボタン付きジョイスティックモジュール



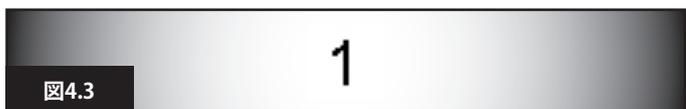
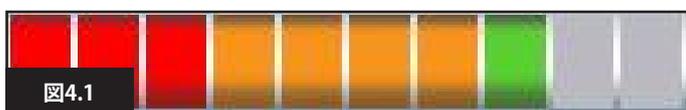
図3.6

充電器ソケット(底部)

4.0 R-Net LCD画面ジョイスティックモジュール



- A. トップバー:
B. メイン画面エリア:
C. メイン画面:



4.0 LCD画面

コントロールシステムの状態はLCD画面を見て確認できます。カラーLCD画面の情報は3分割されます。トップバー、ベースバー、メイン画面エリアです。各エリアを本章で説明します。

トップバー

バッテリーレベルと、内蔵診断を表示するバーです。

バッテリー表示部 (図4.1)

バッテリーの残量を表示し、ステータスをアラートで知らせることができます。

点灯: 良好な状態を示します。

ゆっくりと点滅: コントロールシステムは正しく機能していますが、できるだけ早くバッテリーを充電してください。

ステップアップ: 車椅子のバッテリーが充電中です。車椅子の運転は、充電器を抜いてコントロールシステムのスイッチを切り、入れ直すまでできません。

バッテリーゲージの見方の説明は、第8.1章を参照してください。

フォーカス (図4.2)

コントロールシステムに、補助ジョイスティックモジュールやデュアル介助者用モジュールなど、直接制御の方法が複数ある場合は、車椅子を制御しているモジュールにインフォーカスのマークが表示されます。

ベースバー

現在の設定情報 (図4.3)

現在選択している設定情報を数字で示します。

モーター温度 (図4.4)

熱による損傷から保護するために、コントロールシステムがモーターへの電力を意図的に下げた場合に表示されます。

コントロールシステム温度 (図4.5)

熱による損傷からコントロールシステム自体を保護するために、その電力を意図的に下げた場合に表示されます。

Indoor-Drive

図4.6

14:35

図4.7

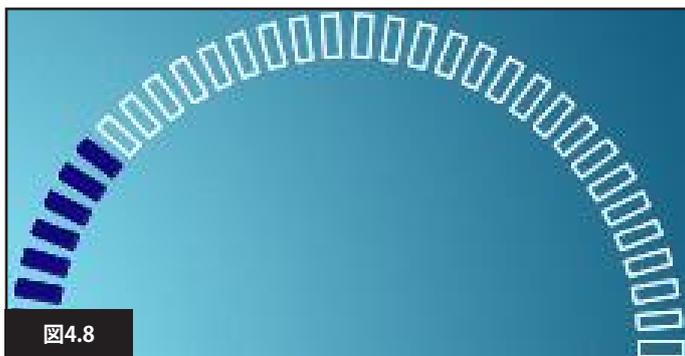


図4.8

図4.9

1.55mph

図4.19

0012.3m

図4.11

図4.12

図4.13

図4.14

4.1 メイン画面エリア:運転画面

設定情報名(図4.6)

現在選択している設定情報の名称を示す文字列です。

時計(図4.7)

現在時刻を数字で表示します。

時計はユーザーが調整できます。次のオプションを調整できます：

- ・ 可視性。時計を画面に表示するかどうか。
- ・ 表示方式。12時間制または24時間制。
- ・ 時刻。ユーザーが時刻を調整できます。

これらの調整は設定メニューで行ないます。詳細は第7.0章を参照してください。

速度表示(図4.8)

車椅子の速度を比例表示します。弧(アーク)で0%から最大100%までを表します。

最高速度表示部(図4.9)

現在の最高速度設定を表示します。

デジタル速度表示(図4.10)

各モーターから導き出した実際の車椅子の速度を表示します。mph(マイル時)またはkm/h(キロ時)に設定できます。

オドメーター(図4.11)

車椅子で運転した距離を表示します。総距離または移動距離を、マイルまたはキロメートルで表示できます。設定メニューのオプションで、表示を移動距離にするか総距離にするかを設定します。移動距離をリセットする便利な機能もあります。持続操作が作動している場合は、そのマークがオドメーターよりも優先されます。

持続(図4.12)

コントロールシステムを持続状態で操作しているときに、このマークが表示されます。

制限(図4.13と4.14)

車椅子の速度が、たとえば高い座席によって制限されている場合、このオレンジ色のマークが表示されます。

車椅子の運転が禁止されている場合、この赤色のマークが点滅します。



4.2 メイン画面エリア:モード画面

モードボタンを押すと、さまざまな機能にアクセスできます。よく使う機能の例としては、運転モード、シーティング・コントロールモード、Bluetoothモードがあります。ジョイスティックモジュールにあるモードボタンから必要なモードを選択できます。メモ:モードを選択できるのは、そのモードに対応するモジュールをシステムに接続している場合のみです。たとえば、マウスモジュールを接続していなければ、そのモードを選択できません。

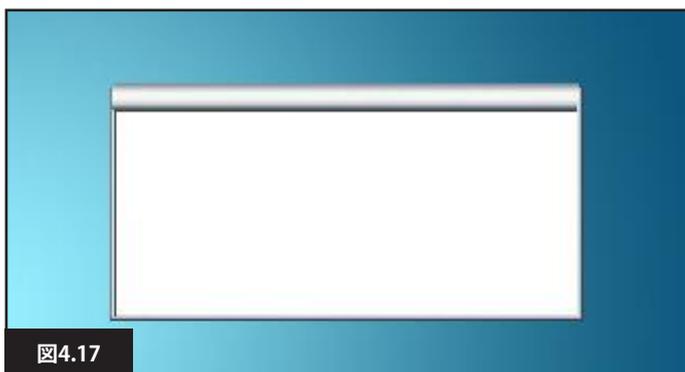
アクチュエーターモード(図4.15)

作動対象として現在選択している椅子の部分の絵と、その名称、作動方法を示す矢印を表示します。



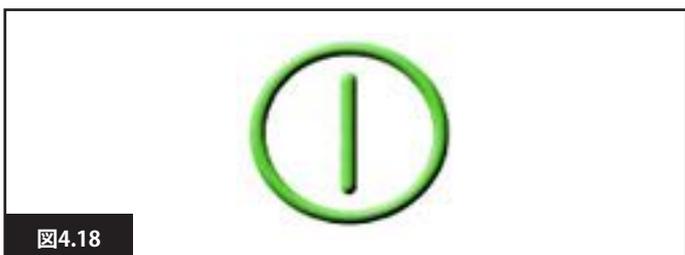
Bluetoothモード、マウス(図4.16)

Bluetoothモードに入ると次の画面が表示されます。



メッセージウィンドウ(図4.17)

R-Netでは警告アイコンと情報メッセージを専用のメッセージウィンドウに表示します。



リスタート(図4.18)

コントロールシステムの再起動が必要なとき、たとえばモジュールの再設定後は、このマークが点滅します。



タイマー

コントロールシステムの状態が変化するときに表示されます。たとえば、プログラミングモードに移行するときです。砂時計のアニメーションになっています。



図4.20

スリープ(Sleep) (図4.20)

このマークはR-Netがスリープに移行する前に、短時間表示されます。

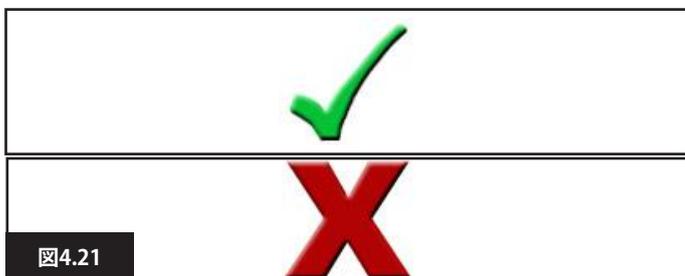


図4.21

バツとチェックマーク (図4.21)

これらのマークは設定手順を行なっている間に表示されます。

1. 正しく完了しました。
2. 正しく完了しませんでした。



図4.22

緊急停止 (図4.22)

運転中またはアクチュエーター操作中に外部設定情報スイッチが有効になっている場合、このマークが表示されます。



図4.23

ジョイスティックのずれ (図4.23)

コントロールシステムのスイッチを入れる前か入れた直後にジョイスティックを操作すると、ジョイスティック表示画面が点滅します。

ジョイスティックを離して中央に戻し、通常の操作を再開してください。5秒以内にジョイスティックを離さなかった場合、その後でジョイスティックを離して操作し直しても、車椅子は動きません。この場合、診断画面が表示されます。この状態をリセットするには、コントロールシステムのスイッチを切ってから入れ直します。



4.3 メイン画面エリア:診断(図4.24)

コントロールシステムの安全回路が作動中で、コントロールシステムから車椅子を操作できなくなっています。診断画面が表示されます。

システムのエラーです。車椅子の電気システムのどこかに問題があることをR-Netが検知しました。

エラーがインテリジェントシーティングモジュールなどの作動しないモジュールで起きて、運転設定情報が選択されている場合、運転はできますが、診断画面が断続的に表示されます。

画面エリア 図4.24

A. エラーコード

4桁のコード表示から、記録されたエラーがわかります。

B. 判明モジュール

コントロールシステムの中で問題があると判明したモジュールを示します。たとえば:

- PM = パワーモジュール
- JSM = ジョイスティックモジュール
- ISM = インテリジェントシーティング/ライティングモジュール

C. エラーテキスト

エラータイプの短い説明です。



診断手順 図4.25(例)

判明モジュール (PM): = パワーモジュール
 エラーテキスト: = バッテリー低
 エラーコード: = 2C00

バッテリーの充電が必要か、またはバッテリーの接続が正しくありません。

バッテリーの接続部を点検します。接続部に問題がない場合は、バッテリーを充電します。

次の手順に従ってください:

- 表示されたエラーテキスト、判明モジュール、エラーコードを読み取り、メモしてください。
- コントロールシステムのスイッチを切ります。
- 表示されたモジュールと車椅子のコネクターがすべてしっかりと接続されていることを確認します。
- バッテリーの状態を点検します。
- エラーテキストの説明をメモします。
- コントロールシステムのスイッチを入れ直して、車椅子を運転します。安全回路が再び作動した場合はスイッチを切り、車椅子のご使用をおやめください。
- 販売代理店にご連絡ください。

4.4 ジョイスティックモジュールのロック (図4.26～4.29)

車椅子をロックするには:

- コントロールシステムのスイッチを入れた状態で (図4.26)、オン/オフボタンを長押しします。
- 1秒後、コントロールシステムの警告音が鳴り、画面が点滅します (図4.27)。ここでオン/オフボタンを離します。
- コントロールシステムが警告音を出すまで、ジョイスティックを前に倒します。
- コントロールシステムが警告音を出すまで、ジョイスティックを後ろに倒します。
- ジョイスティックを離すと、長い警告音が鳴ります。
- これで車椅子がロックされました。
- 次回コントロールシステムのスイッチを入れたときに、図4.28のアイコンが表示されます。
- LEDジョイスティックモジュールをお使いの場合、速度表示部のLEDが左から右に移動します。
- 車椅子のロックを解除するには:
- コントロールシステムのスイッチが切れている場合は、オン/オフボタンを押します。[ロック]のマークが表示されます (図4.28)。
- コントロールシステムが警告音を出すまで、ジョイスティックを前に倒します。
- コントロールシステムが警告音を出すまで、ジョイスティックを後ろに倒します。
- ジョイスティックを離します。長い警告音がして、画面が点灯します (図4.29)。
- これで車椅子のロックが解除されました。



図4.26



図4.27



図4.28



図4.29



図4.30

4.4 アクチュエーター選択画面

この画面はモードボタンからアクセスできます。シーティングの位置を調整するには、アクチュエーター画面を表示させます。モードボタンを押して、モード画面をスクロールし、アクチュエーター画面を探します(図4.30)。

アクチュエーターの調整は次の手順で行ないます。

- ジョイスティックを横方向の左または右に動かして、操作したい軸を選択します(図4.31)。軸は車椅子の部分をハイライトして表示されます(図4.32)。
- ジョイスティックを前または後ろに動かすことで、これに対応するアクチュエーターを動かします。(図4.33)。
- 調整が必要なアクチュエーターごとに、この手順を繰り返します。
- 再び運転をするには、運転画面に変わるまでモードボタンを押します。LEDジョイスティックモジュールの場合は、速度表示部が通常表示に戻るまで行ないます。

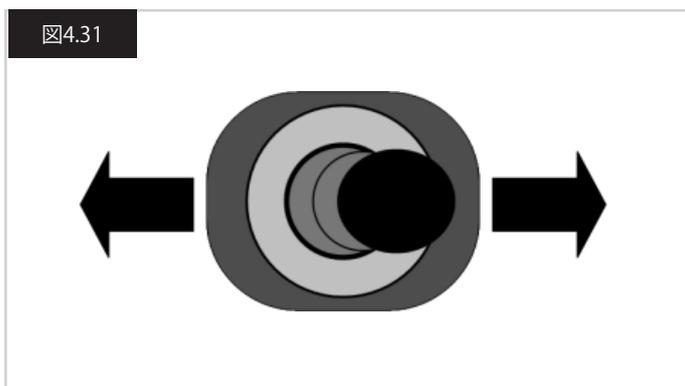


図4.31



図4.32

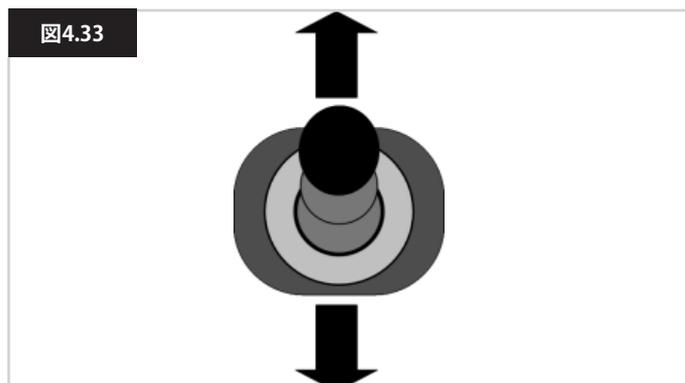


図4.33

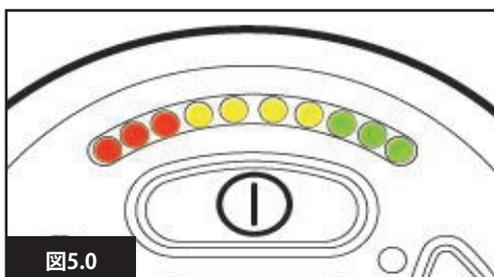


図5.0

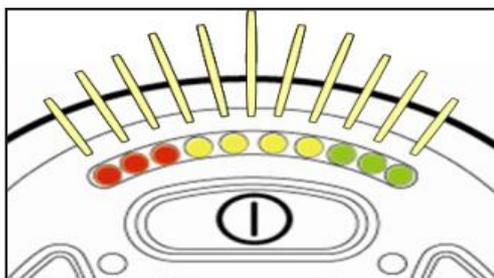


図5.1

毎秒1回

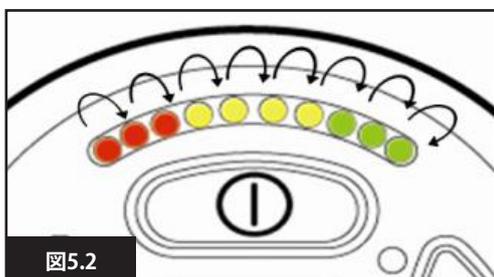


図5.2

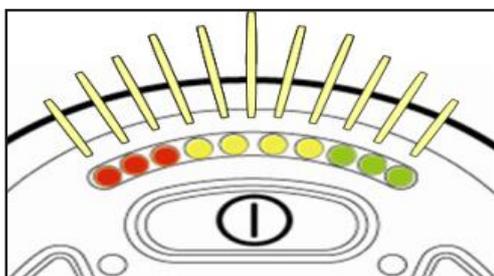


図5.3

毎秒2回

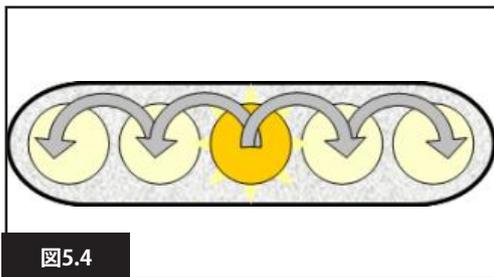


図5.4

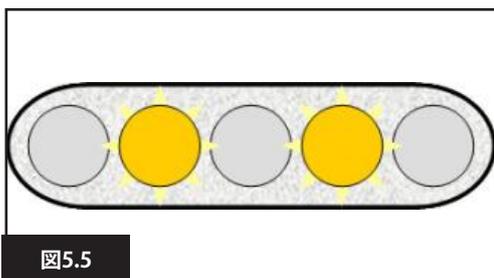


図5.5

5.0 R-Net LEDジョイスティックモジュール

5.1 LEDコントロールシステムの状態表示

バッテリーゲージと最高速度/設定情報の表示部は、コントロールシステムの状態を示します。

本章の指示に従って診断と対処をすれば、最初は難しく思えた問題も簡単に解決できる場合があります。

バッテリーゲージが点灯している(図5.0)

良好な状態を示します。

バッテリーゲージがゆっくりと点滅している(図5.1)

コントロールシステムは正しく機能していますが、できるだけ早くバッテリーを充電してください。

バッテリーゲージが徐々に上がっている(図5.2)

車椅子のバッテリーが充電中です。車椅子の運転は、充電器を抜いてコントロールシステムのスイッチを切り、入れ直すまでできません。

バッテリーゲージが高速で点滅する(ジョイスティックを解除していても)(図5.3)

コントロールシステムの安全回路が作動中で、コントロールシステムから車椅子を操作できなくなっています。システムのエラーです。車椅子の電気システムのどこかに問題があることをR-Netが検知しました。次の手順に従ってください：

- ・ コントロールシステムのスイッチを切ります。
- ・ 車椅子とコントロールシステムのコネクターがすべてしっかりと接続されていることを確認します。
- ・ バッテリーの状態を点検します。
- ・ 問題が見つからない場合は、次のページの第5.6～5.22章に記載する自己解決ガイドをご覧ください。
- ・ コントロールシステムのスイッチを入れ直して、車椅子を運転します。安全回路が再び作動した場合はスイッチを切り、車椅子のご使用をおやめください。
- ・ 販売代理店にご連絡ください。

速度表示部の点灯が中央から外側に移動(図5.4)

このとき、LEDは中央から両側の端に向かって移動するように動作します。コントロールシステムは、新しいモジュールが追加され、再構成していることを検知しました。終わるまで数秒お待ちください。

速度表示部の第2と第4LEDが点滅(図5.5)

コントロールシステムの再起動が必要なとき、たとえばモジュールの再設定後は、2番目と4番目の速度表示部LEDが点滅します。

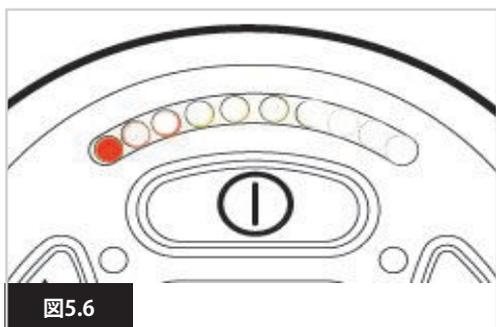


図5.6

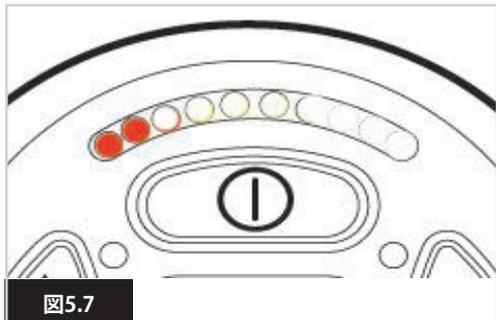


図5.7

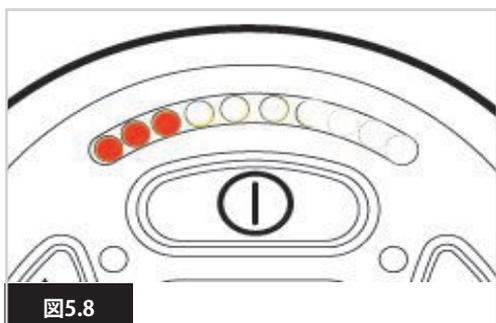


図5.8

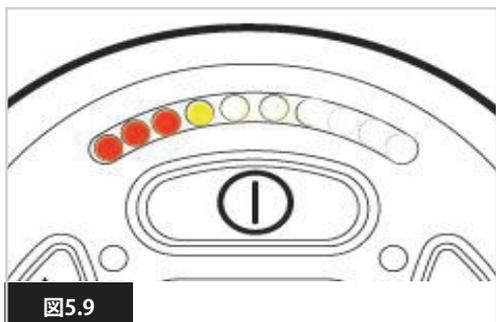


図5.9

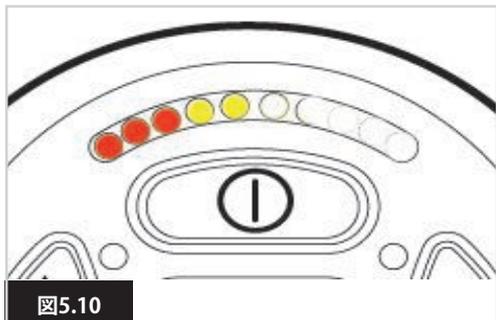


図5.10

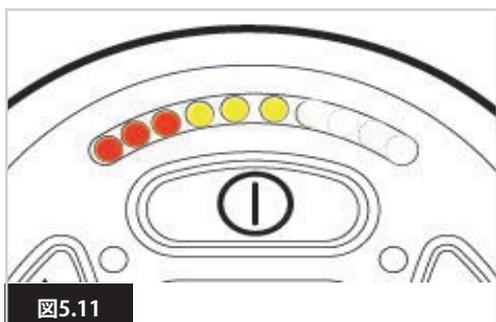


図5.11

5.2 自己解決ガイド

システムエラーが起きた場合、バッテリーゲージで点滅中のLEDの数を確認すると、エラーの内容を確認できます。以下に自己解決の手順を挙げていきます。販売代理店へご連絡の前に、これらの手順をお試ください。点滅中のLEDの数的一致する箇所の説明に従ってください。下記の手順を実施しても問題が解決しない場合、販売代理店にご連絡ください。

1LED(図5.6)

バッテリーの充電が必要か、またはバッテリーの接続が正しくありません。バッテリーの接続部を点検します。接続部に問題がない場合は、バッテリーを充電します。

2LED(図5.7)

左側モーター*の接続不良です。左側モーターへの接続部を点検します。

3LED(図5.8)

左側モーター*のバッテリー接続部がショートしています。販売代理店にご連絡ください。

4LED(図5.9)

右側モーター*の接続不良です。右側モーターの接続部を点検します。

5LED(図5.10)

右側モーター*のバッテリー接続部がショートしています。販売代理店にご連絡ください。

6LED(図5.11)

車椅子が外部信号から操作できないようになっています。原因はお使いの車椅子のタイプによって異なりますが、ひとつにはバッテリー充電器が接続されていることが考えられます。

7LED(図5.12)

ジョイスティックの不具合を示します。コントロールシステムのスイッチを入れる前に、ジョイスティックの位置が中央になっていることを確認してください。

8LED(図5.13)

コントロールシステムに不具合の可能性があります。すべての接続部がしっかりと接続されていることを確認します。

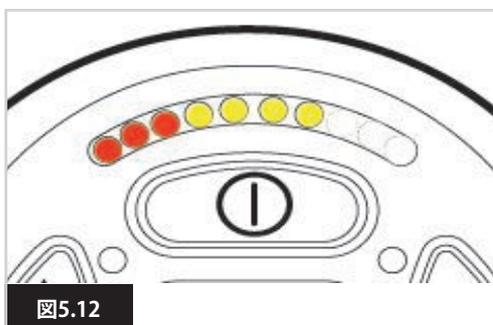


図5.12

9LED (図5.14)

駐車ブレーキの接続が正しくありません。駐車ブレーキとモーターの接続部を点検します。接続部がしっかりと接続されていることを確認します。

10LED (図5.15)

コントロールシステムにかかる電圧が高すぎます。バッテリーの接続が悪い時に起こります。バッテリーの接続部を点検します。

7LED + 速度LED (図5.16)

通信障害を示します。ジョイスティックのケーブルがしっかりと接続され、損傷がないことを確認します。

アクチュエーターLEDの点滅 (図5.17)

アクチュエーターのエラーを示しています。アクチュエーターが複数付いている場合、正しく動いていないアクチュエーターを探してください。アクチュエーターの配線を点検します。

動きが遅い、鈍い

車椅子の走行速度が遅かったり反応が鈍いのにバッテリーの状態に問題がない場合は、最高速度の設定を確認します。速度設定を調整しても問題が解決しない場合、危険性をともなわない不具合の可能性があります。販売代理店にご連絡ください。

速度表示のLED

点灯するLEDの数が増える場合は最高速度の設定を示します。たとえば、設定が速度レベル4の場合、左側4つのLEDが点灯します。

設定情報表示のLED

1つだけ点灯する場合は、選択済みの運転設定情報を示します。たとえば、運転設定情報4を選択している場合、左から4番めのLEDのみが点灯します。

最高速度/設定情報表示が伸び縮みする

コントロールシステムがロックされています。詳しくは、第4章の4.32を参照してください。

最高速度/設定情報表示部が点滅する

安全確保のために、車椅子の速度が制限されています。原因は車椅子のタイプによって異なりますが、ほとんどの場合はシーティングの位置が高くなっているためです。

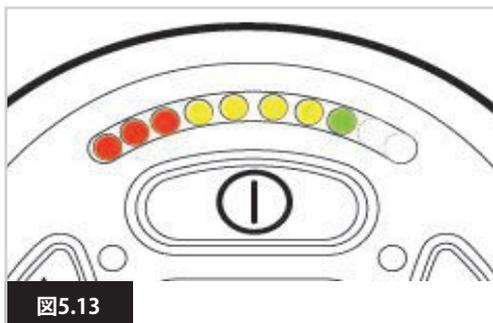


図5.13

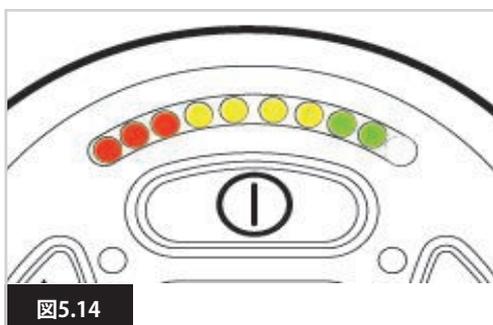


図5.14

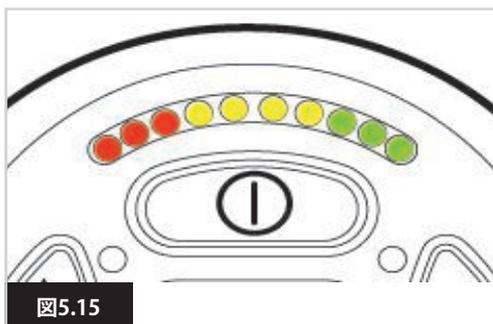


図5.15

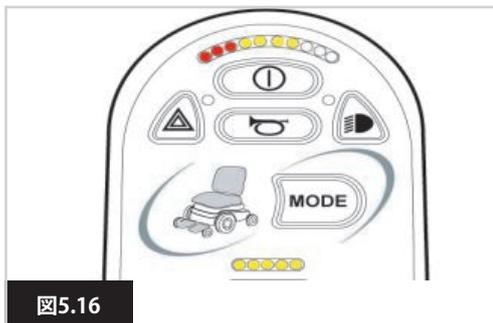


図5.16



図5.17

6.0 運転の準備

6.1 運転の準備

- ・ オン/オフスイッチを操作します。初期化画面の後で、基本画面が表示されます (図6.0)。
- ・ JSM-LEDの場合、バッテリーゲージが点滅してから数秒後に、連続点灯になります。
- ・ お客様に適切な速度設定になっているかを確認します。
- ・ ジョイスティックを押して、車椅子の速度と方向を制御します。

⚠ 警告:

- ・ コントロールシステムのスイッチを入れる前か入れた直後にジョイスティックを押すと、ジョイスティック表示画面が点滅します (図6.1)。
- ・ ジョイスティックを離して中央に戻し、通常の操作を再開してください。5秒以内にジョイスティックを離さなかった場合、その後でジョイスティックを離して押し直しても、車椅子は動きません。
- ・ この場合、診断画面が表示されます。この状態をリセットするには、コントロールシステムのスイッチを切ってから入れ直します。



図6.1

図6.0





図6.2

6.2 コントロールシステムの使用について

コントロールシステムが確実に取り付けられ、ジョイスティックの位置が正しいことを確認します(図6.2)。ジョイスティックを操作する手や腕などは、車椅子のアームパッドなどで支えておいてください。ジョイスティックを手や腕だけに頼って操作すると、車椅子が動いたりぶつかったりして制御が狂う場合があります。

運転技術

コントロールシステムはジョイスティックの動きを変換して、車椅子を適切に動かします。車椅子の制御が簡単なのは、システムに比例制御を採用しているためで、特に運転が未経験のお客様に効果的です。使いやすい技術のひとつは、ジョイスティックを行きたい方向に向ける操作です(図6.3)。ジョイスティックを押す方向に車椅子が「追尾」します。

ジョイスティックを静止位置から離すように強く押すほど、車椅子は速く進みます。ジョイスティックを離すと車椅子は止まります。インテリジェント・スピードコントロールシステムが、傾斜やあらゆる地形による影響を最小限に抑えます。

動きが遅い、鈍い

車椅子の走行速度が遅かったり反応が鈍いのにバッテリーの状態に問題がない場合は、最高速度の設定を確認します(図6.4)。速度設定を調整しても問題が解決しない場合、危険性をともなわない不具合の可能性があります。販売代理店にご連絡ください。

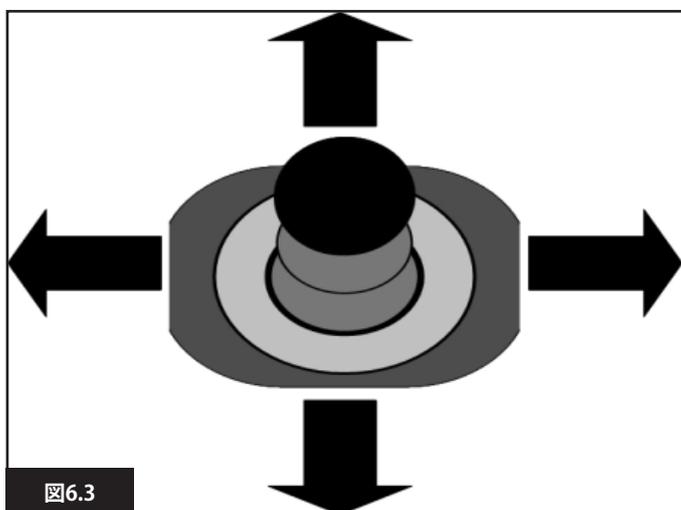


図6.3

⚠ 警告:

- 利用者は車椅子を安全に運転できなければなりません。Sunrise Medical社は、こうした条件を無視したことによって生じた損害について、一切責任を負いません。
- ご不明な点がありましたら、詳細情報やアドバイスを提供できる医療従事者にお問い合わせください。



車椅子の運転技術などに関する全般の説明やアドバイスについては、お使いの車椅子のオーナーズマニュアル/取扱説明書をご覧ください。

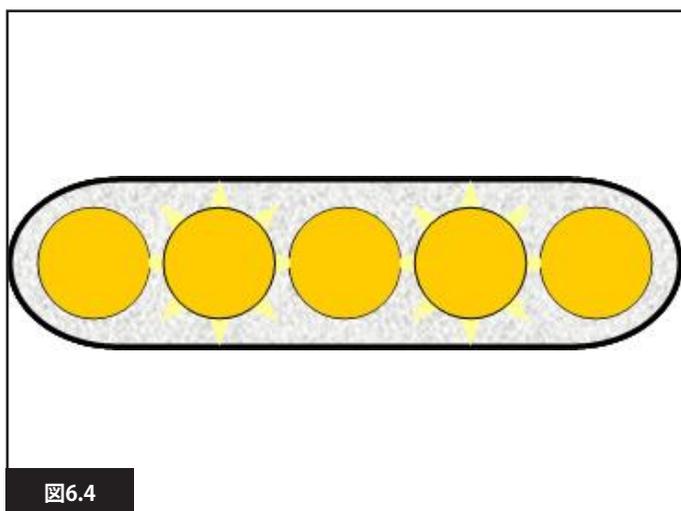
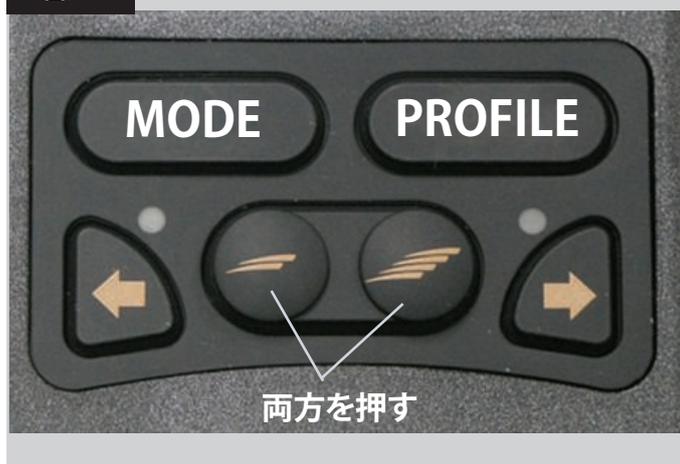


図6.4

7.0 設定メニュー

図7.0



7.1 設定メニュー

設定メニューでは、LCD画面を使って時計の調整と表示方式、バックライトの明るさ、背景色、オドメーターの動作などを変更できます。設定メニューに入るには、加速ボタンと減速ボタンを同時に押します(図7.0)。

設定メニューの表示例を図7.1に示します。

各メニュー項目を以下の各章で説明します：

7.2 時間設定(Set Time)

- ・ ジョイスティックを右へ倒すと、時計調整画面に変わります(図7.2)。
- ・ 時計調整画面に調整できる次の6パラメーターが表示されます：
- ・ 年、月、日、曜日、時間、分。終了(Exit)のオプションも表示されます(図7.2)。
- ・ 選択したパラメーターの値は、ジョイスティックを前に倒すと上がり、後ろに倒すと下がります。
- ・ ジョイスティックを右に倒すと次のパラメーターが選択され、左に倒すと前のパラメーターが選択されます。
- ・ 日時を設定したら、最後に右に倒して終了(Exit)を選択し、次に前か後ろに倒して、時計調整画面を終了します。

図7.1

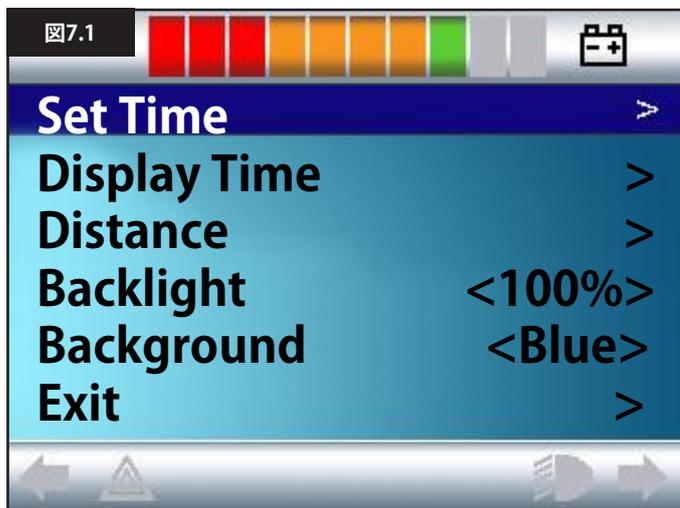
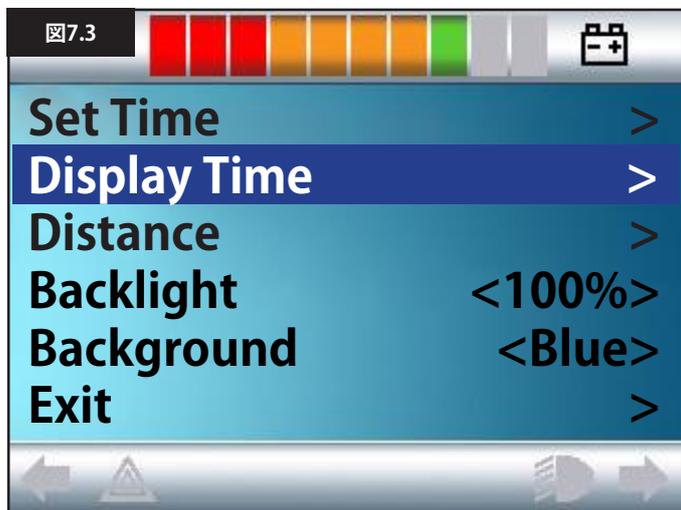


図7.2

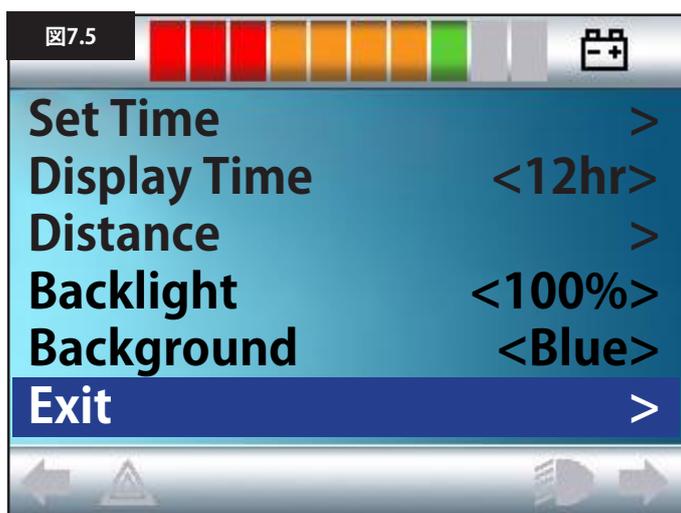
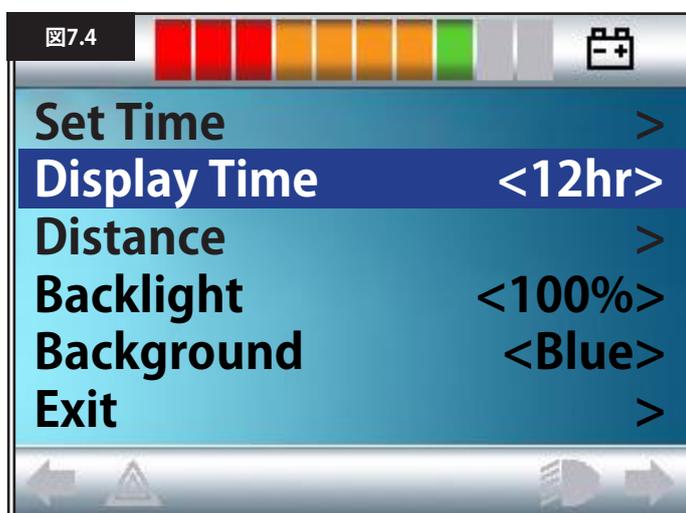


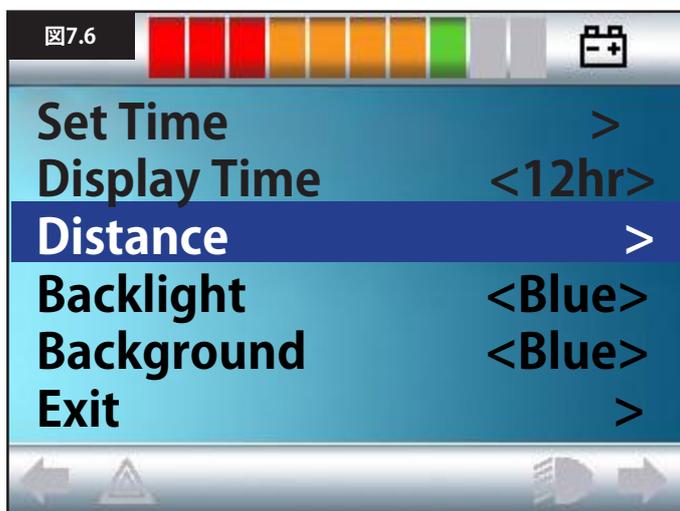


7.3 時間表示(Display Time)

時間表示の方式をセットしたり、表示をオフにしたりします。12時間制、24時間制、オフから選びます。ジョイスティックを左右に倒して選びます。

- ジョイスティックを後ろに倒して[時間表示](Display Time)を選択します(図7.3)。
- ジョイスティックを左に倒すと12時間制、もう一度左に倒すと24時間制、さらにもう一度左に倒すとオフを選択できます(図7.4)。
- ジョイスティックを前または後ろに動かして選択し、同時に時間表示(Display Time)を終了します。
- ジョイスティックを後ろに倒して[終了](Exit)を選択します(図7.5)。
- ジョイスティックを右に倒して終了し、運転画面に戻ります。





7.4 距離(Distance)

オドメーターの機能を設定します。距離のオプションを選ぶには：

- ・ ジョイスティックを後ろに倒して[距離](Distance)をハイライトさせます(図7.6)。
- ・ ジョイスティックを右に倒してオプションを選びます。
- ・ 次の画面が表示されます(図7.7)。

総距離(Total Distance)

パワーモジュールに保持された値で、そのパワーモジュールを使って運転した総距離を表します。

移動距離(Trip Distance)

ジョイスティックモジュールに保持された値です。前回のリセット以降の総運転距離を表します。

表示距離(Display Distance)

LCD画面のオドメーターへの表示を、[総距離](Total Distance)にするか[移動距離](Trip Distance)にするかを設定します。

- ・ ジョイスティックを後ろに動かして[表示距離](Display Distance)をハイライトさせます。
- ・ ジョイスティックを右に倒して[総](Total)または[移動](Trip)を選びます。
- ・ ジョイスティックを後ろまたは前に動かして[表示距離](Display Distance)を終了します。

移動距離の削除(Clear Trip Distance)

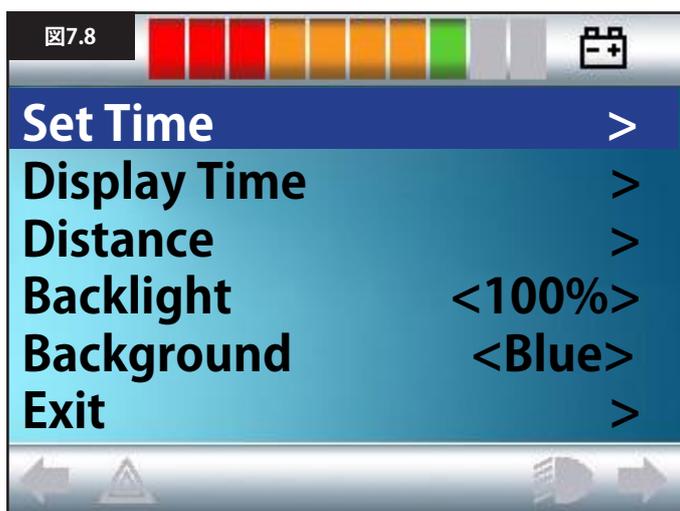
移動距離(Trip Distance)の値を消すには：

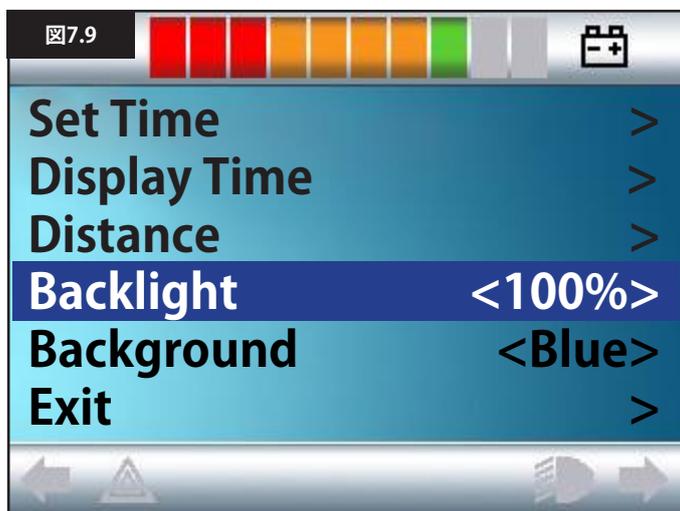
- ・ ジョイスティックを後ろに倒して[移動距離を削除](Clear Trip Distance)をハイライトさせます。
- ・ ジョイスティックを右に動かすと表示された値が消えます。
- ・ ジョイスティックを後ろまたは前に倒して[移動距離を削除](Clear Trip Distance)を終了します。

終了(Exit)

ジョイスティックを後ろに動かして[終了](Exit)をハイライトさせます。

ジョイスティックを右に倒すと設定メニューに戻ります(図7.8)。





7.5 表示設定

バックライト(Backlight) (図7.9)

LCDバックライトの明るさを設定します。調整範囲は0%~100%で、10%刻みです。

- ジョイスティックを後ろに動かして[バックライト](Backlight)をハイライトさせます。
- ジョイスティックを右に倒すと値が上がります。
- ジョイスティックを左に倒すと値が下がります。
- ジョイスティックを前または後ろに倒すと設定画面に戻ります。

背景(Background) (図7.10)

画面の背景色を設定します。青が標準色ですが、太陽光が明るすぎる場合は、背景を白にすると見えやすくなります (図7.11)。青、白、自動から選びます。

- ジョイスティックを後ろに倒して[背景](Backlight)をハイライトさせます。
- ジョイスティックを右に動かして[青、白、自動](Blue, White or Auto)から選択します。
- ジョイスティックを後ろまたは前に倒して[背景](Background)を終了します。

青を選ぶと設定情報の背景はすべて青色になります。白を選ぶと設定情報の背景はすべて白色になります。自動を選ぶとインストール済みのプログラムが自動で背景色を設定します。たとえば、青色は屋内使用時にゆっくり設定情報を表示させ、白色は屋外使用時に素早く設定情報を表示させることができます。このパラメーターの詳細については、販売代理店にお問い合わせください。

終了(Exit)

- ジョイスティックを後ろに動かして[終了](Exit)をハイライトさせます。
- ジョイスティックを右に倒すと設定メニューに戻ります (図7.8)。

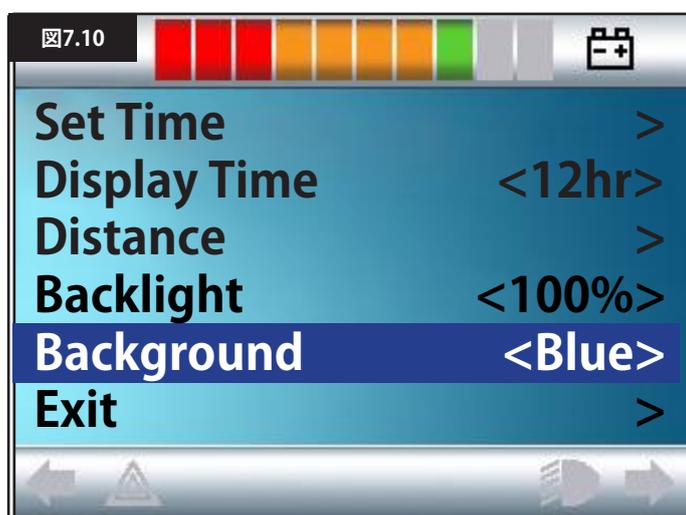




図8.0

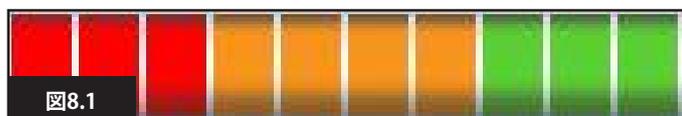


図8.1

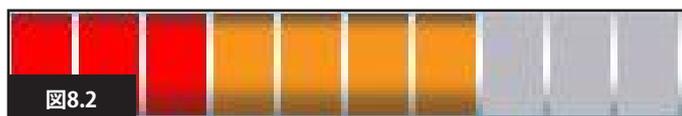


図8.2

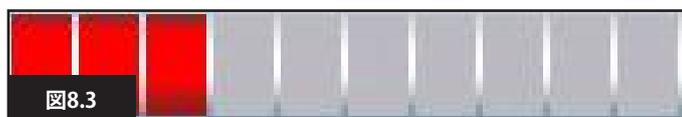


図8.3

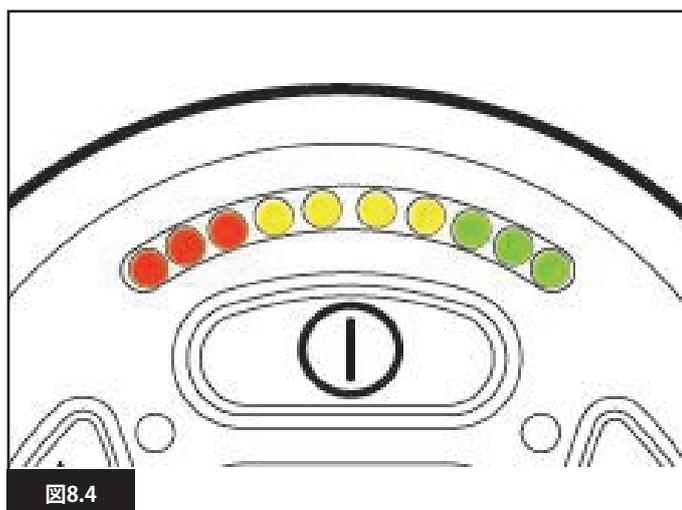


図8.4

8.0 バッテリーゲージ

バッテリーゲージが搭載されており、バッテリー残量がわかります。最適な活用方法は、車椅子の運転中にゲージに注目していただくことです。車の燃料計と同様に、100%正確ではありませんが「燃料」切れを防止できます(図8.0)。

バッテリーゲージは次のように動作します：コントロールシステムのスイッチを入れると、バッテリーゲージにバッテリー残量の推定値が表示されます。車椅子を運転して約1分経過すると、より正確な値がバッテリーゲージに表示されます。

使い終わったバッテリーを交換する際は、Sunrise Medical社が推奨するタイプのバッテリーをご使用ください。他のタイプを使用すると、バッテリーゲージが不正確になる場合があります。お使いのバッテリーの充電量は、車椅子の使い方、バッテリーの温度、経年数、製造方法など、複数の要因に左右されます。これらの要因は、お使いの車椅子で走行できる距離に影響します。車椅子のバッテリーはいずれも、経年につれて徐々に容量が減っていきます。

バッテリーの寿命を短くする最大の要因は、再充電の前のバッテリー使用量です。バッテリーの寿命は、バッテリーの充電と放電の回数によっても短くなります。

バッテリーの寿命を延ばすためには、完全に使い切らないようにしてください。そして必ず、放電されたらすぐに充電をしてください。

バッテリーゲージの表示がいつもより早く低下している場合は、バッテリーが摩耗している可能性があります。

販売代理店にご相談ください。

8.1 バッテリーゲージの読み方

バッテリーゲージの色が赤と黄と緑の場合、バッテリーは充電済みです。(図8.1)

バッテリーゲージの色が赤と黄のみの場合、できるだけ早くバッテリーを満充電してください。(図8.2)

バッテリーゲージの色が赤のみで点灯または点滅している場合、すぐにバッテリーを満充電してください。(図8.3)。

LEDボタン付きジョイスティックモジュールの色付きLEDは、LCD付きジョイスティックモジュールのカラーバーに相当します(図8.4)。

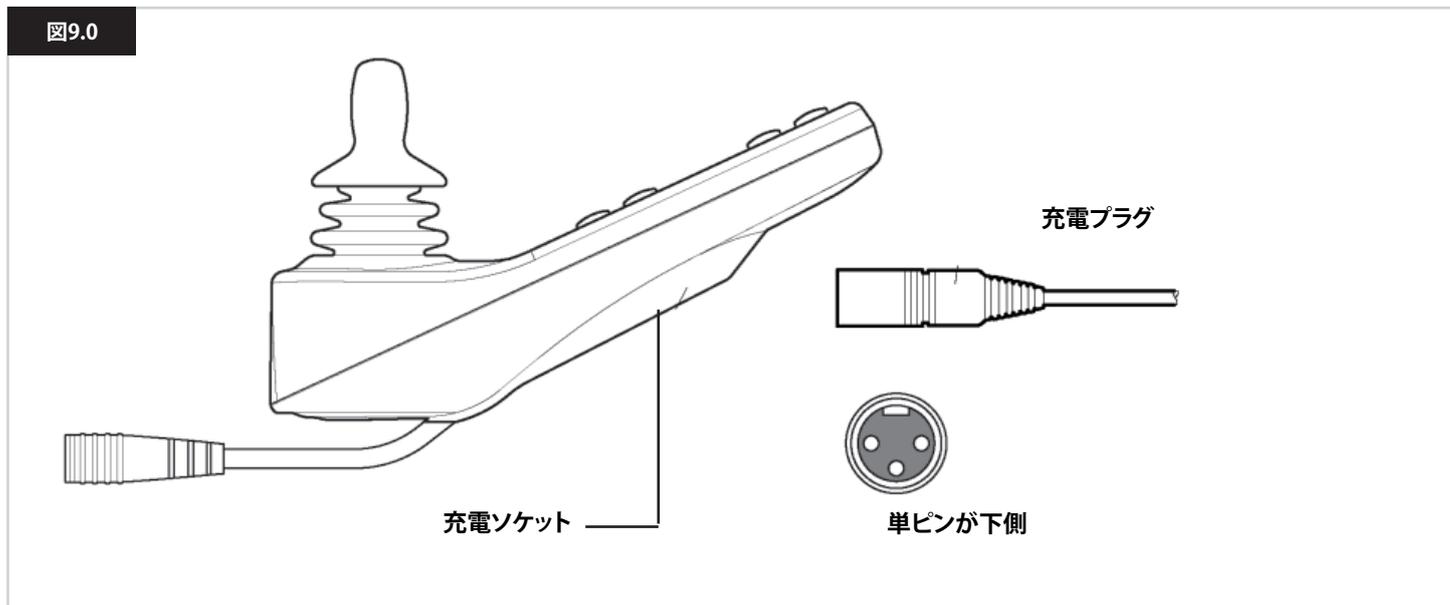
⚠ 警告:

バッテリーの残量が少ない場合は、コントロールシステムを操作しないでください。これに従わない場合、たとえば道路の真ん中の危険な場所に取り残され、立往生する可能性があります。Sunrise Medical社は、こうした条件を無視したことによって生じた損害について、一切責任を負いません。



バッテリーとバッテリー充電全般の使い方やアドバイスについては、お使いの車椅子のオーナーズマニュアル/取扱説明書、およびバッテリー充電器に付属のオーナーズマニュアルをご覧ください。

図9.0



9.1 バッテリーの充電

車椅子バッテリーを充電するには：

- 充電プラグをR-Netジョイスティックモジュールにあるバッテリー充電ソケットに接続します。
- 充電器の接続中は車椅子を運転できません。
- 充電プラグを接続するには、図9.0に示すように単ピンが下側にあることを確認して、充電プラグを水平にR-Netに差し込みます。
- R-Net側の型押しガイドからプラグの位置を確認できます。プラグは所定の位置で奥まで押し込んでください。

⚠ 警告：

- 最大充電電流の実効値12Aを超えないようにしてください。必ず本体外のNeutrik NC3MX付き充電器をご使用ください。これに従わない場合、充電器コネクタ内の接触抵抗に不良が生じ、充電プラグが過熱する恐れがあります。これによって、ユーザーがやけどする恐れがあります。Sunrise Medical社は、こうした条件を無視したことによって生じた損害について、一切責任を負いません。
- 充電中は、バッテリーを取り外したりブレーカーの回路を開放したりしないでください。これに従わない場合、やけどや火災が発生する恐れがあります。
- Sunrise Medical社は、こうした条件を無視したことによって生じた損害について、一切責任を負いません。

⚠ 警告：

- 必ず、お客様の車椅子に付属のバッテリー充電器をお使いください。
- 不適切な充電器を使用すると、バッテリー、車椅子、コントロールシステム、または充電器自体を損傷する恐れがあります。あるいは、部品が過熱されてやけどや場合によっては火災を引き起こす恐れがあります。
- 車椅子システムのコントロールシステムやその他の部品と互換性のない充電器を使用した場合、Sunrise Medical社は一切責任を負いません。



バッテリーとバッテリー充電全般の使い方やヒントについては、お使いの車椅子のオーナーズマニュアル/取扱説明書、およびバッテリー充電器に付属のオーナーズマニュアルをご覧ください。

10.0 デュアル介助者用コントロールモジュール

図10.0



メモ: 第10.1～10.9章 図10.0を参照

10.1 ジョイスティック

車椅子の速度と方向を制御します。行きたい方向にジョイスティックを押してください。強く押すほど速度が上がります。ジョイスティックを離すと車椅子が止まり、自動でブレーキがかかります。アクチュエーター・コントロールモードでは、ジョイスティックを左または右に押すと、有効なアクチュエーター間で選択を確定できます。ジョイスティックを前または後ろに操作すると、選択したアクチュエーターを調整できます。

10.2 最高速度表示部

このゲージで車椅子に設定された最高速度を表示します。また、車椅子の速度が制限されているか、コントロールシステムがロックされているかも表示します。第5.21章を参照してください。速度は5段階で設定できます。ステップ1(1LED)が最低速度、ステップ5(5LED)が最高速度です。

10.3 加速/減速ボタン

このボタンを押すと、最高速度の設定を増減できます。

10.4 モードボタン

モードボタンを押すと、コントロールシステムの有効な各操作モードを閲覧できます。有効なモードは、コントロールシステムに接続された補助出力装置の適用範囲と、プログラミングによって異なります。運転とシーティング以外のモードでは、速度とアクチュエーターのLED(ユーザーモジュール)はすべて消えます。

10.5 コントロール表示灯

ユーザーと介助者のどちらが制御しているかを示します。車椅子の赤ライトが点灯していれば、ユーザー側の入力装置が制御しています。介助者の緑ライトが点灯していれば、介助者用モジュールが制御しています。

10.6 コントロールスイッチ

ユーザー側の入力装置と介助者用モジュールとの間で、車椅子のドライブコントロールを切り替えます。

10.7 注意事項

1. コントロールシステム、特にジョイスティックに衝撃を与えないでください。
2. 車椅子を運ぶ際には、コントロールシステムが十分に保護されていることを確認してください。
3. コントロールシステムの寿命を保つには、なるべく過酷な条件を避けてください。コントロールシステムが食品や飲料で汚れた場合は、必ずきれいにしてください。
4. 水で薄めた洗剤を布をお使いください。研磨剤やアルコール系の洗剤は使わないでください。

10.8 毎日のチェック

ジョイスティック:

コントロールシステムのスイッチを切り、ジョイスティックが曲がりたり損傷していないこと、押してから手を離すと中央に戻ることを確認します。問題がある場合は車椅子を使用せず、販売代理店にご連絡ください。

10.9 毎週のチェック

電気ブレーキ:

このテストは、車椅子の周囲を1m以上とることができる平らな床の上で行います。
コントロールシステムのスイッチを入れます。
1秒後に、バッテリーゲージがまだ点灯しているか、またはゆっくりと点滅していることを確認します。
ジョイスティックを、電気ブレーキが動く音がするまでゆっくりと前に押します。車椅子が動き出します。
すぐにジョイスティックを離します。数秒以内に各電気ブレーキが動く音がするはずですが、ジョイスティックを後ろへ押す、左へ押す、右へ押す、を繰り返して、テストを3回行います。

ライトとアクチュエーター:

車椅子にライト、方向指示器、またはシーティング調整アクチュエーターが装備されている場合、これらの動作を点検します。

コネクタ:

コネクタがすべてしっかりと接続され、正しく結合され、損傷がないことを確認します。

ケーブル:

ケーブルに損傷がないことを確認します。

ジョイスティック保護カバー:

ジョイスティックの根元の薄いゴムカバーに損傷や亀裂がないことを確認します。触らずに、目視でチェックしてください。

取り付け:

コントローラーが車椅子にしっかりと固定されていることを確認します。ねじを強く締めすぎないでください。

11.0 使用上の注意

⚠ 警告:

車椅子が予想外の動きをした場合は、ジョイスティックを離してください。そうすると、状況にかかわらず車椅子が止まります。

11.1 ⚠ 警告:

- 車椅子のユーザーマニュアルに記載された制限(最大傾斜、縁石の高さなど)を超えての運転はおやめください。
- 湿った草地の傾斜など、車輪が滑りやすい場所や表面での運転はおやめください。
- コントロールシステムやその他のコンポーネントに修理が必要な場合は、運転をおやめください。
- R-Netコントロールシステムは極めて高い信頼性を得られるように設計され、製造では各部を厳しくテストしていますが、故障する可能性は(低くても)常にあります。システム故障の条件に応じて、コントロールシステムは直ちに(安全確保のために)車椅子を止めます。急ブレーキ操作によって椅子から落下する可能性が少しでもある場合、車椅子付属のシートベルトなどの拘束装置を、車椅子の稼動中は常にご使用いただくことが必須となります。Sunrise Medical社は、車椅子の急停止、または車椅子やコントロールシステムの誤った使用によって生じた損害について、一切責任を負いません。
- 本製品の異常作動、発熱、発火、発煙などの異常な兆候が見られる場合は、コントロールシステムの使用をおやめください。直ちにコントロールシステムの電源を切り、販売代理店にご連絡ください。Sunrise Medical社は、こうした条件を無視したことによって生じた損害について、一切責任を負いません。
- 電子機器は電磁波障害(EMI)の影響を受ける可能性があります。こうした電波障害はラジオ局、TV局、その他の無線送信機や携帯電話から発生する場合があります。本製品にEMIによるエラー動作が見られる場合、直ちにコントロールシステムをオフにして販売代理店にご連絡ください。Sunrise Medical社は、こうした条件を無視したことによって生じた損害について、一切責任を負いません。
- 車椅子のユーザーは、車椅子の安全上の警告にすべて従う必要があります。Sunrise Medical社は、こうした条件を無視したことによって生じた損害について、一切責任を負いません。



本製品は該当する国内および国際的なEMC法に準拠しています。EMCとEMIの適合性全般の説明やアドバイスについては、お使いの車椅子のオーナーズマニュアル/取扱説明書をご覧ください。

11.2 安全点検

コントロールシステムの電子回路は極めて高い安全性と信頼性を得られるように設計されています。内蔵のマイクロコンピューターが最大で毎秒100回の安全点検を行ないます。この安全監視に加えて、お客様は次の定期点検を行なってください。これらの点検で1つでもコントロールシステムに不合格があった場合は、車椅子を使用せず、販売代理店にご連絡ください。

毎日のチェック

ジョイスティック:

コントロールシステムのスイッチを切り、ジョイスティックが曲がりたり損傷していないこと、押してから手を離すと中央に戻ることを確認します。問題がある場合は安全点検を中止して、販売代理店にご連絡ください。

毎週のチェック

駐車ブレーキ:

このテストは、車椅子周辺が平らな床上の安全な空きスペースで行います。

1. コントロールシステムのスイッチを入れます。
2. 画面/バッテリーゲージが初期化後もオンになっていること、バッテリーゲージが適度な充電状態を示していることを確認します。
3. ジョイスティックを、駐車ブレーキが動く音がするまでゆっくりと前に押します。車椅子が動き出します。
4. すぐにジョイスティックを離します。数秒以内に各駐車ブレーキが動く音がするはずです。
5. さらに、ジョイスティックをゆっくりと後ろへ、左へ、右へ押す、のテストを3回繰り返します。

コネクター:

すべてのコネクターがしっかりと接続されていることを確認します。

ケーブル:

ケーブルやコネクターに損傷がないことを確認します。

ジョイスティック保護カバー:

ジョイスティックの根元の薄いゴムカバーに損傷や亀裂がないことを確認します。触らずに、目視でチェックしてください。

取り付け:

コントロールシステムのコンポーネントがすべてしっかりと取り付けられていることを確認します。固定用のねじを強く締めすぎないでください。

11.5 保守点検

長くご愛用いただくために、車椅子とコントロールシステムはご利用開始から1年後に、販売代理店による点検を受けることを推奨します。点検時期について詳しくは、販売代理店にお問い合わせください。

販売代理店の詳細と窓口電話番号





オムニ

12.0 R-Netオムニの概要

12.1 はじめに

オムニは汎用の特殊コントロールインターフェースで、あらゆるタイプの特許入力装置 (SID) から信号を受信し、R-Netコントロールシステム互換のコマンドに変換します。

12.2 コントロールと接続部

次の図はオムニのコントロールと接続部を示します (図12.0、12.1、12.2)。

⚠ 警告:

プログラミングと診断は、必ず、R-Net電子コントロールシステムを十分に理解した医療従事者が実施してください。プログラミングの誤りは車椅子のユーザーにとって安全でない設定を行なうこととなります。Sunrise Medical社は、コントロールシステムのプログラミングで工場出荷時の設定値を変更したことによって生じた損害について、一切責任を負いません。



図12.0

図12.1

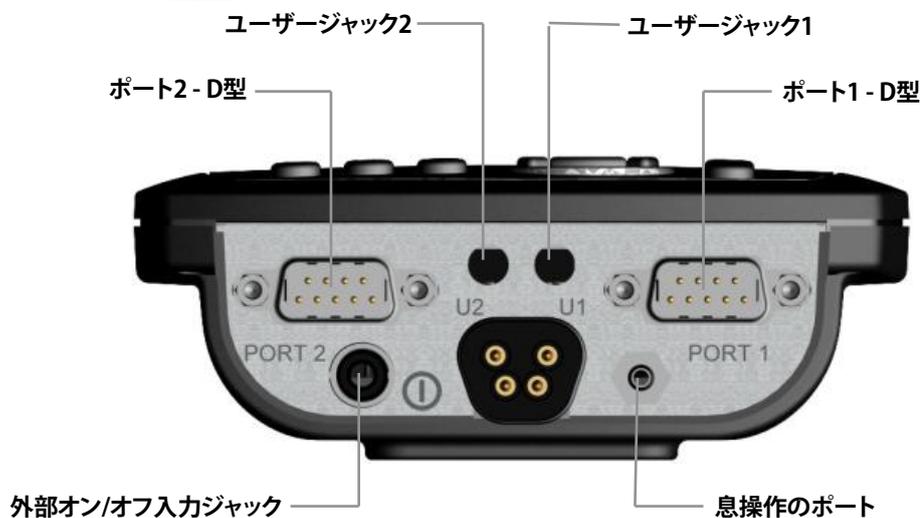


図12.2

LCD画面 (図12.0)

フルカラーのバックライト付きLCD画面で、オムニの設定の詳細と操作情報を表示します。実際の表示については、本書の各部に記載するLCD画面の詳細をご覧ください。

オン/オフボタン (図12.0)

オン/オフボタンで、コントロールシステムの各電子機器の電源を完全に切ることができます。オムニモジュールのフロントパネルにあるボタンのほかに、オプションの外部搭載スイッチを使える便利な機能があり、ユーザーが操作できます。外部オン/オフ/オフスイッチ入力の章を参照してください。

モードボタン (図12.0)

モードボタンで有効なモード間を切り替えられます。

設定情報ボタン (図12.0)

設定情報ボタンで有効な運転設定情報間を切り替えられます。

ナビゲーションボタン (図12.0)

4つのナビゲーションボタンで機能画面を操作できます。

-/+ボタン (図12.0)

ハイライトしたパラメーターを調整できます。両方のボタンを同時に長押しすると、オムニが設定メニュー画面を表示します。

充電ソケット (図12.1)

3ピンソケットで車椅子のバッテリーを充電したり、システムのプログラミング次第では、車椅子をロックします。バッテリーの充電の詳細は、第9.0章および車椅子のオーナーズマニュアルまたは取扱説明書を参照してください。

通信コネクタ (図12.0~12.1)

このコネクタでオムニからR-Netシステムに連結します。

9ウェイド型特殊入力装置 (SID) コネクタ (図12.2)

アナログまたはデジタルのSIDへの接続ができます。コネクタの接続が確実か、低電流12Vの供給があるかを検出する装置があります。

ユーザースイッチジャック (図12.2)

3.5mm/1/8インチジャックソケットが2つあり、ユーザースイッチに接続できます。ユーザースイッチの詳細は、SIDの接続の章で説明します。また、ユーザースイッチのジャックプラグの接続が確実かを検出する装置もあります。

外部オン/オフスイッチ入力 (図12.2)

これは3.5mm/1/8インチジャックソケットで、ユーザーが操作するオン/オフボタンに接続できます。この接続は任意で、接続をしない状態でオムニは正常に機能します。

息操作入力 (図12.2)

この入力方法は、息操作マウスピースに3.5mm/1/8インチパイプを接続して使います。

割り当て用ボタン

ほとんどのボタンの機能はプログラミングで変更できます。たとえば、他のボタンの機能を割り当てたり、ボタンにシーティング移動機能など特定の操作のショートカットを割り当てることができます。これに加えて、ボタンに2つめの機能を持たせて、これを一定時間ボタンを押して呼び出すこともできます。ボタンの機能変更と2つめの機能割り当てについての詳細は、販売代理店にご連絡ください。

13.0 特殊入力装置 (SID)

13.1 電動椅子へのSID取り付け

利用できるSIDの種類は多様で、頻繁に仕様変更が行なわれるため、本書でSIDの正確な分類リストを記載するのは現実的ではありません。

選択するSIDのタイプの正確な分類は、お客様と医療従事者、車椅子の提供元でご判断ください。それぞれのタイプのSIDは次の各章で説明します。

電動椅子の各機能を制御するSIDに加えて、オムニには、ユーザーが操作するオプションのオン/オフスイッチを接続する装置があります。このスイッチの機能は、オムニのフロントパネルにあるオン/オフボタンと同じです。

13.2 SIDの接続 (図13.0)

SID1台の操作では、必ずSIDをポート1に接続してください。

ポート1の構成:

ユーザースイッチ用3.5mm/1/8インチジャック x 1

9ウェイD型入力コネクタ (TRACE標準ピンアウト付き)

息操作の入力

SIDからオムニへの接続がすべて確実であることを確認します。



図13.0

13.3 ユーザースイッチ

真のフェイルセーフシステムとするために、常時閉のユーザースイッチを備えています。これによって、スイッチの接続が意図せず切れてしまった場合でも、電動椅子は停止位置に戻ります。さらに安全性を高めるために、オムニではユーザースイッチのジャックが正しい位置にあるかを検知することもできます。ジャックが正しくないことを検知すると、運転はできなくなります。

⚠ 警告:

- Sunrise Medical社は、可能な限り常時閉のスイッチを使用することを推奨します。常時閉のスイッチを使用する場合、その判断は医療従事者の責任となります。Sunrise Medical社は、常時閉でないスイッチを使用したことによって生じた損害について、一切責任を負いません。
- ユーザースイッチを接続していないと緊急停止機能がないため、Sunrise Medical社は、スイッチ検出を常にオンしておくよう推奨します。Sunrise Medical社は、このパラメーターを他の設定にしたことによって生じた損害について、一切責任を負いません。

13.4 D型コネクタ

コネクタが正しく差し込まれていることを確認してください。止めねじがある場合は、完全に締めてあることを確認してください。

「接続検知」器を備えているSIDもあります。この連結により、D型コネクタの接続が外れていないかをオムニが検知できるようになります。

システムの安全性を高め、診断を簡易化するために、SIDで連結できる場合はこの機能を使うことを推奨します。この機能を使っており、オムニがSIDの接続解除を検知した場合、下の図13.1に示す画面が表示されます。

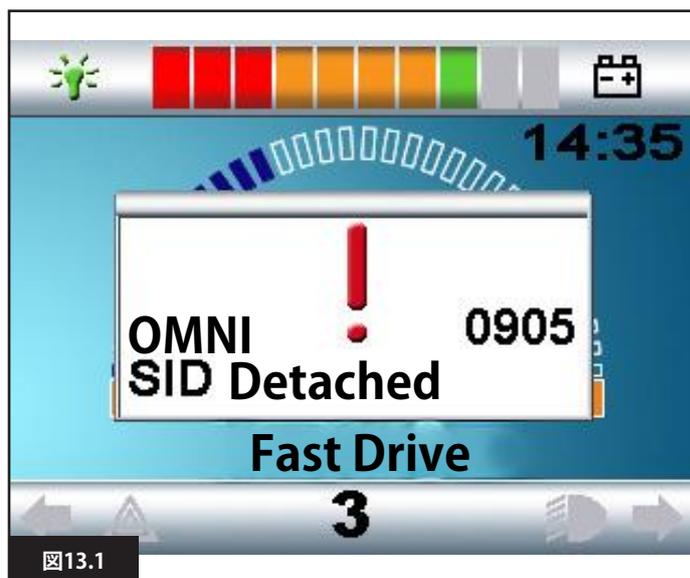


図13.1

13.5 息操作の入力

息操作装置のチューブの直径が適切で、確実に通されていることを確認します。

13.6 オムニと併用するSIDのタイプの例

オムニは6タイプのSIDと互換性があります。

1. ジョイスティックとユーザースイッチ
2. 5スイッチとユーザースイッチ
3. 3軸対応とユーザースイッチ
4. 3軸スイッチとユーザースイッチ
5. 息操作装置とユーザースイッチ
6. 単スイッチスキャナー

ユーザースイッチは、設定情報とモードの変更手段、緊急停止機能、オムニをスリープに移行させる手段となります。ほとんどのSIDタイプはユーザースイッチ不要で使用できます。

⚠ 警告:

Sunrise Medical社は、可能な限り常時閉のユーザースイッチを使用することを推奨します。ユーザースイッチを使用しない場合や、常時閉のスイッチを使用する場合、その判断は医療従事者の責任となります。Sunrise Medical社は、ユーザースイッチを使用しないか、常時閉でないスイッチを使用したことによって生じた損害について、一切責任を負いません。

13.7 ジョイスティックとユーザースイッチ (図13.2)

よく使うアプリケーションは、チン・コントロール、フット・コントロール、強弱操作のジョイスティックです。デバイスの構成は、PGドライブテクノロジー、または9ウェイD型コネクタ経由でオムニに接続するフライトリンクタイプの誘導ジョイスティックです。このほかにユーザースイッチが必要で、オムニに3.5mm/1/8インチジャックソケット x 1で接続します。

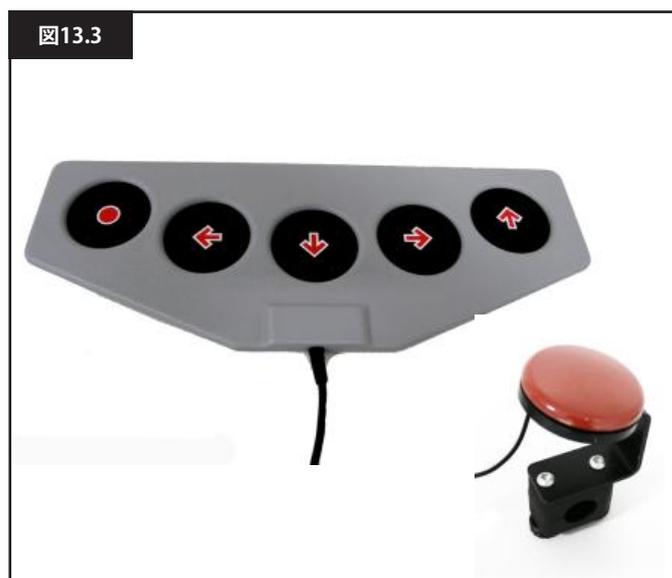


13.8 5スイッチとユーザースイッチ (図13.3)

よく使うアプリケーションは、Tash PentaスイッチやBuddy Buttons、またはASLとSwitch-itの製品です。デバイスの構成は、4方向スイッチと、9ウェイD型コネクタ経由でオムニに接続するユーザースイッチ1個です。さらに、常時閉のユーザースイッチをオムニに3.5mm/1/8インチジャックソケット x 1で接続してください。このスイッチは、9ウェイD型コネクタにある5番目のスイッチ入力と機能的には同じですが、フェイルセーフ緊急停止システムを備える必要があります。

13.9 3軸対応とユーザースイッチ (図13.4)

よく使うアプリケーションは、ジョイスティックに取り付けるヘッドコントロールメカニズムです。デバイスの構成は、PGドライブテクノロジー、または9ウェイD型コネクタ経由でオムニに接続するフライトリンクタイプの誘導ジョイスティックです。このほかにユーザースイッチが必要で、オムニに3.5mm/1/8インチジャックソケット x 1で接続します。



13.10 3軸対応とユーザースイッチ (図13.6)

よく使うアプリケーションはヘッドコントロールシステムです。デバイスの構成は、3方向または4方向スイッチと、9ウェイD型コネクター経由でオムニに接続するユーザースイッチです。さらに、常時閉のユーザースイッチをオムニに3.5mm/1/8インチジャックソケット×1で接続してください。このスイッチは、9ウェイD型コネクターにあるスイッチ入力と機能的には同じですが、フェイルセーフ緊急停止システムを備える必要があります。

13.11 息操作装置とユーザースイッチ (図13.6)

息操作マウスピースは空気圧入力でオムニに接続します。さらに、ユーザースイッチをオムニに3.5mm/1/8インチジャックソケット×1で接続してください。このスイッチにはフェイルセーフ緊急停止システムが必要です。

図13.5



図13.6



13.12 息操作の較正 (図13.7)

新しく息操作SIDを取り付ける場合、または再較正が必要な場合は、医療従事者または販売代理店が次の較正手順を行なって、オムニをお使いの操作機能に合わせてください。下に示すような画面が表示されます (図13.7)。

弱く吸う

「弱く吸う」が最初にハイライトされます。ここでは「弱く吸う」の手順を示します。吸うたびに、現在の圧力の読み取り値がすぐに、画面上の0～100の目盛り付きラインで表示されます。弱く吸うを繰り返すと、値の「帯」ができていきます。この間は画面から目をそらすとよいでしょう。低い値にしようとして「誤った」値が設定されるのを防ぎます。この帯の範囲で弱く吸う操作が常にうまくできていれば、医療従事者または販売代理店がこの範囲を保存して、次に「強く吸う」をハイライトします。



強く吸う

次に「強く吸う」の手順を示します。新たに「強く吸う」の帯がつけられます。「弱く吸う」と「強く吸う」の値ができるだけ離れているのが理想です。オムニにおいてこれらの圧力間の差別化を図るために、医療従事者または販売代理店は、しきい値マーカー (向かいのページの図13.8に示す) を最強の弱コマンドと最弱の強コマンドの真ん中に移動させてください。適切なしきい値を設定したら、医療従事者または販売代理店がその範囲を保存して、次に「弱く吹く」をハイライトします。

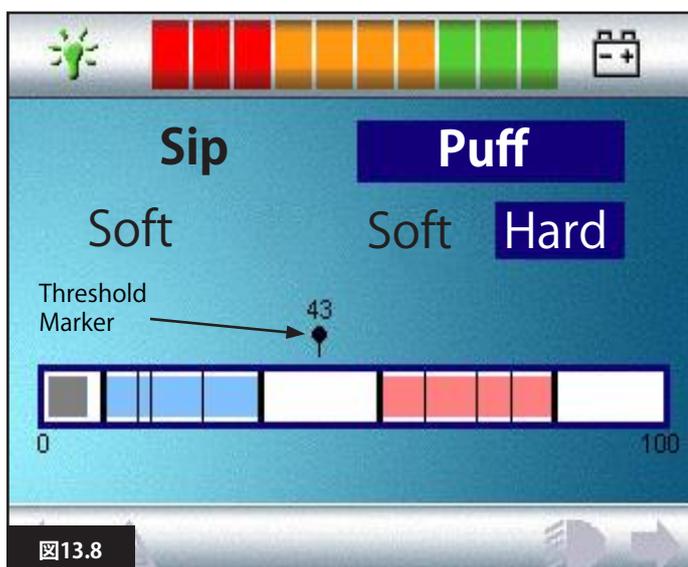


図13.8

弱強で吹く

次に、弱と強で吹くについても一連の手順を繰り返し、しきい値も設定します。較正が完了したら、医療従事者または販売代理店は設定を保存します。

較正を正しく行なうために、値はすべて不感帯の設定値よりも大きくなるようにしてください。

13.13 単スイッチスキャナー

単一のユーザースイッチをオムニに3.5mm/1/8インチジャックソケットx1で接続します。

オムニが単スイッチスキャナータイプのSIDで操作する設定になっている場合は、適切なスキャンレートとなるようにプログラムできます。このパラメーターのプログラミングについては、医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。

13.14 ユーザースイッチ

スキャナー操作を除いて、ユーザースイッチには次の機能があります。

運転していないときに短く操作すると、さまざまな車椅子機能を選択できます。第13.15章を参照してください。

運転中やシーティングの調整中に短く操作すると、すべての動作を止めて、緊急停止として機能します。

運転していないときに長く操作すると、オムニをスリープに移行させます。オムニのスリープを解除するには、ユーザースイッチを短く操作してください。

長く操作するときの時間はあらかじめ1秒に設定していますが、0.5～5.0秒でプログラム可能です。このパラメーターのプログラミングについては、医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。

13.15 車椅子の各機能へのアクセス

オムニから利用できるすべての車椅子機能にアクセスする方法は、メニューまたはシーケンスの2通りでプログラムできます。オムニのコントロールはデフォルトで「メニュー」にプログラムされています。メニューからのアクセス方法では、運転(Drive)モードのときにユーザースイッチを作動させると、図13.9に示す画面上のユーザーメニューが起動します。次にSIDの方向コマンドを使ってメニューを移動し、機能を選択します。

この機能を「シーケンス」に変更したい場合は、医療従事者または販売代理店にご相談ください。

シーケンスによる方法では、ユーザースイッチの連続操作で順番にすべての車椅子機能にアクセスします。

警告:

シーケンスでのスキャン操作中は、メニューオプション[速度調整](Speed Adjust)または[設定情報選択](Profile Select)のプログラムを推奨しません。医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。

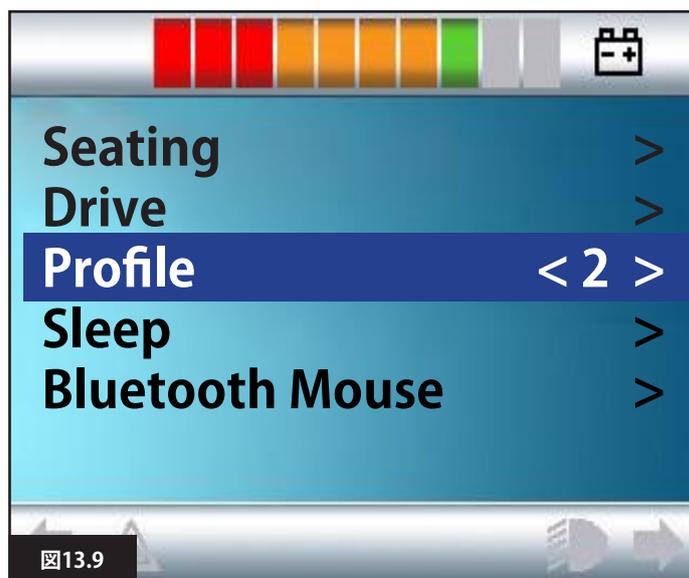


図13.9

13.16 表示背景 図13.10

オムニの画面背景色はプログラミングで変更できます。医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。

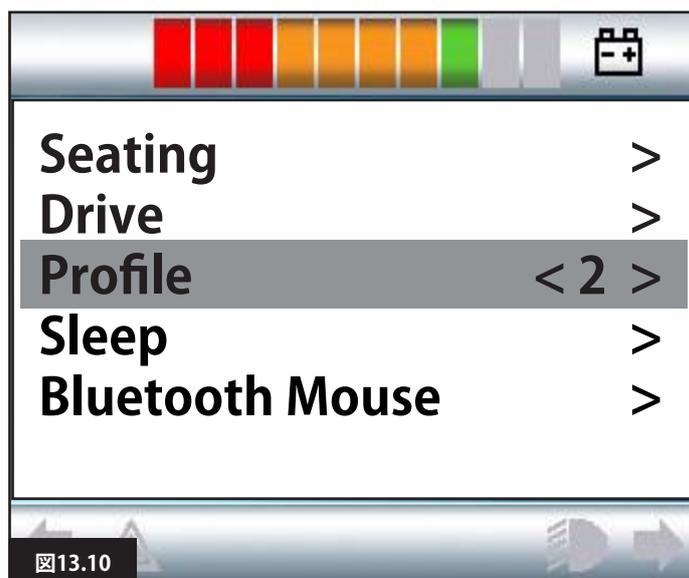


図13.10

14.0 オムニの操作方法

14.1 オムニの運転特性

オムニはSIDに合わせてプログラムされており、電動椅子の運転性能はお客様のニーズに合わせてプログラムされています。電動椅子の速度、加速比、制動比は厳密な要求に合わせて調整できます。医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。システムの運転を始める前に、車椅子を運転できる十分なスペースがあることと、車椅子をすぐに停止する方法を理解していることを確認してください。

はじめに、使用中のSIDタイプに関する操作説明を参照してください。SIDの各コマンドを完全に理解していることを確認してください。

最初は最低の速度設定を選んで、制御に十分に慣れた後で、設定値を上げるようにしてください。

オムニにはトレーニング機能もあり、ここではいずれかのSIDの方向コマンドが無効になっています。たとえば、前方向への運転に慣れるために、左右のコマンドが無効になっている場合があります。医療従事者または販売代理店に相談して、これらの値が適切で安全であることを確認してください。

⚠ 警告:

Sunrise Medical社は、不適切な値を使用したことによって生じた損害について、一切責任を負いません。

14.2 全般の操作方法

オムニの電源が入って起動すると、図14.0に示す画面が表示されます。電源を入れるには、フロントパネルにあるオン/オフボタンか、または外部オン/オフスイッチジャックに接続したスイッチを操作します。スリープを解除するにはユーザースイッチを操作します。

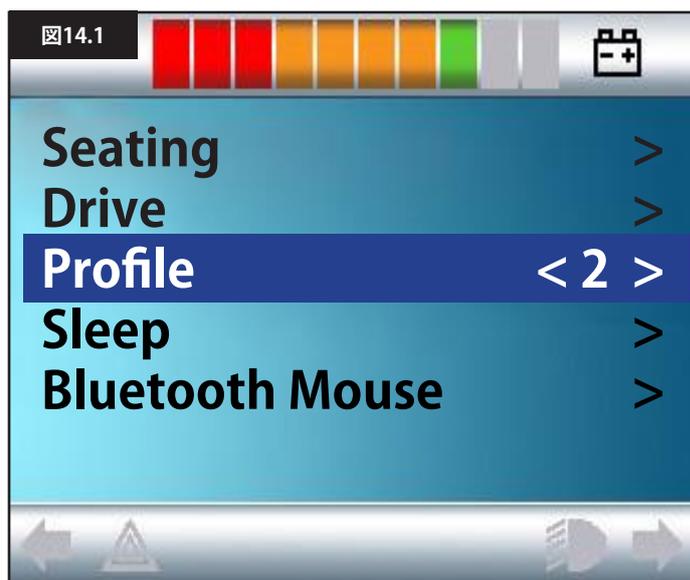


図14.0

これはよく使う画面です。SIDのタイプ、プログラミングやシステムの構成と状態によって、他のアイコンも表示されます。これでSIDを使って車椅子を運転できます。運転中は、車椅子の速度は数値と絵で表示されます。

14.3 ユーザーメニュー

メニューから制御している場合、ユーザースイッチを操作するとユーザーメニューが開始されます。よく使うユーザーメニューを次に示します(図14.1)



前と後ろのSIDコマンドで、メニュー上でハイライトする行を変更します。自動スキャンシーケンスをプログラムすることも可能です。この機能では各行を順番にハイライトしていきます。医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。

各行の左端に > または、< > に囲まれた数字、たとえば < 3 > が表示されます。

> の記号はSIDの右コマンド(または、単スイッチスキャナータイプのSIDを使用している場合はユーザースイッチ)で、その機能を選択することを示します。

< 3 > の表示はSIDの左右のコマンド(または、単スイッチスキャナータイプのSIDを使用している場合はユーザースイッチ)で、その機能に対する選択を変更できることを示します。

ユーザーメニューで次の機能を表示します。

向かいのページをご覧ください(図14.2)。

機能	動作
運転(Drive)*	> 現在選択している設定情報内で運転モードに入ります
x 設定情報 x** (x Profile x**)	> 表示された設定情報内で運転モードに入ります
設定情報(Profile)	<X> 次回運転モードに入るときに使用する設定情報をセットします
シーティング*(Seating*)	> シーティングモードに入ります
シーティング* 2 (Seating* 2)	> 2番目のシーティング設定情報に入ります。例：非持続および持続操作が必要。
シーティング*(Seating*)	<X> 次回シーティングモードに入るときに使用する設定情報をセットします
速度調整(Speed Adjust)	<X> 最高速度設定を調整します
モードXからY*	> PCマウス(PC Mouse)、環境(Environment)などでモードXからYへの変化を順番に表示します。
スリープ(Sleep)	> オムニをスリープモードにします
ライト(Lights)	> ライティングコントロールモードに入ります
終了(Exit)	> メニューを終了して、前に選択した設定情報の運転モードに入ります
設定(Settings)	> バックライト、背景色、時計の調整などのユーザー設定にアクセスできます
*	テキストは標準的なR-Netのパラメーター[モード名](Mode Name)の設定に合わせています。
**	テキストは標準的なR-Netのパラメーター[設定情報名](Profile Name)の設定に合わせています。

図14.2

14.4 ジョイスティックタイプSIDでの操作(図13.2)

SIDのジョイスティックとユーザースイッチで運転を選び、ユーザーメニューに入ります。
このタイプのSIDを使うときに役立つような標準R-Netプログラミングの機能が揃っています。たとえば、ジョイスティックの動作、ジョイスティックの向き、ジョイスティックの不感帯です。医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。

シーティングの動きの標準的な制御は「前と後ろ」コマンドで行ない、「左と右」コマンドで、作動対象として別のシート軸を選択できます。
第4章の4.33を参照してください。

必要な場合は、オムニを再プログラムして、シーティングの動きを他の方法で制御させることができます。医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。
このSIDタイプを使用した持続操作については、「持続操作」の章を参照してください。

14.5 スイッチタイプSIDでの操作(図13.3)

SIDの前、後ろ、左、右の各スイッチと、5番目のスイッチがユーザースイッチで運転を選び、ユーザーメニューに入ります。
このタイプのSIDを使うときに役立つような標準R-Netプログラミングの機能が揃っています。ジョイスティックの向きも含まれます。医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。

シーティングの動きの標準的な制御は「前と後ろ」ボタンで行ない、「左と右」ボタンで、作動対象として別のシート軸を選択できます。
第4章の4.33を参照してください。

必要な場合は、オムニを再プログラムして、シーティングの動きを他の方法で制御させることができます。医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。
このSIDタイプを使用した持続操作については、「持続操作」の章を参照してください。

14.6.3 軸対応とスイッチタイプSIDでの操作 (ヘッドアレイ) (図13.5)

このタイプのSIDには前/後ろのコマンド、左と右のコマンド、およびユーザースイッチが含まれます*。
運転は前/後ろ、左と右のコマンドで行ないます。

* 取り付けによっては、常時閉のユーザースイッチと同様に、ヘッドアレイと一体化したユーザースイッチを備える場合があります。このスイッチは、D型コネクターの5番目のスイッチピンを介してオムニに接続される場合があります。

この場合、ユーザースイッチのコマンドを使って運転の方向を変えたり、ユーザーメニューに入ったりします。

この機能を備えるためのオムニのプログラム方法は3通りあります。

14.6.1 ダブルクリックによる変更

ユーザースイッチを1度操作すると方向を確定し、2回操作するとユーザーメニューに入るか、または他の機能に遷移します。この方法を選択するには、設定パラメーター[前/後ろ自動トグル](Fwd/Rev Auto Toggle)をオフにします。二重操作のタイミングに関してはプログラム可能です。医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。

14.6.2 自動トグル変更

前/後ろコマンドの操作と解除で方向転換ができます。さらに前/後ろコマンドを操作すると、新たに選択した方向に運転できます。この連続する手順は一定時間内に終わらせる必要があり、通常は2秒以内です。ただし、パラメーター[前/後ろ自動トグル時間](Fwd/Rev Auto Toggle Time)を調整すると、制限時間を変えることができます。医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。連続操作が時間内に完了しない場合、選択済みの方向が破棄されて、以前の状態に戻ります。ユーザースイッチを使ってユーザーメニューに入ります。この方法を選択するには、設定パラメーター[前/後ろ自動トグル](Fwd/Rev Auto Toggle)をオンにします。医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。

14.6.3 スイッチの中位変更

パラメーター[ダブルクリック](Double Click)が0に設定されていると、ユーザースイッチの操作後すぐに方向転換が起こります。ユーザースイッチを離して前/後ろコマンドが入ると、新たに選択した方向への運転が開始されます。ユーザースイッチを離さずに、プログラム可能なパラメーター[スイッチ中位](Switch Medium)で設定した時間保持すると、従来のユーザースイッチ操作と解釈されて、ユーザーメニューに入ります。この場合、方向は確定されません。他の2つの方法と同様に、プログラム可能なパラメーター[スイッチ長く](Switch Long)で設定した時間よりも長く、ユーザースイッチを操作すると、オムニはスリープに移行します。

14.6.4 シーティングコントロール

シーティングの動きの標準的な制御は「前/後ろ」コマンドで行ない、「左と右」コマンドで、作動対象として別のシート軸を選択できます。動きの方向は、運転の方向を変えたのと同じ方法で選択できます。第4章の4.33を参照してください。

ヘッドアレイの場合によく要求されるように、オムニを再プログラムして、シーティングの動きを他の方法で制御させることができます。医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。

14.6.5 関連プログラミング

このタイプのSIDを使うときに役立つような標準R-Netプログラミングの機能が揃っています。たとえば、ジョイスティックの動作、ジョイスティックの向き、ジョイスティックの不感帯です。医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。このSIDタイプを使用した持続操作については、「持続操作」の章を参照してください。

各機能を音声で移動できるようにオムニを設定することができます。オムニの画面をユーザーが見続けるのが難しい場合に役立ちます。本書の応用編の、オムニを音声で使うの章を参照してください。

14.7 息操作タイプSIDでの操作 (図13.8)

息操作のコマンド		方向
	強く吹く	前
	強く吸う	後ろ
	弱く吸う	左
図14.3	弱く吹く	右

オムニの空気圧入力に接続したチューブとユーザースイッチで運転を選び、ユーザーメニューに入ります。

このタイプのSIDは、標準のユーザースイッチのほかに、空気圧によるユーザースイッチのオプションがあります。

販売代理店にご連絡ください。

息操作コマンドは4つあり、それぞれが運転の方向に関係します。

図14.3はその関連性を示します。

さらに、オムニをプログラムすることによって、パラメーター[ダブルクリック時間](Double Click Time)で設定した時間内に行なう2つの空気圧操作で、待機中のユーザースイッチの短い操作と同等にすることができます。

医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。

標準R-Netプログラミングのパラメーター[ジョイスティックの向き](Joystick Orientation)も、このタイプのSIDを使う場合に便利です。医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。

シーティングの動きの標準的な制御は「強く吹く」や「強く吸う」で行ない、「弱く吹く」や「弱く吸う」で作動対象として別のシート軸を選択できます。

必要な場合は、オムニを再プログラムして、シーティングの動きを他の方法で制御させることができます。

医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。

このSIDタイプを使用した持続操作については、「持続操作」を参照してください。



図14.4



図14.5



図14.6



図14.7

14.8 単スイッチスキャナータイプのSIDでの操作

運転を含むすべての機能は、オムニの「ユーザースイッチ」ジャックソケットの1つに接続した単一スイッチを介してアクセスできます。取り付けと接続の詳細は、13.2、13.3、13.13の各章を参照してください。

14.8-1 運転

運転モードのスキャンレートはユーザーに合わせてプログラム可能です。医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。オムニのスイッチが入ると、図14.4に示すような画面が表示されます：

オムニは次の各アイコンを順に表示します：

- 図14.4 前に運転
- 図14.5 右に運転
- 図14.6 後ろに運転
- 図14.7 左に運転
- 図14.8 モード(ユーザーメニュー)

運転の方法は、R-Netシステムの設定が[一時](momentary)操作と[持続](latched)操作のどちらになっているかで異なります。

14.8.2 一時操作

一時操作の場合、「矢印」アイコンの表示中にユーザースイッチの長押しを続けると、スイッチを離すまでの間、電動椅子をその方向に運転します。「M」アイコンの表示中にユーザースイッチを押すと、オムニはユーザーメニューに入ります。

14.8.3 持続操作

持続操作では、いずれかの「矢印」アイコンが表示されている状態でユーザースイッチを1回押すと、プログラム(医療従事者または販売代理店にお問い合わせください)で設定した時間中は、電動椅子がその方向に運転されます。持続操作中の運転で車椅子の制御を簡単にするために、次のようなスキャンシーケンスが表示されます。

前、右、後ろ、左、後ろ、右、後ろ、左、後ろ、右、前。

ユーザースイッチを押すと、新たな方向が表示されます。

R-Netシステムの持続操作が、前方向と同様に後ろ方向にも設定されている場合、後ろ方向に運転しているときのスキャンシーケンスは次のようになります：

後ろ、右、前、左、前、右、前、左、前、右、後ろ。

ユーザースイッチを押すと、新たな方向が表示されます。



図14.8

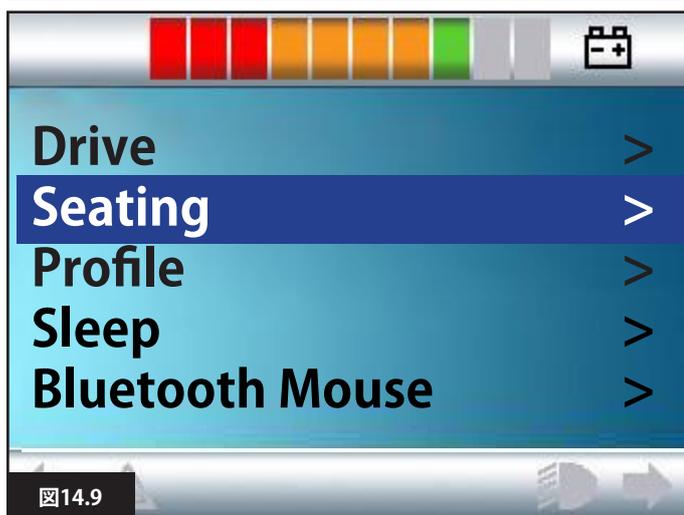


図14.9



図14.10



図14.11

14.8.4 シーティングコントロール

シーティング(Seating)モードは、ユーザースイッチを操作して、ユーザーメニューから入力できます(図14.9)。オムニは、操作できるアクチュエーターの「軸」(図14.10)を連続して表示し、その後[終了](Exit)オプションで終了し(図14.13)、運転(Drive)、ユーザーメニュー、または次のシーケンス機能に戻ります。いずれかのアクチュエーター軸の表示中にユーザースイッチを操作すると、新たなスキャンシーケンスが始まります。オムニは、上(図14.11)、下(図14.12)、終了(図14.13)の選択肢を順番に進みます。各オプションはユーザースイッチを操作して選択できます。アクチュエーターの軸を順に表示する速さ(スキャンレート)は約1秒に設定されており、プログラミングで変更することはできません。

14.8.5 関連プログラミング

各機能を音声で移動できるようにオムニを設定することができます。オムニの画面をユーザーが見続けるのが難しい場合に役立ちます。医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。

⚠ 警告:

単スイッチスキャナータイプのSIDを使う場合、R-Net/パワーモジュールのスイッチを[待機中](Standby)のパラメーターにプログラムすることは推奨しません。



図14.12



図14.13



14.9 速度調整モード

ユーザーコントロールパラメーターが[シーケンス](Sequence)に設定されている場合、図14.14に示す速度調整モード画面が表示されます(第13.15章を参照してください)。

左と右のSIDコマンドで最高速度の設定を調整できます。ユーザースイッチで終了して、次に利用できるメニューの項目に移ります。

⚠ 警告:

シーケンスに単スイッチスキャナータイプのSIDを使っている場合、メニューオプション[速度調整](Speed Adjust)をプログラムすることは推奨しません。医療従事者または販売代理店にお問い合わせください



14.10 ライティングコントロールモード

ライティングコントロールモードでは、図14.15のような画面が表示されます。SIDの前と後ろのコマンドで、各ライティングを選択します。SIDの左または右のコマンドで、機能をオンにします(図14.16)。もう一度SIDの左または右コマンドを使い、機能をオフにします。

終了のハイライト中に(図14.17)、ユーザースイッチか、またはSIDの右コマンドを操作して終了し、ユーザーメニューに出ます。ユーザーコントロールをシーケンスに設定している場合、終了オプションを選択すると次のメニューオプションに進みます。(第13.15章を参照してください)。



14.11 持続操作

持続操作はオムニまたは標準のジョイスティックモジュールで行なえます。

標準R-Netのプログラミングの中では次のパラメーターが関係します: 持続運転、持続アクチュエーター、持続タイムアウト、持続タイムアウト警告音。医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。



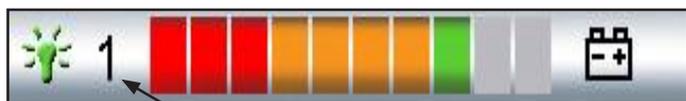


図15.0



図15.1



図15.2



図15.3

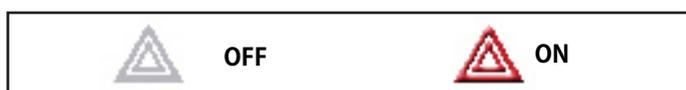


図15.4



図15.5



図15.6



図15.7

15.0 オムニLCD画面

15.1 LCD画面詳細

本章に記載する内容は、4章に含まれる情報の追加です。4章も併せてお読みいただくと、すべてのLCD画面の説明をご確認いただけます。

15.2 トップバー (図15.0)

15.3 ポートの識別子 (図15.1)

オムニに2台の入力装置を設定している場合、コマンド内の入力装置は次のいずれかに識別されます:

1-ポート1 2-ポート2

15.4 ベースバー (図15.2)

15.5 ウィンカーアイコン (図15.3)

ウィンカーアイコンは、それぞれ該当するウィンカーの作動中に点滅します。

ウィンカーアイコンが表示されるのは、インテリジェントライティング/シーティングモジュールをシステムに接続しているときだけです。

15.6 ハザードアイコン (図15.4)

ハザード警告ライトが有効であれば、ハザードアイコンとウィンカーアイコンが点滅します。

ハザードアイコンが表示されるのは、インテリジェントライティング/シーティングモジュールをシステムに接続しているときだけです。

15.7 ライトアイコン (図15.5)

ライトが有効であれば、ライトアイコンが点灯します。

ライトアイコンが表示されるのは、インテリジェントライティング/シーティングモジュールをシステムに接続しているときだけです。

15.8 メイン画面エリア (図15.6)

15.9 選択した方向のウィンカー (図15.7)

に3軸対応のSIDが設定されている場合にのみ表示されます。3軸対応とスイッチタイプSIDでの操作を参照してください(第13.9章~13.10)。



15.10 モード画面

15.11 アクチュエーターモード (図15.8)

作動対象として現在選択している椅子の部分の絵と、その名称、作動方法を示す矢印を表示します。

15.12 環境(Environment)モード (図15.9)

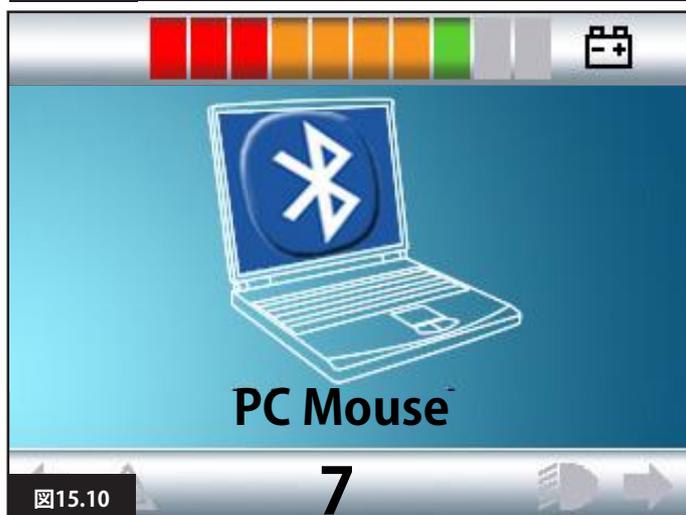
環境(Environment)モードに入ると次の画面が表示されます。

15.13 PCモード (図15.10)

PCモードに入ると次の画面が表示されます。

15.14 速度調整 (図15.11)

速度調整(Speed Adjust)モードに入ると次の画面が表示されます。



15.15 ジョイスティックモジュールのロック (図15.12~15.15)

車椅子をロックするには:

- これは一連のジョイスティックの動き、またはSIDがスイッチタイプのデバイスの場合はボタンの押下に関係します。
- コントロールシステムのスイッチを入れた状態で (図15.12)、オムニまたはSIDのオン/オフボタンを長押しします。
- 1秒後、コントロールシステムの警告音が鳴り、画面が点滅します (図15.13)。ここでオン/オフボタンを離します。
- SIDジョイスティックを前に倒すか、またはSIDにある前スイッチを押し、コントロールシステムの警告音が鳴るまで続けます。
- SIDジョイスティックを後ろに倒すか、またはSIDにある後ろスイッチを押し、コントロールシステムの警告音が鳴るまで続けます。
- ジョイスティック/ボタンを離すと、長い警告音が鳴ります。
- これで車椅子がロックされました。
- 次回コントロールシステムのスイッチを入れたときに、図15.14のアイコンが表示されます。
- LEDジョイスティックモジュールもお使いの場合、速度表示部のLEDが左から右に移動します。

車椅子のロックを解除するには:

- コントロールシステムのスイッチが切れている場合は、オムニまたはSIDのオン/オフボタンを押します。[ロック]のマークが表示されます (図15.14)。
- SIDジョイスティックを前に倒すか、またはSIDにある前スイッチを押し、コントロールシステムの警告音が鳴るまで続けます。
- SIDジョイスティックを後ろに倒すか、またはSIDにある後ろスイッチを押し、コントロールシステムの警告音が鳴るまで続けます。
- ジョイスティック/ボタンを離すと長い警告音が鳴り、画面が点滅します (図15.15)。
- これで車椅子のロックが解除されました。

⚠ 警告:

単スイッチスキャナータイプのSIDをご使用の場合、シーケンスによってコントロールシステムをロックすることはできません。



図15.12



図15.13



図15.14



図15.15



15.16 メイン画面エリア:診断(図15.16)

コントロールシステムの安全回路が作動中でコントロールシステムから車椅子を操作できなくなっています。診断画面が表示されます。

システムのエラーです。車椅子の電気システムのどこかに問題があることをR-Netが検知しました。

エラーがインテリジェントシーティングモジュールなどの作動しないモジュールで起きて、運転設定情報が選択されている場合、運転はできますが、診断画面が断続的に表示されます。

A. 15.17 判明モジュール

コントロールシステムのうち問題を登録したモジュールを示します。たとえば:

- PM = パワーモジュール
- JSM = ジョイスティックモジュール
- ISM = インテリジェントシーティング/ライティングモジュール

B. 15.18 エラーテキスト

エラータイプの短い説明です。

C. 15.19 エラーコード

4桁のコード表示から、記録されたエラーがわかります。



15.20 診断手順(図15.17)

次の手順に従ってください:

- 表示されたエラーテキスト、判明モジュール、エラーコードを読み取り、メモしてください。
- コントロールシステムのスイッチを切ります。
- 表示されたモジュールと車椅子のコネクターがすべてしっかりと接続されていることを確認します。
- バッテリーの状態を点検します。
- エラーテキストの説明をメモします。
- コントロールシステムのスイッチを入れ直して、車椅子を運転します。安全回路が再び作動した場合はスイッチを切り、車椅子のご使用をおやめください。販売代理店にご連絡ください。

図16.0

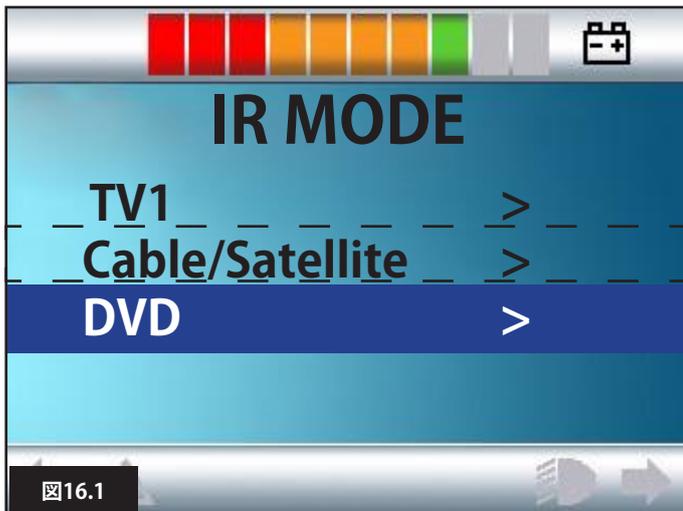


図16.1

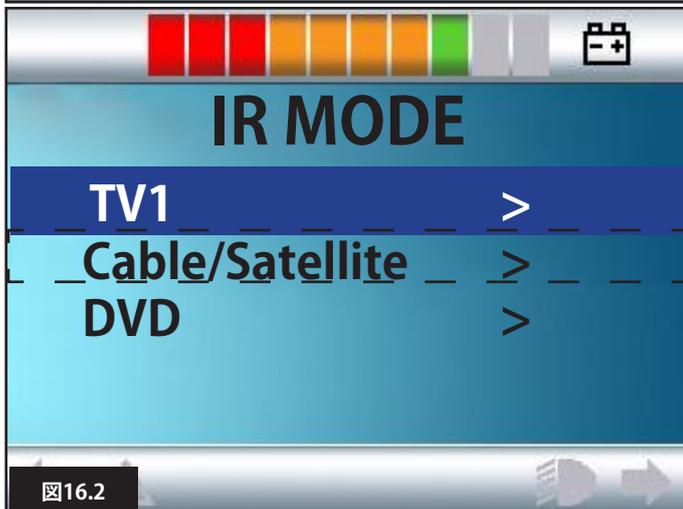


図16.2

16.0 赤外線コントロール (IR)

オムニには赤外線送信部と受信部があり(図16.0)、一般に使われる赤外線デバイス (TV用やDVD用、ケーブル/衛星 (Cable/Satellite)用のリモコン、または自動ドアの開閉装置などの環境上のコントロール) をオムニで再現できます。赤外線コントロール付きのオムニをR-Netシステムに接続すると、従来のジョイスティックモジュール (や他の入力装置) から、またはオムニに接続した特殊入力装置から赤外線コントロールができます。

16.1 ユーザーメニュー

赤外線モード (IR MODE) は、通常のモード選択方法でアクセスできます。つまり、R-Netシステムのモードボタンまたはコマンドで操作します。赤外線モード (IR MODE) は、赤外線コードがオムニに保存されている場合にのみ有効です。赤外線コードをオムニに保存する方法は2つあります。赤外線ハンドセットからコードを「読み込む」方法と、PCベースの赤外線設定ツールからプログラミングする方法です。プログラミングについては、医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。赤外線モード (IR MODE) に入ると、利用できる赤外線機器のリストが表示されます (図16.1)。

⚠ 警告:

Sunrise Medicalから赤外線オムニが届いたときは、デフォルトメニューになっています。必要な場合、赤外線設定ツールを使ってこのデフォルトメニューを変更できます。プログラミングについては、医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。

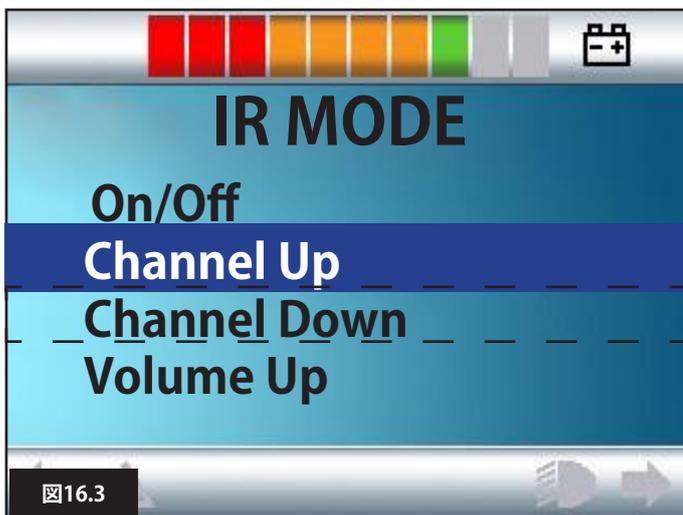


図16.3

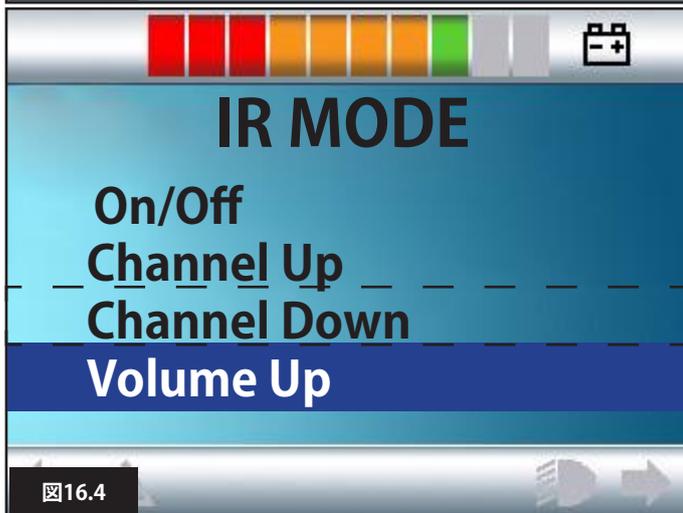


図16.4

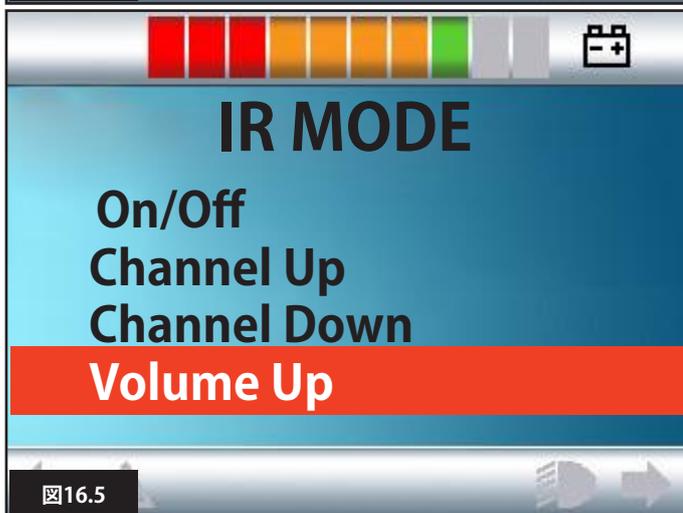


図16.5



図16.6

点線は現在位置の目安です。画面には表示されません。

赤外線モード(IR MODE)を移動するには、入力装置の一例であるジョイスティックを次のように使います：

1. ジョイスティックを後ろに倒すと、現在表示中の下の機器をハイライトします(図16.1)。
2. ジョイスティックを前に倒すと、現在表示中の下の機器をハイライトします(図16.2)。
3. ジョイスティックを左または右に倒すとハイライトした機器のサブメニューに入ります。ここにはその機器のすべての赤外線コマンドが含まれます(図16.3)。
4. ジョイスティックを前に倒すと、現在表示中の下のオプションをハイライトします(図16.3)。
5. ジョイスティックを後ろに倒すと、現在表示中の下の機器をハイライトします(図16.4)。
6. ジョイスティックを左または右に倒すとハイライトした赤外線コマンドが有効になります(図16.5)。

機器ごとに、関連する赤外線コマンドのリストがあります。TVの例を挙げると、次のようなコマンドが表示されます：オン/オフ(On/Off)、チャンネル上げる(Channel Up)、チャンネル下げる(Channel Down)、音量上げる(Volume Up)、音量下げる(Volume Down)。オムニが選択済みのコマンドを送信するときは、コマンドが赤の背景色でハイライトされます(図16.5)。

16.2 赤外線設定メニューへのアクセス

オムニでの赤外線設定へのアクセス

1. オムニにある + と - のキーを押すと設定メニューが起動します(図16.6)。
2. オムニのフロントパネルにある4つのナビゲーションキーを使います。上/下キーでメニューを上下にスクロールします。左/右キーでハイライトされたオプションを選択します(図16.6)。

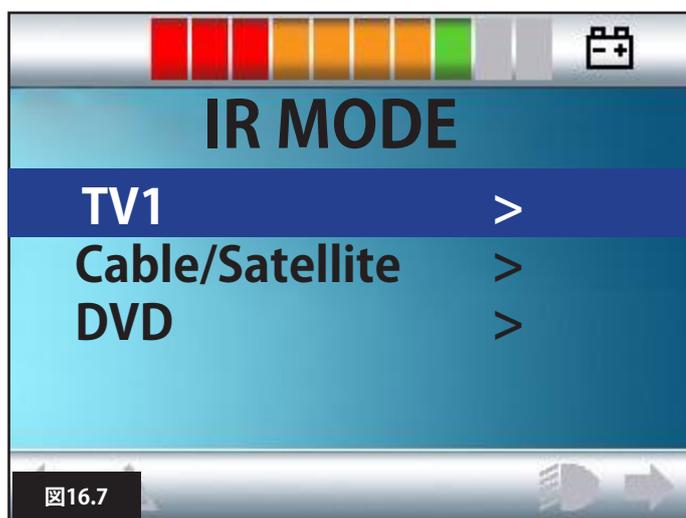


図16.7

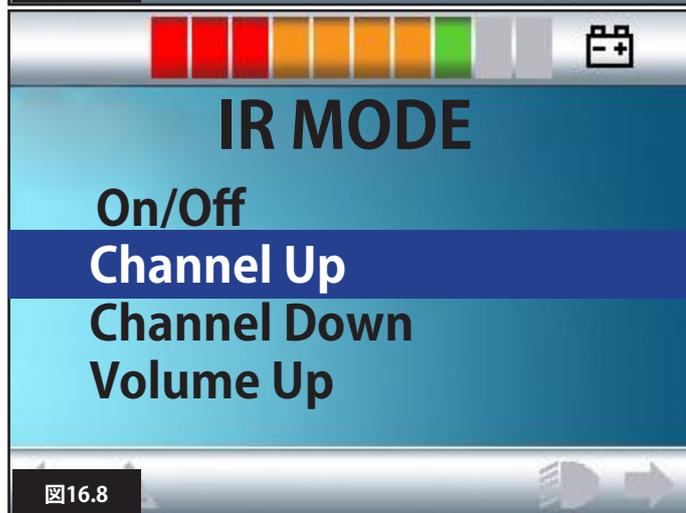


図16.8



図16.9

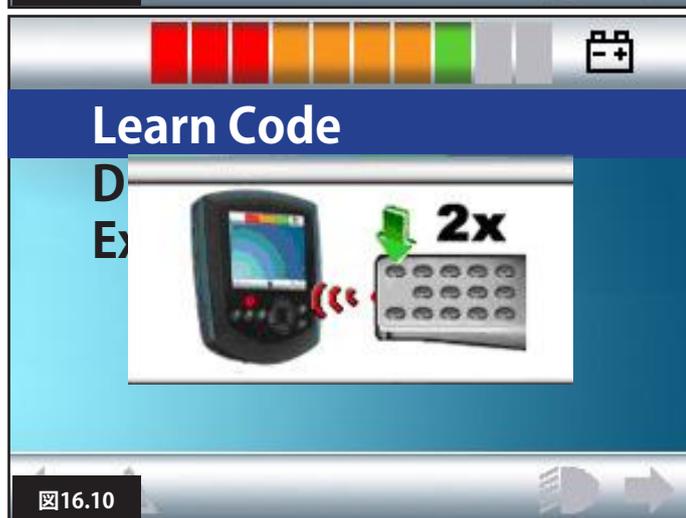


図16.10

16.3 赤外線コードの登録

赤外線コードは、以下に詳しく説明するように保存または削除できます。

1. 赤外線設定メニューに入ります (第16.2章)。
2. 機器を選択します。例:TV(図16.7)
3. 機器に対するコマンドが画面に表示されます (図16.8)。
4. 登録するコマンドを選択します。この例では、TV > [チャンネル上げる](Channel Up) (図16.8) です。
5. コマンドのハイライト中に、オムニの右ボタンを使って、[コード登録](Learn Code)を選択します。(図16.9)。
6. TVのリモコンをオムニの受信部LEDに向けて、TVのリモコンの[チャンネル上げる](Channel Up)のボタンを2回押します (図16.10)。
7. チェックマークが表示されると登録操作は完了です (図16.11と16.13)。
8. バツが表示されると登録操作は失敗です。再度行なってください (図16.12)。



図16.11



図16.12



図16.13



図16.14

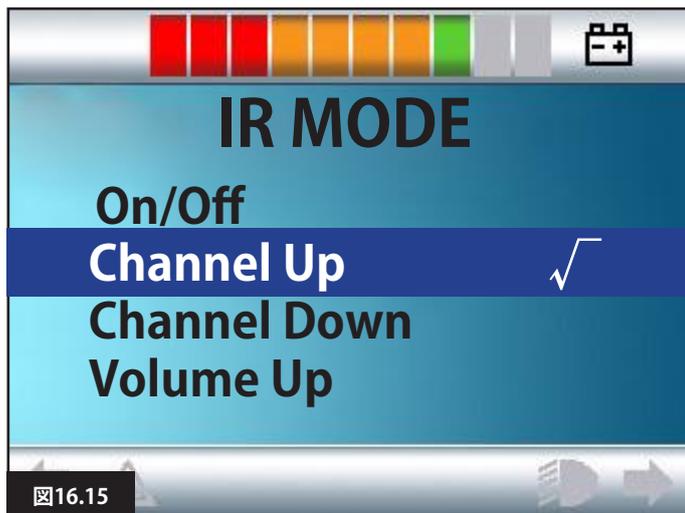


図16.15



図16.17

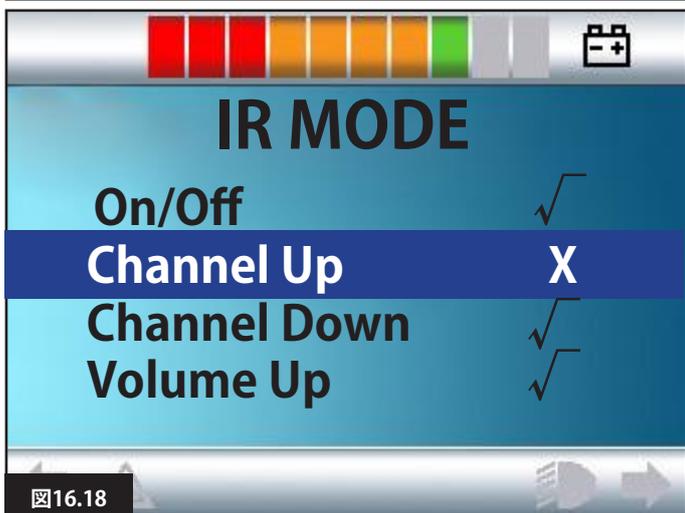


図16.18

9. 最初のコードの読み込みが完了したら、オン/オフボタンを押してオムニをオフにし、再びオンにしてください(図16.14)。
10. これで、登録が完了したコードの横にチェックマークが付きます(図16.15)。
11. 機器の残りのコードについて、ステップ4~8を行いません。残りのコードについては、スイッチオンとオフは不要です。

⚠ 警告:

別の機器を選ぶ場合は、最初のコードを読み込んだ後、スイッチオンとオフをしてください。その後は電源を遮断せずに新しい機器のコード読み取りを続けてください。

16.4 赤外線コードの有効化と無効化

赤外線コードは赤外線設定メニューで有効または無効にできます。コードが無効になると送信されなくなり、ユーザーメニューに表示されなくなります。

1. 赤外線コードを無効にするには、オムニのフロントパネルから-キーを選択します(図16.17)。
2. 無効化された赤外線コードが、ハイライトしたコマンドにXを付けて表示されます(図16.18)。
3. 赤外線コードを有効にするには、オムニのフロントパネルから+キーを選択します(図16.17)。
4. 有効化されたコードが、ハイライトしたコマンドにチェックマークを付けて表示されます(図16.19)。

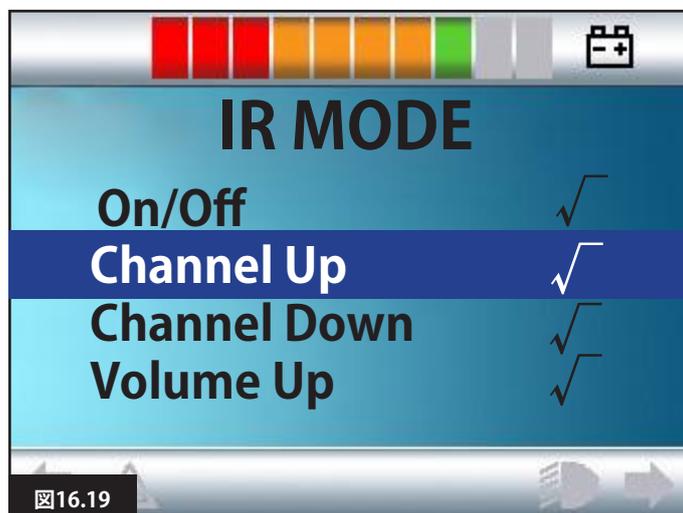


図16.19



図16.20



図16.21



図16.22



図16.23

16.5 赤外線コードの削除

特定のコマンドに対する赤外線コードを削除するには

1. 機器メニューで特定のコマンドをハイライトします (図16.20)。
2. 右ボタンを押します (図16.21)。
3. [コード削除](Delete Code)を選択します (図16.22)。

機器に対する赤外線コードをすべて削除するには

1. その機器のサブメニューから[全コード削除](Delete all Codes)を選択します (図16.23)。

⚠ 警告:

特定の機器に登録したコードをすべて削除するときは、オムニを再起動(スイッチオンしてからオン)して、コード削除を完了させてください。

オムニに保存済みの赤外線コードをすべて削除するには、赤外線設定メニュー内の[全コード削除](Delete all Codes)を選択します (図16.24)。

⚠ 警告:

[全コード削除](Delete all Codes)コマンドを選ぶと、R-Netが再起動してコード削除が完了します。

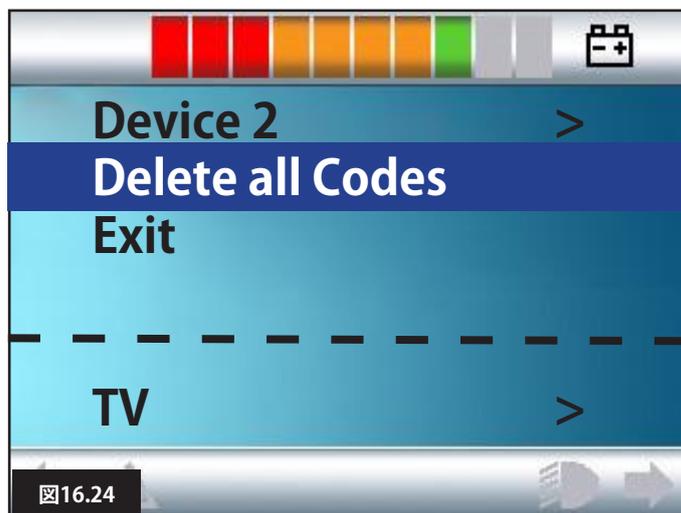


図16.24

17.0 使用上の注意

警告:

車椅子が予想外の動きをした場合は、ジョイスティック/ボタンを離すか、またはユーザースイッチを長押ししてください。そうすると、状況にかかわらず車椅子が止まります。

17.1 ハザード

次のような運転はおやめください:

1. 車椅子のユーザーマニュアルに記載された制限(最大傾斜、縁石の高さなど)を超える。
2. 湿った草地の傾斜など、車輪が滑りやすい場所や表面での運転。
3. コントロールシステムやその他のコンポーネントに修理が必要な場合。

警告:

R-Netコントロールシステムは極めて高い信頼性を得られるように設計され、製造では各部を厳しくテストしていますが、故障する可能性は(低くても)常にあります。システム故障の条件に応じて、コントロールシステムは直ちに(安全確保のために)車椅子を止めます。急ブレーキ操作によって椅子から落下する可能性が少しでもある場合、車椅子付属のシートベルトなどの拘束装置を、車椅子の稼動中は常にご使用いただくことが必須となります。Sunrise Medical社は、車椅子の急停止、または車椅子やコントロールシステムの誤った使用によって生じた損害について、一切責任を負いません。

警告:

本製品の異常作動、発熱、発火、発煙などの異常な兆候が見られる場合は、コントロールシステムの使用をおやめください。直ちにコントロールシステムの電源を切り、販売代理店にご連絡ください。Sunrise Medical社は、こうした条件を無視したことによって生じた損害について、一切責任を負いません。

警告:

電子機器は電磁波障害(EMI)の影響を受ける可能性があります。こうした電波障害はラジオ局、TV局、その他の無線送信機や携帯電話から発生する場合があります。本製品にEMIによるエラー動作が見られる場合、直ちにコントロールシステムをオフにして販売代理店にご連絡ください。Sunrise Medical社は、こうした条件を無視したことによって生じた損害について、一切責任を負いません。本製品は該当する国内および国際的なEMC法に準拠しています。



EMCとEMIの適合性全般の説明やアドバイスについては、お使いの車椅子のオーナーズマニュアル/取扱説明書をご覧ください。

車椅子のユーザーは、車椅子の安全上の警告にすべて従う必要があります。Sunrise Medical社は、こうした条件を無視したことによって生じた損害について、一切責任を負いません。

17.2 安全点検

コントロールシステムの電子回路は極めて高い安全性と信頼性を得られるように設計されています。内蔵のマイクロコンピューターが最大で毎秒100回の安全点検を行ないます。この安全監視に加えて、お客様は次の定期点検を行なってください。これらの点検で1つでもコントロールシステムに不合格があった場合は、車椅子を使用せず、販売代理店にご連絡ください。

17.3 毎日のチェック

コントロールシステムのスイッチを切り、ジョイスティックが曲がりたり損傷していないこと、押してから手を離すと中央に戻ることを確認します。問題がある場合は安全点検を中止して、販売代理店にご連絡ください。

17.4 毎週のチェック

このテストは、車椅子周辺が平らな床上の安全な空きスペースで行います。

1. コントロールシステムのスイッチを入れます。
2. 画面/バッテリーゲージが初期化後もオンになっていること、バッテリーゲージが適度な充電状態を示していることを確認します。
3. 駐車ブレーキが動く音がするまで、SIDジョイスティックをゆっくりと前に押すか、またはSID前ボタンを押します。車椅子が動き出します。
4. すぐにSIDジョイスティック/ボタンを離します。数秒以内に各駐車ブレーキが動く音がするはずです。
5. さらに、SIDジョイスティックをゆっくりと後ろ、左、右に押す、または該当するSIDの方向ボタンを押す、のテストを3回繰り返します。

警告:

これらのテストを持続運転で行なう場合、車椅子は選択済みの入力信号の方向に動くので注意してください。場合によっては車椅子を停止するか、または安全に終了させるために、持続運転に必要なスペースを確保してください。スペースが限られている場所や安全でない場合はこのテストを実施しないでください。

すべてのコネクタがしっかりと接続されていることを確認します。

ケーブルやコネクタに損傷がないことを確認します。

ジョイスティックの根元の薄いゴムカバーに損傷や亀裂がないことを確認します。
触らずに、目視でチェックしてください。

ボタンが食品や飲料で汚れておらず、損傷していないことを確認します。

コントロールシステムのコンポーネントがすべてしっかりと取り付けられていることを確認します。固定用のねじを強く締めすぎないでください。

17.5 保守点検

長くご愛用いただくために、車椅子とコントロールシステムはご利用開始から1年後に、販売代理店による点検を受けることを推奨します。点検時期について詳しくは、販売代理店にお問い合わせください。

販売代理店の詳細と

窓口電話番号を記入してください。



18.0 R-Netマウスモジュール

18.1 はじめに

このマウスモジュールを使うと、R-Netコントロールシステムを介してPCマウスを制御できます。ジョイスティック経由、またはオムニに接続した入力装置経由で行ないます。

18.2 コントロール

デフォルトの各コントロールは、ライティングコントロール装備のジョイスティックモジュールで操作するようにプログラムされています(図18.0)。

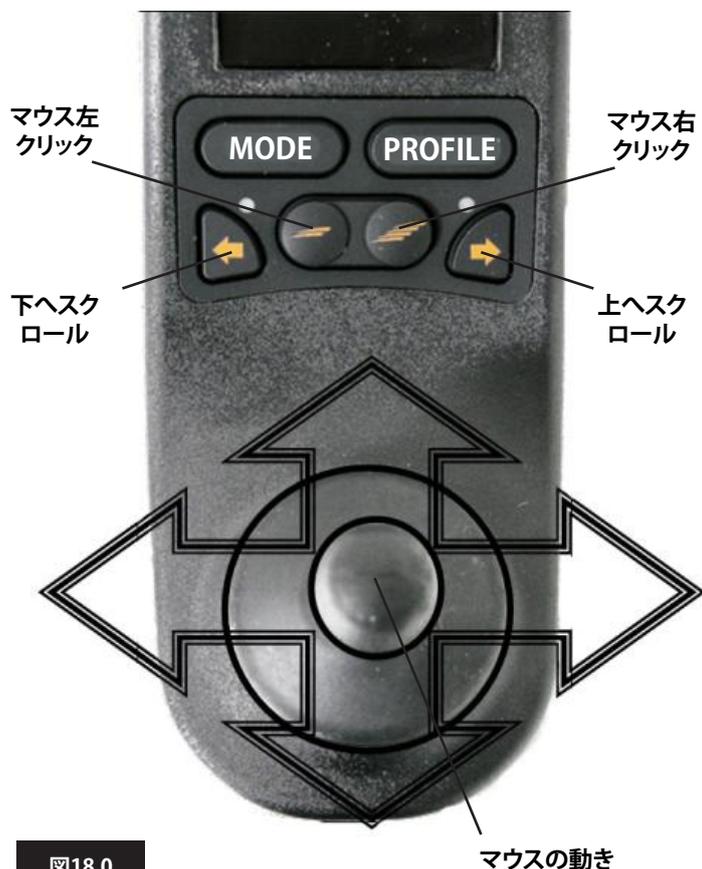


図18.0

マウスの動き

18.2.1 その他のコントロール(オムニ)

あらゆる入力装置とほとんどのSIDを使ってPCマウスを制御できますが、コントロールシステムのプログラミングが必要になります。R-Netコントロールシステムの操作は、接続している入力装置によってさまざまです。

車椅子が既に[マウスモード](Mouse Mode)で動作するようにプログラムされている場合、医療従事者または販売代理店がこのオプションを実演済みのはずで、

[マウスモード](Mouse Mode)オプションを追加したい場合や質問がある場合は、医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。

警告:

マウスモジュールにはスキャナー機能がありません。

18.3 操作の決まり

マウスモジュールには次の要件と制限があります。

マウスモジュールの操作範囲は10mです。

マウスモジュールには最大4台のPCのIDを保持できます。

PC上で接続解除をしない限り、マウスモジュールと対象PCとのペアリングは保持されます。

PCとのペアリングが完了すると、マウスモジュールはPCのIDを保存します。つまり、10mの操作範囲外も運転でき、コントロールシステムまたはPCの電源をオフにし、PCの電源を入れた範囲内に戻ると、Bluetooth接続は自動で復旧します。

マウスモジュールを複数のPCにペアリングするには、本書第18.6章のペアリングの説明を参照してください。

18.4 Bluetooth受信 Dongle

PCと一緒にマウスモジュールを操作するには、Bluetooth受信 Dongle を接続して、そのドライバーをインストールしてください。

Sunrise Medical社は次のBluetooth Dongleの使用を推奨します:

Trust BT-2400

Linksys USB BT100-UK

Belkin F8T012uk1 バージョン1000

警告:

車椅子をマウス機能と一緒に注文した場合、システムのインストールとお客様に合わせた設定が済んでいるはずで、医療従事者または販売代理店がその操作の実演を済ませているでしょう。マウス機能を追加したくても車椅子にこのオプション設定がない場合は、医療従事者または販売代理店にお問い合わせください。

警告:

プログラミングと診断は、必ず、Sunrise Medical電子コントロールシステムを十分に理解した医療従事者が実施してください。プログラミングの誤りは安全でない設定を車椅子に行なうことになりません。Sunrise Medical社は、コントロールシステムのプログラミングで工場出荷時の設定値を変更したことによって生じた損害について、一切責任を負いません。

18.5 システムの統合

マウスモジュールは、R-Netコントロールシステム内のどこにでも取り付けできます。図18.1および18.2を参照してください。

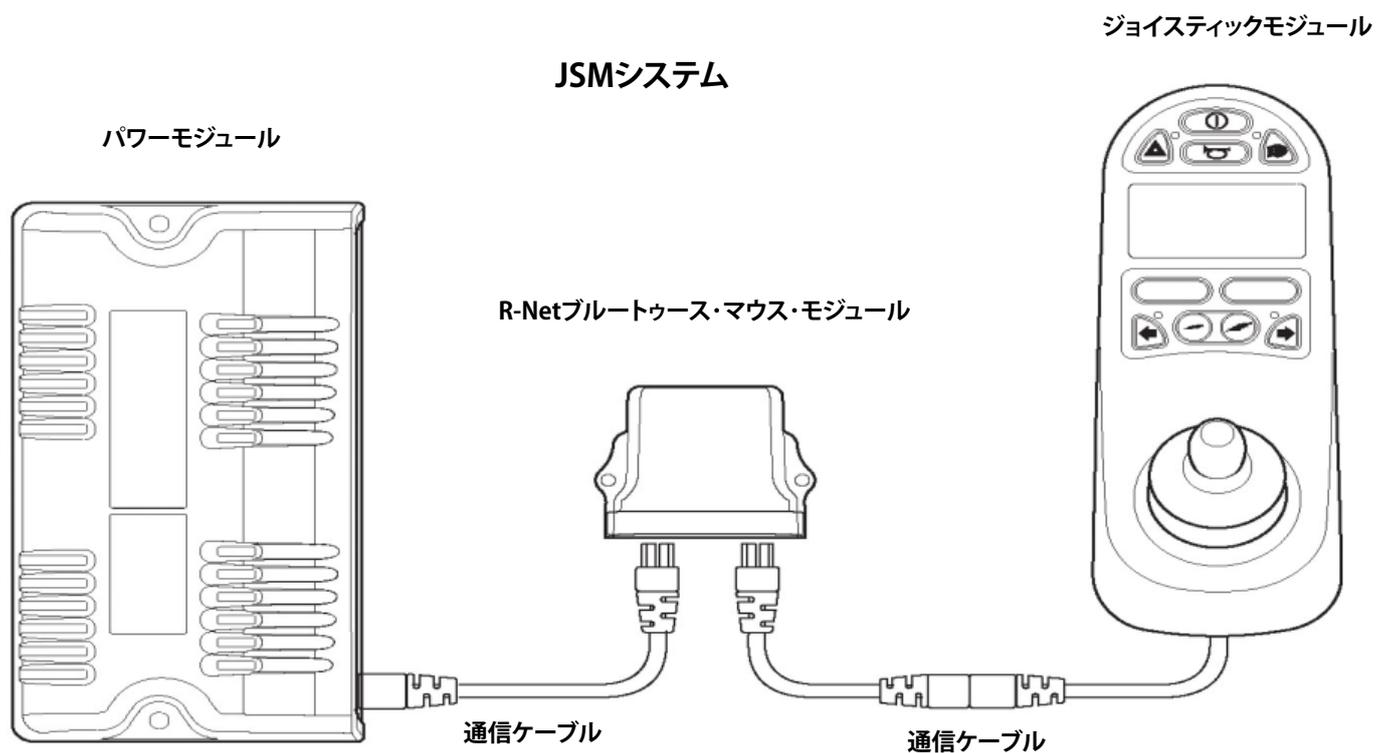


図18.1

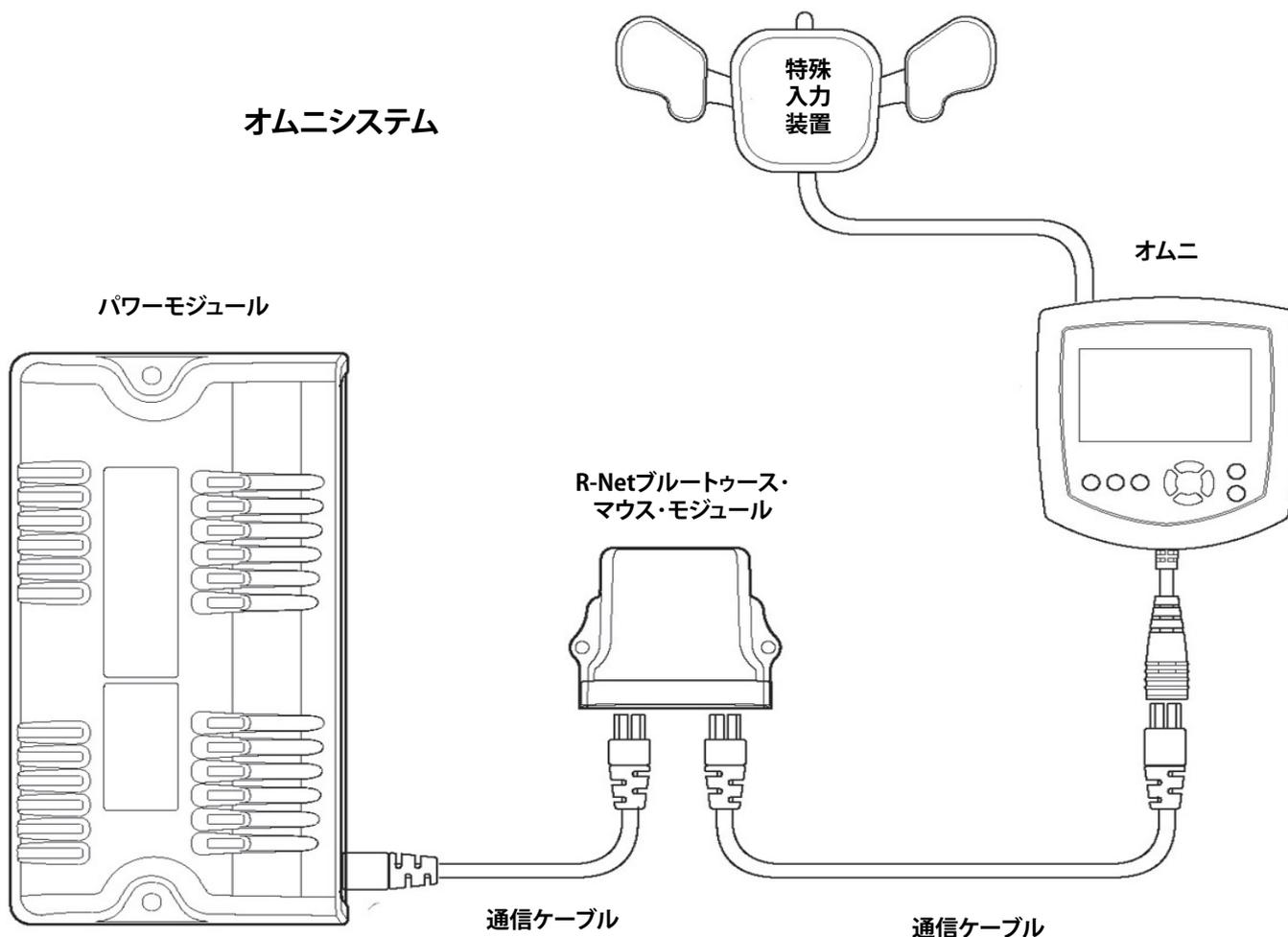


図18.2

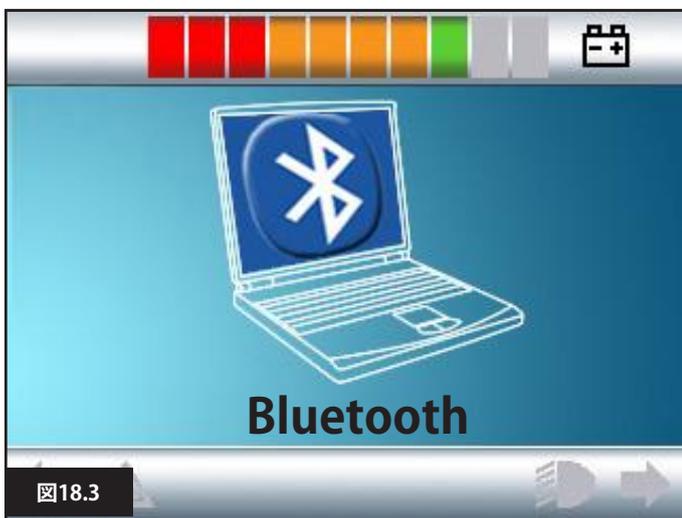


図18.3

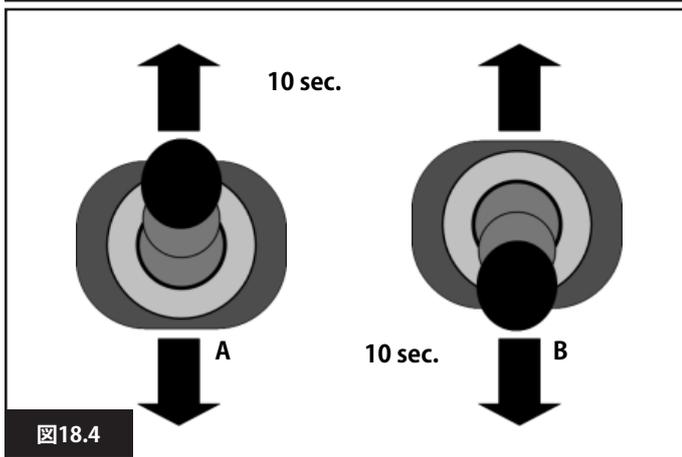


図18.4

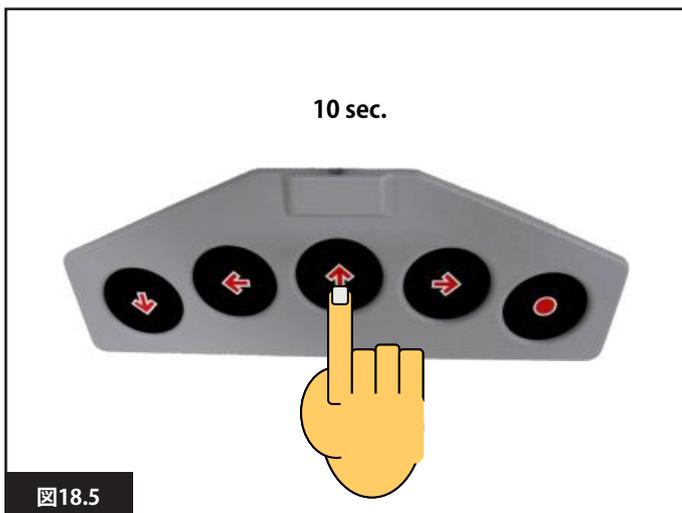


図18.5

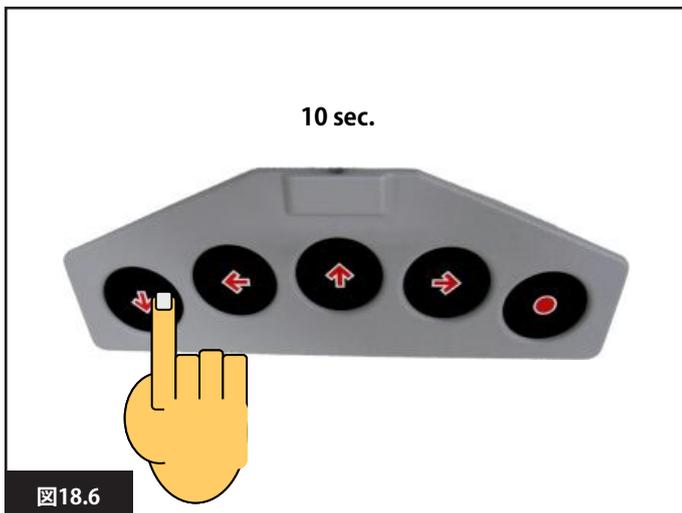


図18.6

18.6 ペアリング

PCを変更した場合や、どこかの他のPCを使う必要がある場合、この操作が必要になります。
 ペアリングとは、マウスモジュールと特定のPCとを最初に設定することを説明する用語です。
 ペアリングでは、R-Netコントロールシステムと使用するPCとに一連の手順を実施します。次の章をご覧ください。

⚠ 警告:

R-Netマウスモジュールは、25mの範囲内に置くPCにのみペアリングしてください。25m範囲内で複数のペアリングを行なった場合、Sunrise Medical社は、R-Netマウスモジュールの影響によって生じたいかなる損害についても、一切責任を負いません。

18.7 マウスモードの設定

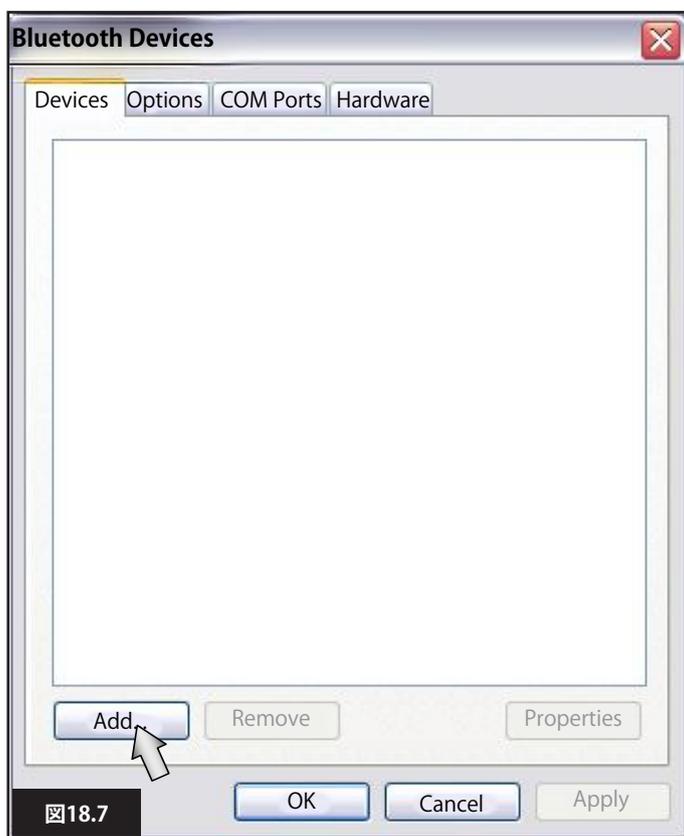
マウスモジュールは検出モードになっている必要があります。次の手順に従ってください:

1. PCの絵の画面が表示されるまで、[モード](MODE)ボタンを押します(マウスモード、図18.3)。
2. 入力装置を前方に操作して、警告音が鳴るまで約10秒間保持します。次に離します(図18.4Aまたは18.5)。
3. 入力装置を後方に操作して、警告音が鳴るまで約10秒間保持します。次に解除します(図18.4Bまたは18.6)。(方向の切替時に短い警告音が鳴ります)。
4. これでマウスモジュールが検出モードになり、PCとのペアリング準備ができました。

⚠ 警告:

検出の初期化が必要なのは、PCの設定ごとに1度だけです。

次のページをご覧ください。

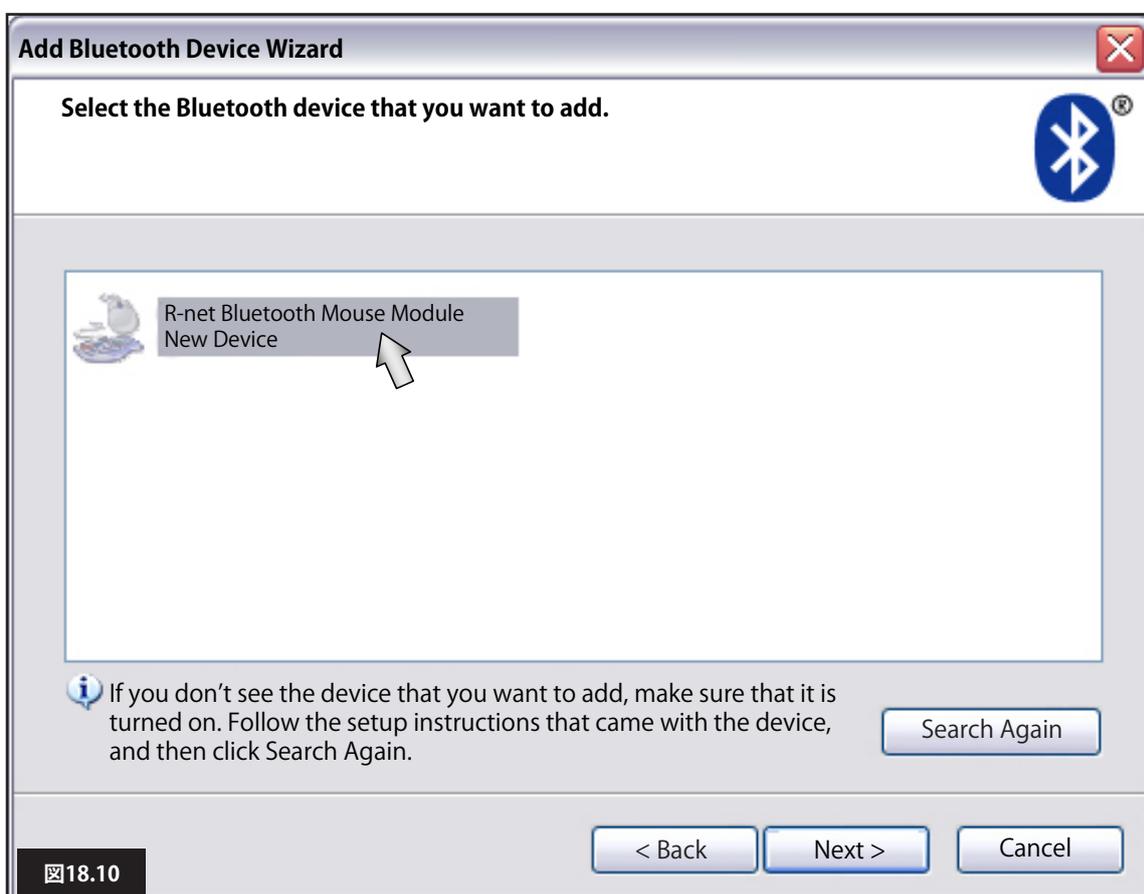
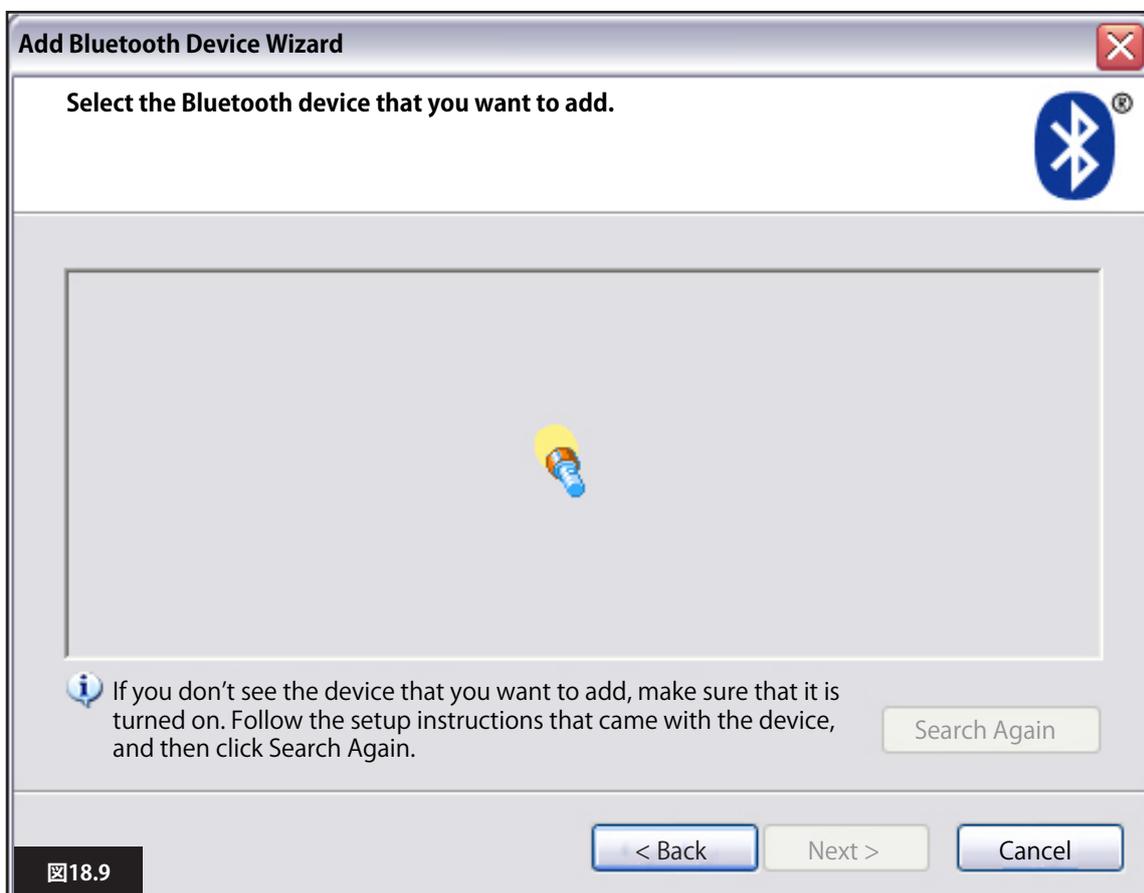


18.8 PCとのペアリング

使用するPCにBluetooth接続機能が必要です。

1. お使いのPCにBluetoothデバイスを登録します。
2. 次のウィンドウが表示されます (図18.7)。
3. [追加]をクリックします (図18.7)。
4. Bluetoothデバイスのウィザードが起動します (図18.8)。
5. [セットアップを完了し、デバイスは発見可能になりました]のチェックボックスをオンにしてください (図18.8)。
6. ハイライトされたら[次へ]をクリックします (図18.8)。
7. PCが付近のBluetoothデバイスを探します (図18.9)。
8. 次の画面が表示され、付近で接続可能なBluetoothデバイスが表示されます (図18.10)。
9. [R-Net Bluetoothマウスモジュール]をクリックし、[次へ]をクリックします (図18.10)。





向かいのページのリストをご覧ください。

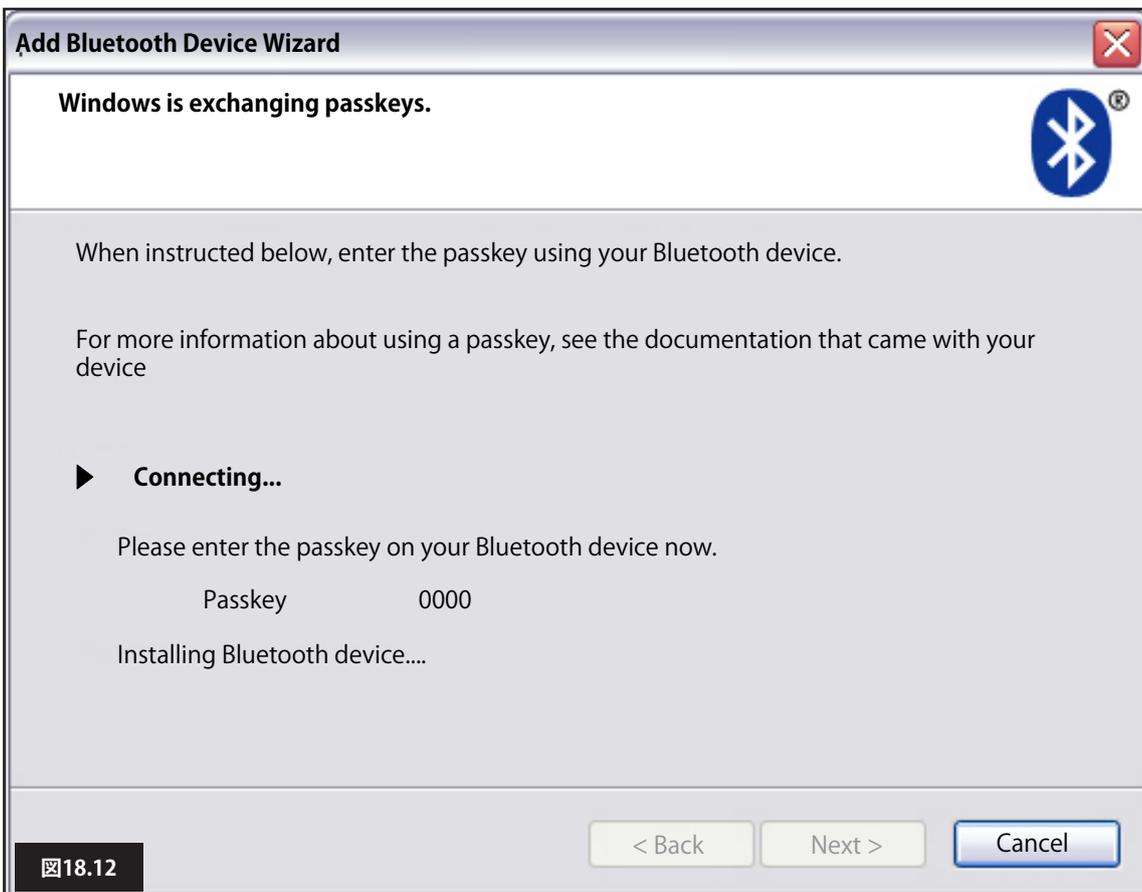
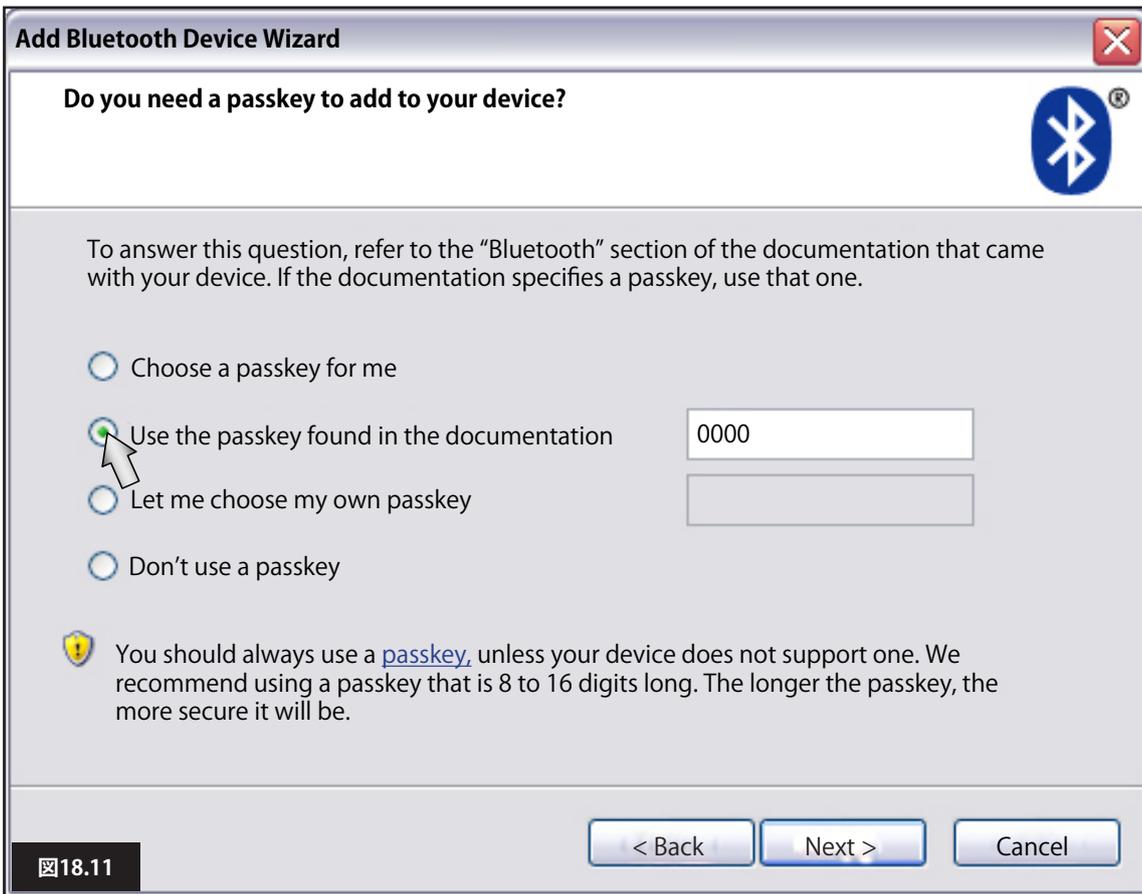




図18.13

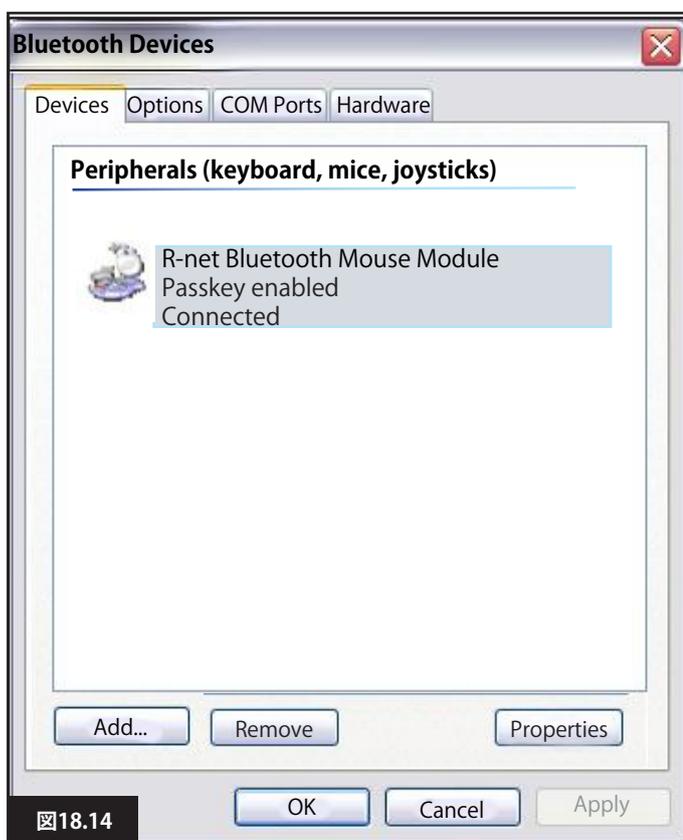


図18.14

10. [文書内のパスキーを使用]をクリックします(図18.11)。
11. パスキー[0000]を入力してから、[次へ]をクリックします(図18.11)。
12. PCがマウスモジュールに接続し、通信します(図18.12)。
13. 接続が完了すると完了画面が表示されます(図18.13)。
14. [完了]をクリックします(図18.13)。
15. 次のウィンドウが表示され、Bluetoothモジュールの青いLEDが点灯します(図18.14)。
16. 失敗した場合は、[R-Net Bluetoothマウスモジュール]を、次に[削減]をクリックします(図18.14)。再度ステップ1から手順を開始してください。

18.9 複数のPCとのペアリング

接続を求めている新しいPCの範囲内にある場合、第18.8章に示す手順1～16を行なってください。

警告:

R-Netマウスモジュールは、25mの範囲内に置くPCにのみペアリングしてください。25m範囲内で複数のペアリングを行なった場合、Sunrise Medical社は、R-Netマウスモジュールの影響によって生じたいかなる損害についても、一切責任を負いません。



CJSM2

19.0 R-NetCJSM2コントロールシステム

19.1 はじめに

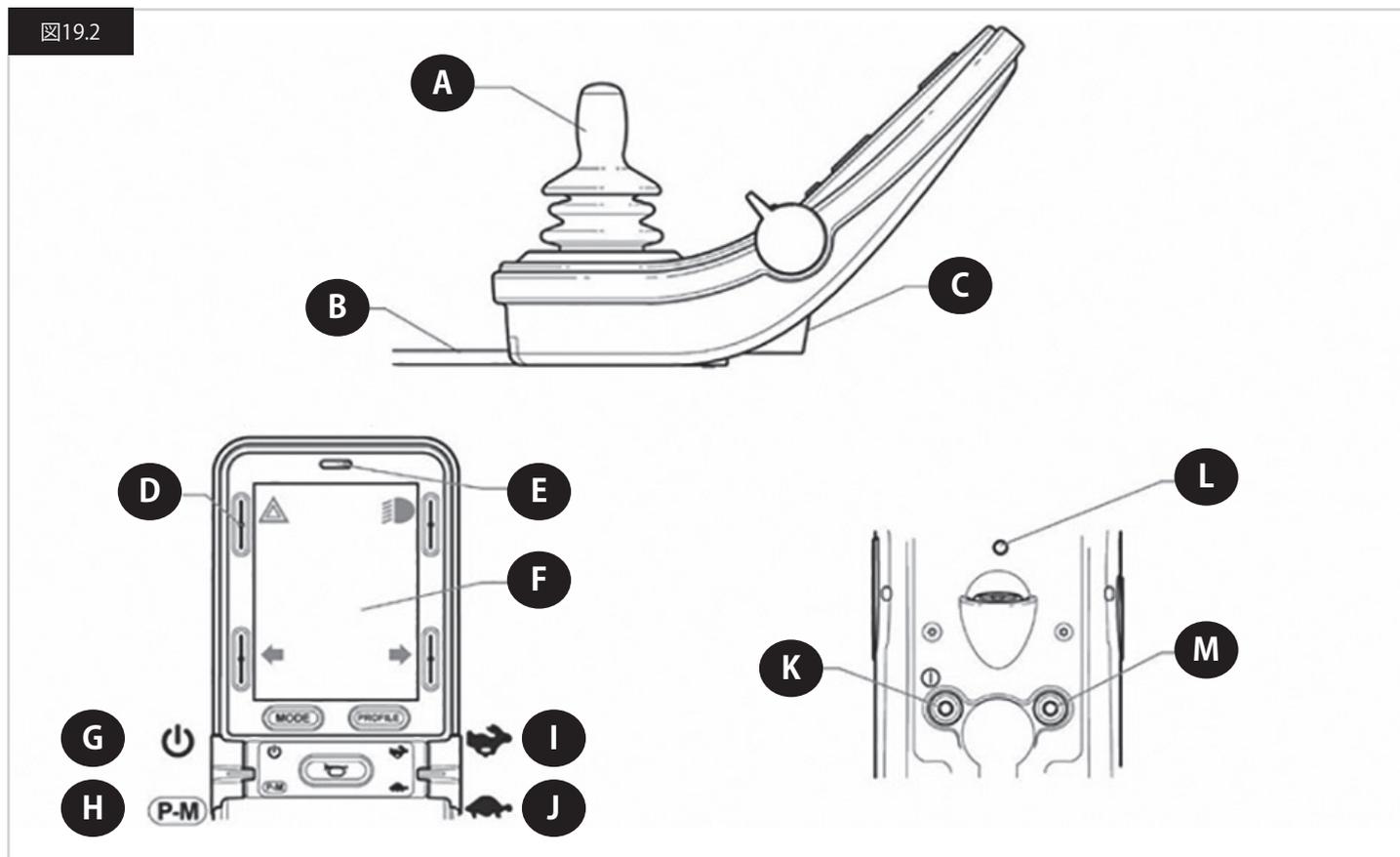
R-Net電動車椅子コントロールシステムの操作はシンプルでわかりやすくなっています。このコントロールシステムには長年の研究によって培われた最新技術の電子部品を搭載しており、使いやすさと高い安全性を備えています。他の電子機器と同様に、本製品を正しく操作していただくことで最高の信頼性をお約束できます。

車椅子の信頼性と安全性を守るために、本章を熟読してください。

図19.1



図19.2



19.2 コントロール (図19.1、図19.2、図19.3)。

ジョイスティックモジュールは、ライティングコントロールがあってもなくても使用できます。コントロールはどちらも同じですが、ライティングボタンのマークはライティングコントロールバージョンでのみ表示されます。

A. ジョイスティック

ジョイスティックの主な機能は、車椅子の速度と方向を制御することです。ジョイスティックを中央位置から強く押すほど車椅子は速く動きまわります。ジョイスティックを離すと自動的にブレーキがかかります。

B. 通信ケーブル

通信ケーブルは電気信号をパワーモジュールに送受信します。

C. 充電ソケット

このソケットは車椅子の充電またはロック専用です。このソケットにはプログラミングケーブルを接続しないでください。このソケットを、ほかのいかなる電気機器にも電源として使わないでください。他の電気機器を接続すると、コントロールシステムを損傷したり、車椅子のEMC性能に影響を及ぼす恐れがあります。

⚠ 注意!

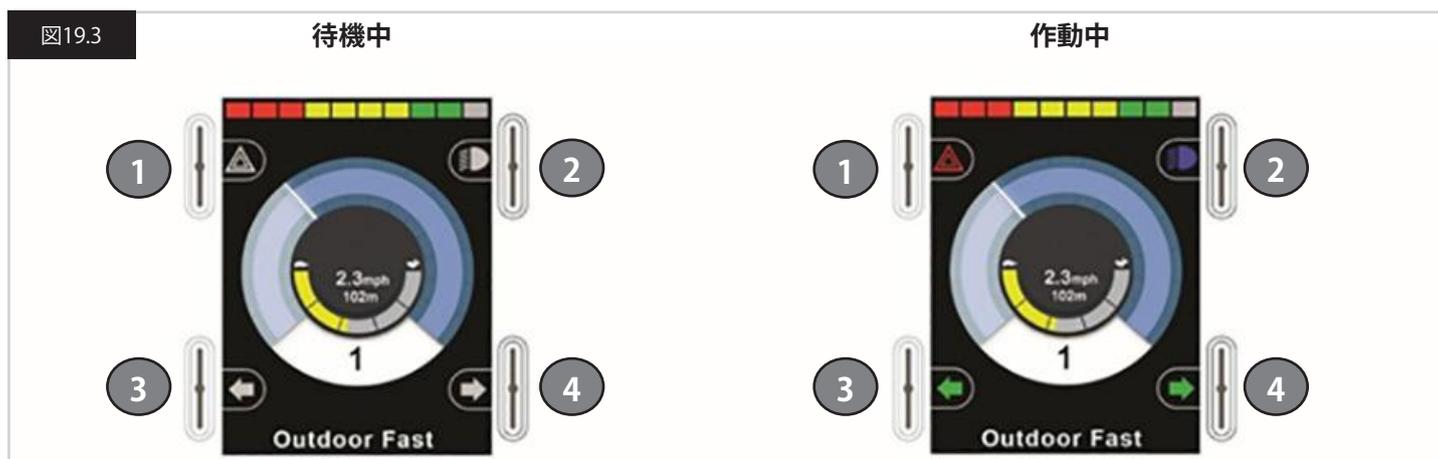
車椅子に付属のバッテリー充電器以外の機器、またはロックキーをソケットに接続した場合、コントロールシステムの保証は無効になります。

D. 画面ボタン

これらのボタンでライティング機能を操作します：1. ハザード、2. ライト、3. 左ウィンカー、4. 右ウィンカー。各ボタンの機能は、ボタン横のLCD画面上のアイコンで説明します (図19.3)。ボタンを押すと、該当する機能が有効または無効になります。有効になると、LCD上のアイコンが機能によって点灯または点滅します。

メモ:

ライティングシステムが車椅子にない場合、これらのボタンは無効になります。設定にかかわらず、左上のボタンを短く押すと設定メニューが開きます。詳しくは、設定メニューの章を参照してください。



E. 赤外線受信部 - ライトセンサー - LCD診断LED

赤外線受信部によって赤外線コードと信号が外部機器から入力できるようになります。赤外線の設定と操作を参照してください。周囲光センサーは画面の明るさを自動で調整します。設定メニューを参照してください。LCD画面に不具合があると、LCD診断LEDで、コントロールシステムのスイッチが入ったことを示します。

F. LCD画面

コントロールシステムの状態はLCD画面を見て確認できます。画面のバックライトが点灯していると、コントロールシステムはオンになっています。詳細は一時画面の章を参照してください。

G. オン/オフボタン (左パドル)

左パドルを前に倒すと、オン/オフパドルスイッチを操作できます。オン/オフパドルを操作します。初期化画面の後で基本画面が表示されます (図19.3)。

- お客様に適切な速度設定になっているかを確認します。
- ジョイスティックを押して、車椅子の速度と方向を制御します。

メモ:

コントロールシステムのスイッチを入れる前か入れた直後にジョイスティックを押すと、ジョイスティック表示画面が点滅します (図19.33)。ジョイスティックを離して中央に戻し、通常の操作を再開してください。5秒以内にジョイスティックを離さなかった場合、その後でジョイスティックを離して押し直しても、車椅子は動きません。この場合、診断画面が表示されます。この状態をリセットするには、コントロールシステムのスイッチを切ってから入れ直します。

メモ:

車椅子のスイッチを入れてもジョイスティックを押さなかった場合、診断画面が表示されます(図19.35)。その後、R-Netが車椅子の電気系統内の問題を検知します。

H. 設定情報 - モードボタン(左パドル)

設定情報/モードのパドルスイッチを使うと、コントロールシステムで利用できる運転設定情報や、操作モードを選択できます。選択シーケンスは、利用できる各設定情報から利用できる各モードへと進みます。

コントロールシステムのプログラム内容によっては、新しい設定情報を選択したときに一時画面が表示されることがあります。詳細は一時画面の章を参照してください。

利用できる設定情報とモードは、コントロールシステムがプログラムされている内容と、接続される出力デバイスによって異なります。左パドルを後ろに倒すと、設定情報/モードパドルスイッチを操作できます。

I. 速度上げる(右パドル)**J. 速度下げる(右パドル)**

速度パドルでコントロールシステムの速度設定を調整できます。

コントロールシステムのプログラム内容によっては、パドルを操作したときに一時画面が表示されることがあります。詳細は一時画面の章を参照してください。

速度パドルのデフォルト操作は「一時」で、パドルを前に倒すと速度設定が上がり、後ろに倒すと速度設定が下がります。

速度パドルのタイミングと動作を変えるようにプログラムできます。また、動作が継続するようにも変更できます。

回転電位差計と似ています(これも利用できます)。

K. 外部オン/オフスイッチジャック

介助者用ボタンなどの外部スイッチから、コントロールシステムをオンまたはオフにできます。

⚠ 注意!

外部機器を接続していないときは、ジョイスティックモジュールに同梱のゴム栓をジャックソケットに差し込んでください。

L. 送信部

CJSM2には赤外線送信部と受信部があり、一般に使われる赤外線デバイス(TV用やDVD用、ケーブル/衛星用のリモコン、または自動ドアの開閉装置などの環境上のコントロール)をCJSM2で再現できます。正しく設定されると、ジョイスティック(や他の入力装置)を使って、またはシステムに接続した特殊入力装置から赤外線コントロールを操作できます。

M. 外部設定情報スイッチジャック

Buddy-Buttonなどの外部スイッチから、設定情報/モードのパドル機能を実行できます。

コントロールシステムを持続運転操作または持続アクチュエーターコントロール操作に設定している場合、この入力が緊急停止スイッチとして機能します。

この入力には、次のようにプログラムして他の機能を組み込みます:

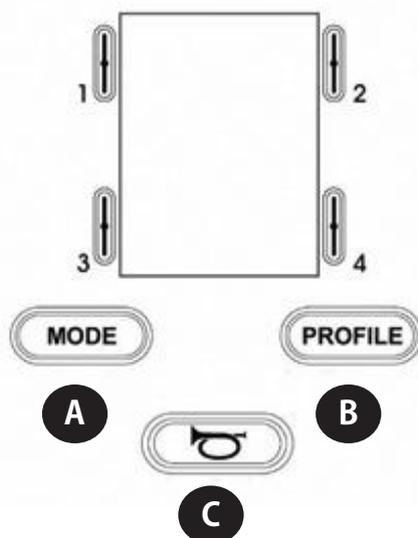
- スイッチパッドで複数のシートを制御
- スイッチパッドでBluetooth機能を制御。
- 接続スイッチまたはこの入力への配線が故障した場合に備えて、コントロールシステムの操作を設定。

⚠ 注意!

外部機器を接続していないときは、ジョイスティックモジュールに同梱のゴム栓をジャックソケットに差し込んでください。

19.3 ボタン (図19.4)

図19.4



- A. モードボタンを押すと、コントロールシステムの有効な各モードを閲覧できます。利用できるモードの数は、コントロールシステムがどのようにプログラムされているかに左右されます。プログラミングについては、Sunrise Medicalの販売代理店にお問い合わせください。
- B. 設定情報ボタンを押すと、コントロールシステムの有効な各設定情報を閲覧できます。利用できる設定情報の数は、コントロールシステムのプログラムによります。コントロールシステムのプログラム内容によっては、ボタンを押したときに一時画面が表示されることがあります。プログラミングについては、Sunrise Medicalの販売代理店にお問い合わせください。
- C. このボタンを押すとクラクションが鳴ります。

19.4 LCD画面の詳細

コントロールシステムの状態はLCD画面を見て確認できます。

R-NetCJSM2の画面には共通のコンポーネントがあり、これらは常に表示されます。他にも特定の条件下で表示されるコンポーネントがあります。反対側は、ライトの有無にかかわらず、よく使う運転画面の表示です。

この画面の情報は次のように4分割されます: バッテリー表示部、情報バー、メインエリア、テキストバー。各エリアは以下の各章で詳しく説明します。

図19.5



1. バッテリー表示部
2. 情報バー
3. メインエリア
4. テキストバー

バッテリー表示部(図19.6)

バッテリーの残量を表示し、ステータスをアラートで知らせることができます:

- ・ **点灯:** 良好な状態を示します。
- ・ **ゆっくりと点滅:** コントロールシステムは正しく機能していますが、できるだけ早くバッテリーを充電してください。
- ・ **ステップアップ:** 車椅子のバッテリーが充電中です。車椅子の運転は、充電器を抜いてコントロールシステムのスイッチを切り、入れ直すまでできません。

情報バー(図19.7~図19.11)

このエリアには情報や警告のマーク、時計が含まれます。

フォーカス(図19.7)

コントロールシステムに、補助ジョイスティックモジュールやデュアル介助者用モジュールなど、直接制御の方法が複数ある場合は、車椅子を制御しているモジュールにフォーカスのマークが表示されます。

BLUETOOTHマークのアイコン(図19.8)

有効なときに表示されます。マークの色が白い場合は、システムが外部Bluetooth機器とペアリングされていません。マークの色が青い場合は、システムは外部Bluetooth機器とペアリングされています。システムが検出モードになっている場合、アイコンは青色で点滅します。

モーター温度(図19.9)

熱による損傷から保護するために、コントロールシステムがモーターへの電力を意図的に下げた場合に表示されます。

コントロールシステム温度(図19.10)

熱による損傷からコントロールシステム自体を保護するために、その電力を意図的に下げた場合に表示されます。

時計(図19.11)

現在時刻を数字で表示します。時計はユーザーが調整できます。

次のオプションを調整できます:

- ・ 可視性。時計を画面に表示するかどうか。
- ・ 表示方式。12時間制または24時間制。
- ・ 時刻。ユーザーが時刻を調整できます。

これらの調整は設定メニューで行ないます。詳しくは、設定メニューの章を参照してください。

テキストバー(図19.12)

画面のこのエリアに、コントロールシステムの動作状態に関するテキストを表示します。テキスト文字列とは、たとえば、設定情報名、モード名、軸名です。これらのテキスト文字列はプログラム可能です。

図19.6



図19.7



図19.8



図19.9



図19.10



図19.11

🕒 21.30

図19.12

Outdoor Fast

メイン画面エリア

このエリアには、コントロールシステムで現在操作中のモードに応じた、さまざまな情報が入ります。必要に応じて、このエリアには通常のシステム情報を表示することもできます。

運転モード画面 (図19.13)

車椅子の運転制御に関するマークを表示します。

現在の設定情報 (図19.14)

現在選択している設定情報を数字で示します。

速度表示部 (図19.15)

車椅子の速度をグラフで表示します。速度が上がるにつれて、背景色を変えながら白い針がアーク (弧) に沿って動きます。表示する速度の目盛りは、ゼロから、プログラム可能なパラメーター [高表示速度] (Max Displayed Speed) に相当する速度までになります。

デジタル速度表示 (図19.16)

実際の車椅子の速度をデジタル形式で表示します。表示はmph (マイル時) またはkm/h (キロ時) に設定、あるいはオフにできます。これらのオプションは、プログラム可能なパラメーター [表示速度] (Display Speed) で設定できます。

最高速度表示部 (図19.17)

現在の最高速度設定を表示します。左側の区画が点灯すると、速度設定はプログラムされた前、後ろ、およびターンの最低速度に対応します。この表示部では低い設定値を表示することはないため、左側の区画は常に完全に点灯しています。全区画が完全に点灯すると、速度設定はプログラムされた前、後ろ、およびターンの最高速度に対応します。

オドメーター (図19.18)

車椅子が走行した距離の合計、または最後にリセットして以降の移動距離を示します。設定メニューから選択できます。詳しくは、本章の「設定メニュー」を参照してください。表示はmph (マイル時) またはkm/h (キロ時) に設定、あるいはオフにできます。これらはデジタル速度表示に影響するプログラム可能なパラメーター [表示速度] (Display Speed) で設定できます。

図19.13

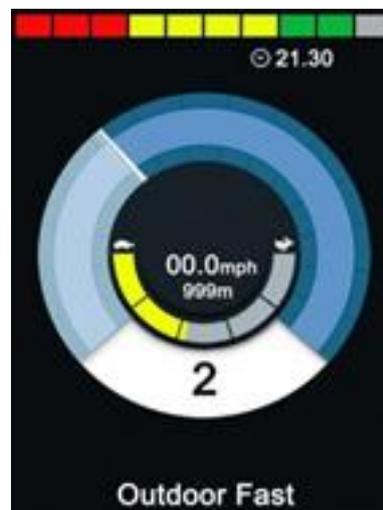


図19.14



図19.15

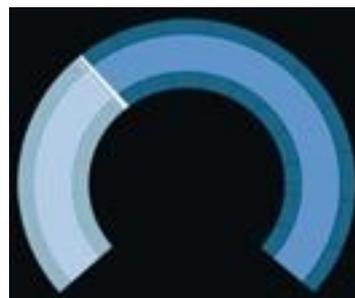


図19.16

11.3mph

図19.17

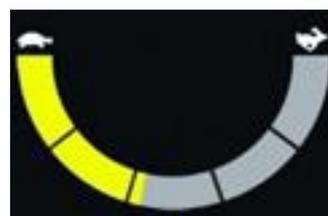


図19.18

201m

制限 (図19.19)

車椅子の運転が禁止されている場合、この赤色のマークが点滅します。

車椅子の速度が、たとえば高い座席によって制限されている場合、このオレンジ色のマークが表示されます。

持続運転 (図19.20)

このマークは、コントロールシステムを持続運転操作に設定している場合に表示されます。

一時画面 (図19.21～図19.22)

一時画面が表示されるようにプログラムされている場合、速度ボタンまたは設定情報ボタンを押すと、次のような画面が表示されます。



速度スイッチ
一時画面 = 図19.21

設定情報

設定情報ボタン。
一時画面 = 図19.22

シーティングモード画面 (図19.23)

車椅子のシーティング制御に関するマークを表示します。作動対象として現在選択している椅子の部分の絵と、その名称、作動方法を示す矢印を表示します。

シーティングの調整は次の手順で行ないます:

- ・ ジョイスティックを左または右に動かして、操作したい軸を選択します。
- ・ ジョイスティックを前または後ろに動かしてシートを動かします。

持続シーティングコントロール (図19.24)

このマークは、コントロールシステムを持続シーティングコントロール操作に設定している場合に表示されます。

図19.19



図19.20



図19.21



図19.22



図19.23



図19.24



BLUETOOTHモード画面(図19.25～図19.26)

初期のBluetoothモード画面は、CJSM2の設定が1つのデバイスを制御するようになっているか、または複数のデバイスかで異なります。

1つのデバイスのみを制御する設定の場合、図19.25に示すような画面が表示されます。

複数のデバイスを制御する設定の場合図19.26に示すような画面が表示されます。

The ジョイスティックを使ってメニューを移動し、制御するデバイスを選びます。

前や後ろに倒すとメニュー内を移動します。

右に倒すとハイライトされた機器を選択します。

Bluetoothの操作に関する詳細は、Bluetoothの章を参照してください。

BLUETOOTH画面のプログラミング

各デバイスを説明するテキストは、プログラム可能なパラメーター[デバイス名](Device Name)から設定できます。

各デバイスを表す画面のマークは、プログラム可能なパラメーター[画面の絵](Screen Graphic)から設定できます。

お住いの地域のSunrise Medical販売代理店にご連絡ください。

BLUETOOTHデバイスの取り外し

設定メニューに入り、Bluetoothを選択します。

取り外したいデバイスをオフに設定します。

フライトセーフモード

通常、飛行機の搭乗中は無線通信を無効にすることになっています。

設定メニューに入り、Bluetoothを選択します。

デバイスをすべてオフにします。

一般情報のマーク

低速モード(図19.27)

このメッセージは、ユーザースイッチの接続が解除され、引き続き低速運転ができるように、コントロールシステムがプログラムされている場合に表示されます。

タイマー(図19.28)

コントロールシステムの状態が変化するときに表示されます。たとえば、モジュールの再設定を行なうときです。

図19.25

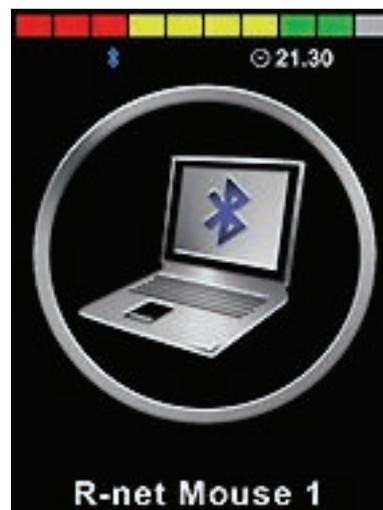


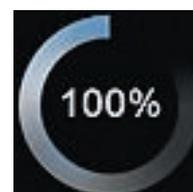
図19.26



図19.27



図19.28



リスタート(図19.29)

コントロールシステムの再起動が必要なとき、たとえばモジュールの再設定後は、このマークが点滅します。

スリープ(図19.30)

このマークはR-Netがスリープに移行する前に、短時間表示されます(待機中)。

バツとチェックマーク(図19.31)

これらのマークは設定手順を行なっている間に表示されます。

- ・ チェック = 正しく完了しました。
- ・ バツ = 正しく完了しませんでした。

緊急停止(図19.32)

持続運転操作や持続シーティングコントロール操作を行なうように、コントロールシステムがプログラムされている場合、通常は緊急停止スイッチが外部設定情報/モードスイッチジャックに接続されます。

緊急停止スイッチが作動したり接続解除された場合、このマークが表示されます。

図19.29



図19.30



図19.31

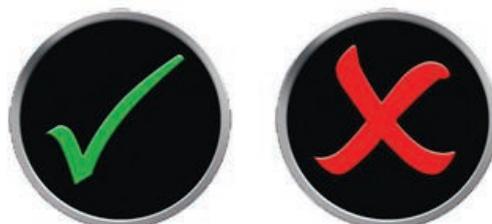


図19.32



ジョイスティックの移動(図19.33)

コントロールシステムのスイッチを入れる前、または入れた直後にジョイスティックを操作した場合、ジョイスティックの移動を示す画面が点滅します。

ジョイスティックを離して中央に戻し、通常の操作を再開してください。

5秒以内にジョイスティックを離さなかった場合、その後でジョイスティックを離して操作し直しても、車椅子は動きません。

この場合、診断画面が表示されます。

この状態をリセットするには、コントロールシステムのスイッチを切ってから入れ直します。

図19.33

**コントロールシステムのロック(図19.34)**

コントロールシステムがロックされると表示されます。

図19.34

**診断画面(図19.35)**

コントロールシステムの安全回路が作動中で、コントロールシステムから車椅子を操作できなくなっています。診断画面が表示されます。

システムのエラーです。車椅子の電気システムのどこかに問題があることをR-Netが検知しました。

エラーがISMなどの作動しないモジュールで起きて、運転モードが選択されている場合、運転はできますが、診断画面が断続的に表示されます。

エラーテキストの詳しい説明と診断手順については、診断の箇所を参照してください。

図19.35

**設定メニュー(次ページ図19.36)**

設定メニューからユーザーに関係する各調整ができます。このメニューにアクセスするには、左上の画面ボタンを1秒間長押しします。

よく使う設定メニューが図19.36のように表示されます。

ジョイスティックを前や後ろに動かすと、画面を上や下に移動できます。

各メニュー項目を以下の各章で説明します：

時間(TIME)

ジョイスティックを右に倒すとサブメニューに入ります。次のような時間に関する機能のオプションがあります：

時間設定(Set Time)：

現在の時刻を設定できます。

時間表示(Display Time)：

時間表示の方式をセットしたり、表示をオフにしたりします。12時間制、24時間制、オフから選びます。

距離(DISTANCE)

ジョイスティックを右に倒すとサブメニューに入ります。次のようなオドメーターのデータと機能のオプションがあります：

総距離(Total Distance)

パワーモジュールに保持された値で、そのパワーモジュールを使って運転した総距離を表します。

移動距離(Trip Distance)

ジョイスティックモジュールに保持された値で、前回のリセット以降の総距離を表します。

表示距離(Display Distance)

ジョイスティックモジュールのオドメーターへの表示を、総距離(Total Distance)にするか移動距離(Trip Distance)にするかを設定します。

移動距離の削除(Clear Trip Distance)

ジョイスティックを右に倒すと、移動距離(Trip Distance)の値を削除します。

バックライト

ジョイスティックを右に倒すとサブメニューに入ります。次のようなバックライトに関する機能のオプションがあります：

バックライト(Backlight)

LCDバックライトの明るさを0%~100%の範囲で設定します。

自動バックライト(Auto Backlight)

ジョイスティックモジュールには周囲光センサーが搭載されており、画面の明るさを自動で調整します。オンまたはオフを選択してプログラムできます。オンに設定すると、光センサーの値にもとづいて、画面の明るさを調整します。オフに設定すると、光の強さが変わっても画面の明るさは変わりません。

バックライトのタイムアウト(Backlight Timeout)

入力装置から別の指示を受けない限り、バックライトが作動し続ける時間の長さを調整します。0~240秒の間で調整できます。

Bluetooth

ジョイスティックを右に倒すとサブメニューに入り、Bluetoothモード画面を設定します。

詳しくは、Bluetoothの設定と操作の章を参照してください。

赤外線の設定(IR Setup)

ジョイスティックを右に倒すとサブメニューに入り、赤外線コードの登録や削除を行ないます。

詳しくは、赤外線の設定と操作の章を参照してください。

図19.36



19.5 プログラミング (図19.37)

ジョイスティックを右に倒すとサブメニューに入り、ユーザーエクスペリエンスの機能を次のようにプログラミングします。

スリープ(Sleep)

入力装置からの指示がない場合に、コントロールシステムがスリープに入るまでの時間を設定します。

音量(Sounder Volume)

ボタンを押したときに鳴る音の大きさを設定します。

クラクション音量(Horn Volume)

クラクションを使うときの音量を設定します。

起動音(Start-up Beep)

コントローラーをオンにしたときに短い音を鳴らすかどうかを設定します。

一時画面(Momentary Screens)

プログラムした一時画面を表示するかどうかを設定します。

表示速度(Display Speed)

車椅子の速度の表示方法をmph(マイル時)、km/h(キロ時)、オフの中から選んで設定します。

表示(Displays)

デジタル運転表示の方式をオドメーター、速度、オドメーターと速度両方の中から選んで設定します。

診断(Diagnostics)

コントロールシステムから診断情報を確認できます。

タイマー(Timers)

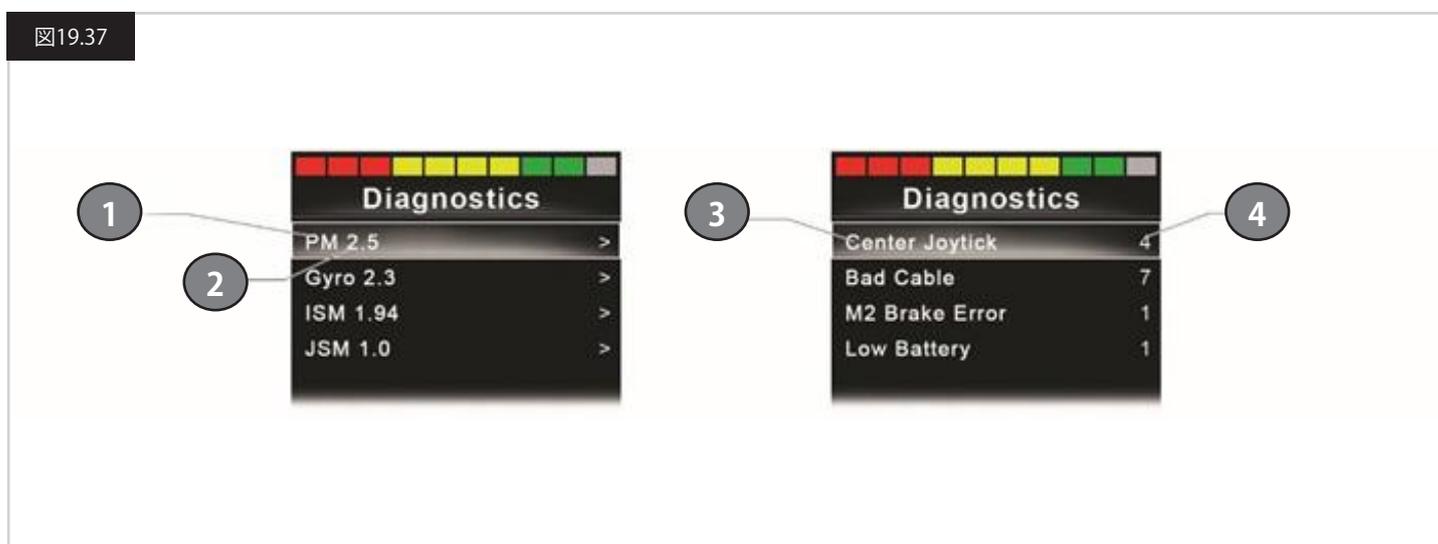
車椅子を運転した時間数が見えるようにします。

終了(Exit)

設定メニューを終了します。

図19.37

1. モジュール
2. ソフトウェアバージョン
3. エラーテキスト
4. 発生回数



20.0 CJSM2赤外線の設定と操作

はじめに

CJSM2には赤外線送信部と受信部があり、一般に使われる赤外線デバイス(TV用やDVD用、ケーブル/衛星(Cable/Satellite)用のリモコン、または自動ドアの開閉装置などの環境上のコントロール)を再現しています。

20.1 CJSM2をオムニ赤外線で使用

システムに赤外線接続をするデバイスが2つ(CJSM2とオムニ赤外線など)ある場合、そのうちの1つのデバイスのみで赤外線コードが保存されます。

両方の装置に赤外線コードがある場合、赤外線モード(IR MODE)にアクセスできません。

CJSM2とオムニの赤外線を同一のシステムに接続している場合、オムニ赤外線の登録機能は無効になり、赤外線コードはCJSM2で登録されます。

CJSM2を、数値の大きい新しい赤外線機器に確実に対応させるために、その赤外線コードの保存方式は、オムニ赤外線とは異なります。

そのため、赤外線設定を使って装置間の赤外線コードを交換することはできません(Sunrise Medicalの販売代理店にお問い合わせください)。

赤外線コントロールモードは、通常の方法でモード選択方法、つまり、R-Netシステムのモードボタンまたはコマンドの操作でアクセスします。

赤外線コントロールモードは、赤外線コードがCJSM2に保存されている場合にのみ有効です。

赤外線コードをCJSM2に保存する方法は2つあります。赤外線ハンドセットからコードを「読み込む」方法と、PCベースの赤外線設定ツールからプログラミングする方法です(Sunrise Medicalの販売代理店にお問い合わせください)。

方法についての詳細は、赤外線設定の章を参照してください。

メモ:

保存した赤外線コードがあっても赤外線モード(IR MODE)を利用できない場合は、Sunrise Medicalの販売代理店にお問い合わせください。

図20.1



20.2 赤外線コードユーザーメニュー

赤外線コントロールモードは、モードを選択してアクセスできません。つまり、R-Netシステムのモードボタンまたはコマンドで操作します。

赤外線コントロールモードは、赤外線コードがCJSM2に保存されている場合にのみ有効です。

CJSM2には赤外線コードを次の2通りの方法で保存できます：

1. 赤外線ハンドセットからコードをコピー（例：テレビのリモコン）。
2. PCベースの赤外線設定ツールでプログラミング（Sunrise Medicalの販売代理店にお問い合わせください）。
3. 赤外線モード(IR MODE)に入って、利用できる赤外線機器のリストにアクセスします（図20.2）。

ユーザーメニューを下のように移動します（図20.3～20.4）：

- i. ジョイスティックを前に倒すと上の機器がハイライトされます。
- ii. ジョイスティックを後ろに倒すと下の機器がハイライトされます。
- iii. ジョイスティックを左または右に倒すとハイライトした機器のサブメニューに入ります。ここにはその機器のすべての赤外線コマンドが含まれます。
- iv. ジョイスティックを左または右に倒すとハイライトした赤外線コマンドが有効になります。

機器ごとに、関連する赤外線コマンドのリストがあります：たとえば、TVを選択した場合、次のようなコマンドが表示されます：

[TVオン](TV - ON)、[TVオフ](TV - OFF)、[チャンネル上げる](Channel Up)、[チャンネル下げる](Channel Down)、[音量上げる](Volume Up)、[音量下げる](Volume Down)。
CJSM2が選択済みのコマンドを送信するときは、コマンドが赤の背景色でハイライトされます。

メモ：

- 保存した赤外線コードがあって赤外線モード(IR MODE)を利用できない場合は、Sunrise Medicalの販売代理店にお問い合わせください。
- CJSM2にはデフォルトメニューがあります。必要な場合、赤外線設定ツールを使ってこのデフォルトメニューを変更できます。Sunrise Medicalの販売代理店にお問い合わせください。

20.3 赤外線設定メニュー

赤外線設定メニューに入ると、デフォルト機器が表示されます（図20.2）。

機器を選択すると、そのコマンドが表示されます（図20.3）。チェックマークが付いたコマンドには、赤外線コードが保存されています（図20.5）。

チェックマークが付いていなければ、そのコマンドには赤外線コードが保存されていません。

赤外線コードは、以下に詳しく説明するように保存または削除できます。

図20.2

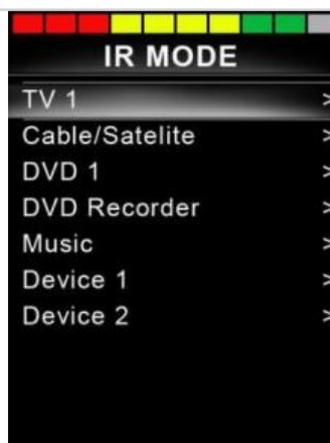


図20.3



図20.4



図20.5



20.4 赤外線コードの登録

図20.6～図20.11を参照してください。

1. 赤外線設定メニューに入ります。
2. 機器を選択します。例:TV - Samsung
3. 機器に対するコマンドが画面に表示されます。
4. ジョイスティックを右に倒して、登録対象のコマンドを選択します。この例では、TV > [チャンネル上げる](Channel Up)です。
5. コマンドのハイライト中に、ジョイスティックを右に倒して、[コード登録](Learn Code)を選択します。
6. TVのリモコンをCJSM2の受信部LEDに向けて、[チャンネル上げる](Channel Up)ボタンを2回押します。
7. チェックマークが表示されると登録操作は完了です。
8. バツが表示されると登録操作は失敗です。再度行なってください。
9. コードの登録が終わったら、終了をハイライトしてジョイスティックを左に倒します。システムは赤外線設定メニューの機器のレベルに戻ります。

メモ:

赤外線コードを最初に登録したときは、CJSM2を再起動してください(オフしてからオン)。他の赤外線コードは既に登録済みの場合、これは不要となります。

図20.6



図20.7



図20.8

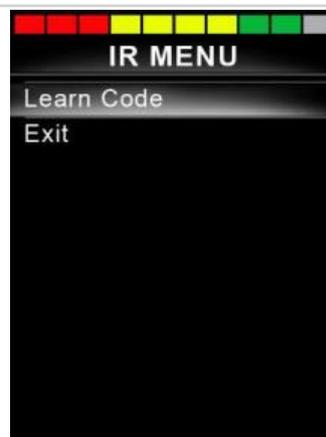


図20.9



図20.10



図20.11



20.5 赤外線コードの連続登録

CJSM2の赤外線設定メニュー内の1つのコマンドで、複数の赤外線コードを登録できます。具体的には、CJSM2が赤外線モード(IR MODE)のときに、1つのコマンドによって複数の赤外線コードを送信することができます。

使い方の例:

1. 複数の機器のオン/オフ(たとえばTVとDVD)を赤外線設定メニューの1つの登録内容として登録することができます。こうしておく、登録したコマンドのコードを1回の操作で送信できます。TVとDVDレコーダーのオン/オフを簡単に同時に操作できます。
2. 以前選択したTVチャンネルは、チャンネル番号を1桁ずつリストから選ぶ必要があります。桁数が多いTVチャンネル番号(たとえば、チャンネル143など)を選ぶ場合は、面倒になります。この場合、CJSM2の赤外線設定メニュー内の1つのコマンドに、「1」「4」「3」の個別コードを登録すればよいのです。このコマンドを選択すると、赤外線コードが正しい順序(シーケンス)で送信されます。

上の1例に関連して、シーケンスを作るには:

- シーケンス表示部に使用するコマンドを選択します。この例では、[TVオン](TV - ON)、[TVオフ](TV - OFF)です。
- コマンドのハイライト中に、ジョイスティックを右に倒して、[コード登録](Learn Code)を選択します。
- TVのリモコンをCJSM2の受信部LEDに向けて、オン/オフボタンを2回押します。
- 登録操作を行なうたびに、一瞬、確認画面が表示されます。再度、[コード登録](Learn Code)を選びます。
- DVDのリモコンをCJSM2の受信部LEDに向けて、オン/オフボタンを2回押します。
- 登録操作を行なうたびに、一瞬、確認画面が表示されます。再度、[コード登録](Learn Code)を選びます。
- 一連の操作を完了するには、終了をハイライトしてジョイスティックを左に倒します。
- オン/オフコマンドにチェックマークとその横に3つの点が付いて、登録シーケンスであることを示します(図20.12)。

20.6 赤外線コードの有効化/無効化

赤外線コードは赤外線設定メニューで有効または無効にできます。コードが無効になると送信されなくなり、赤外線モード(IR MODE)のオプションに表示されなくなります。

- 赤外線コードを無効にするには、CJSM2の速度パドルを上または下に倒します。無効化された赤外線コードが、ハイライトしたコマンドにXを付けて表示されます(図20.13)。
- 赤外線コードを有効にするには、CJSM2の速度パドルを上または下に倒します。有効化されたコードが、ハイライトしたコマンドにチェックマークを付けて表示されます。

図20.12

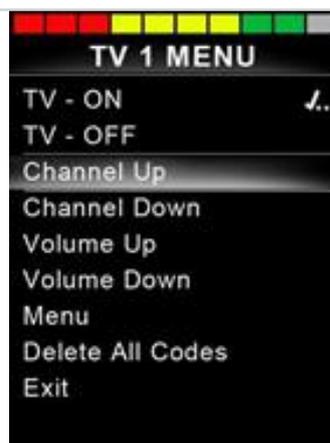


図20.13



20.7 赤外線コードの削除

特定のコマンドに対する赤外線コードを削除するには、機器メニュー内の特定のコマンドをハイライトして、ジョイスティックを右に倒します。次に[コード削除](Delete Code)を選択します(図20.14)。

機器に対する赤外線コードをすべて削除するには、その機器のサブメニュー内で[全コード削除](Delete All Codes)を選択します(図20.15)。

CJSM2に保存済みの赤外線コードをすべて削除するには、赤外線設定メニュー内の[全コード削除](Delete All Codes)を選択します(図20.16)。

図20.14

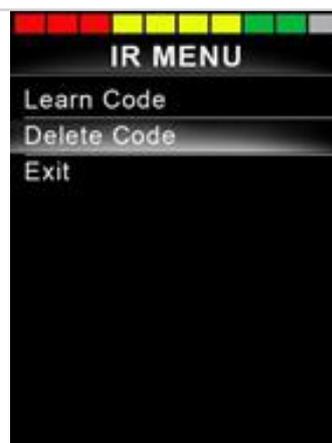


図20.15



図20.16



20.8 デフォルト赤外線メニュー

CJSM2出荷時のデフォルトユーザーメニューは次のとおりです：

TV	DVD1	DVD録画	ケーブル/衛星 (Cable/Satellite)	音楽	デバイス1	デバイス2
オン/オフ	オン/オフ	オン/オフ	オン/オフ	オン/オフ	コマンド1	コマンド1
チャンネル上げる (Channel Up)	再生	再生	TVガイド	再生	コマンド2	コマンド2
チャンネル下げる (Channel Down)	停止	停止	上げる	停止	コマンド3	コマンド3
音量上げる (Volume Up)	一時停止	一時停止	下げる	音量上げる (Volume Up)	コマンド4	コマンド4
音量下げる (Volume Down)	早送り	早送り	左	音量下げる (Volume Down)	コマンド5	コマンド5
チャンネル選択	巻き戻し	巻き戻し	右	一時停止	コマンド6	コマンド6
0		メニュー	選択/OK	早送り	コマンド7	コマンド7
1		上げる	情報	CDチェンジャー	コマンド8	コマンド8
2		下げる	ページ上へ	AM		
3		左	ページ下へ	FM		
4		右	赤	検索		
5		選択/OK	緑	プリセット		
6		録画	黄			
7		タイマー録画	青			
8		録画モード				
0						
入力						
選択/OK						

21.0 CJSM2Bluetoothの設定と操作

はじめに

R-NetCJSM2-BTを使って車椅子のユーザーは複数のBluetooth対応デバイスを制御できます。一般的な用途には、PCマウスの制御やスマートデバイスの操作があります。

最大で4デバイスを制御できます。そのうち2台をAppleのiOSデバイスに、残り2台をWindowsまたはAndroidデバイスにできます。

21.1 操作と設定

Bluetoothモードを有効にするには、設定メニューで少なくとも1つのデバイスをオンしておく必要があります。詳しくは、Bluetoothモード画面の設定の章を参照してください。

CJSM2-BTと対象のBluetoothデバイスは、対象デバイスによって接続を解除しない限り、ペアリングされています。

いったんCJSM2-BTがBluetoothデバイスとペアリングされると、モジュールはデバイス独自の識別子を記憶します。つまり、車椅子はBluetooth接続の範囲外で運転でき、範囲内に戻ると、Bluetooth接続は自動で復旧します。

次の3つの設定手順を実施する必要があります：

- Bluetoothモードの設定
- Bluetoothモード画面の設定
- Bluetoothデバイスとのペアリング

それぞれ以下の各章で詳しく説明します。

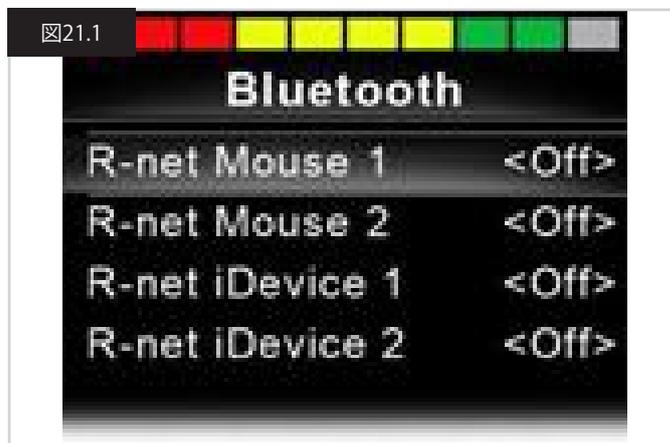
R-Net出力モードをBluetoothに設定してください。Sunrise Medicalの販売代理店にご連絡ください。

これは2段階の手順になっています。はじめに、設定メニューから少なくとも1つのデバイスをオンにします。次に、デバイスごとに画面の絵と名称をPCプログラミングで設定できます。後に続く2つの章で各手順を説明します。

設定メニュー

- 設定メニューに入り、Bluetoothを選択します。
- Bluetoothデバイス画面が表示されます。
- 1つまたは複数のデバイスをオンにします。
- R-netシステムのスイッチを切ってから、入れ直します。

(図21.1を参照してください)。



21.2 Bluetoothデバイスとのペアリング

最初にCJSM2-BTを以下の順序で検出モードにしてください:

- Bluetoothモードに入り、ペアリングしたいデバイスを選びます。
- ジョイスティックを前に倒し、警告音が鳴るまで保持します。約10秒待ってから、離します。
- ジョイスティックを後ろに倒し、警告音が鳴るまで保持します。約10秒待ってから、離します。
- 画面が表示されます(図21.2)。
- 点滅する青のアイコンは、CJSM2-BTが検出モードであることを示します。

ペアリングするデバイスの種類(Windows PC、Androidデバイス、iOSデバイス)に応じて、以下の3つの章のいずれかを参照してください:

21.3 Windowsとのペアリング

PCに統合Bluetoothがない場合、受信 dongle を使用して、そのドライバーをインストールしてください。
次のBluetoothのdongleを推奨します:

- Trust BT-2400
- Linksys USB BT100-UK
- Belkin F8T012uk1 バージョン1000

Bluetooth接続が確認できたら、PCで次の手順を行ないます:

- 自分のBluetoothデバイスを登録します(図21.3)。
- [追加]をクリックするとBluetoothデバイスのウィザードが起動します(図21.4)。
- [セットアップを完了し、デバイスは発見可能になりました]のチェックボックスをオンにしてください(図21.4)。
- [次へ]をクリックします(図21.4)。
- PCが付近のBluetoothデバイスを探します。
- 利用できるBluetoothデバイスが画面に表示されます(図21.5)。
- [TomのPC]をクリックして[次へ]をクリックします(図21.5)。

図21.2



図21.3



図21.4



図21.5



- パスキーが必要な場合は1234を使います (図21.6)。
- PCがCJSM2-BTとの接続を開始します (図21.7)。
- 接続が完了したら[完了]をクリックします (図21.8)。
- CJSM2-BTの青いアイコンが点滅しなくなります (図21.2)。
- 接続されたデバイスが画面に表示されます (図21.9)。

メモ:

失敗した場合は、[TomのPC]と、その後[削除]をクリックし、もう一度接続を行ないます (図21.9)。

図21.6



図21.7



図21.8



図21.9



21.4 Androidデバイスとのペアリング

Androidデバイスでは以下の手順に従います:

- システムの設定を選択し、Bluetoothをオンにします。
- 利用可能なデバイスのリストから[TomのSamsung]を選択します。
- 画面でパスワードを要求されたら[PGDT]を入力します (デバイスを初めて接続したときにのみ要求されます)。
- Android用R-Netアプリを開き、[接続]を選択します。これは利用可能なBluetoothデバイスのリストに表示されます。
- 利用可能なデバイスのリストから[TomのSamsung]を選択します。
- 画面でパスワードを要求されたら[1234]を入力します。
- TomのSamsungがペアリングしたデバイスとして表示されます。さらに、CJSM2-BTの青いアイコンが点滅しなくなります。

21.5 iOSデバイスとのペアリング

iOSデバイスでは以下の手順に従います:

- 設定を選択し、Bluetoothをオンにします。
- 利用可能なデバイスのリストから[TomのiPad]を選択します。
- TomのiPadがペアリングしたデバイスとして表示されます。さらに、CJSM2-BTの青いアイコンが点滅しなくなります。

21.6 デバイスリストの更新

CJSM2は最大4台のデバイスのBluetooth IDを記憶します。デバイスリストの登録内容を入れ替えるには、現在のペアリングを1つ解除してください。この手順はペアリング済みのデバイスで始めますがデバイスの種類に応じて異なります。デバイスのペアリングを解除すると新しいデバイスを追加できます。

21.7 Windows PCの操作

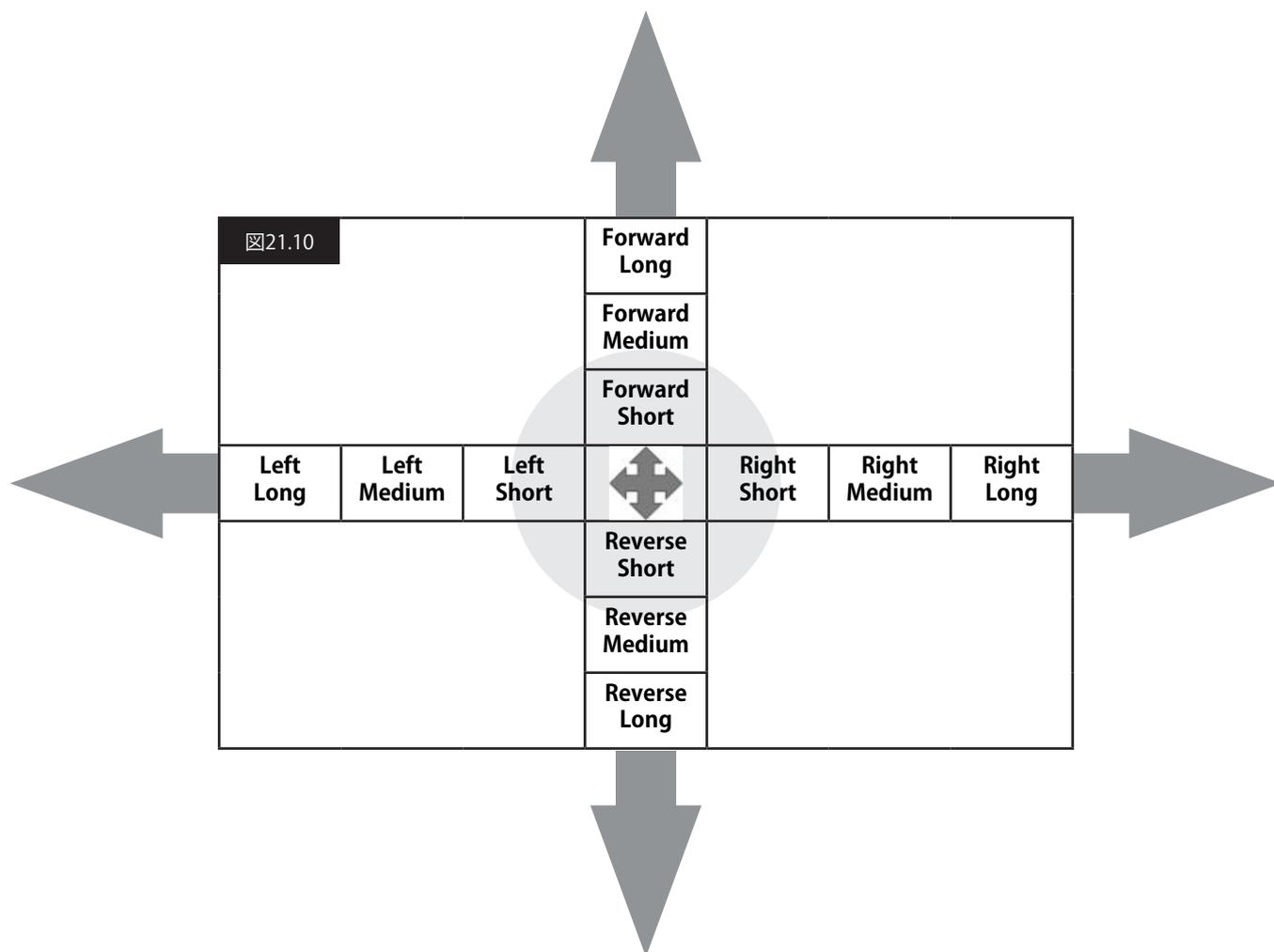
操作のタイミングや感度についてはプログラム可能なオプションがあります。詳しくは、Bluetoothのプログラミングの章を参照してください。外部設定情報ジャックソケットに接続された外部スイッチはコントロールデバイスとしても使用できます。ただし、R-Netのプログラミングが必要です。詳しくは、Bluetoothのプログラミングの章を参照してください。

21.8 Androidデバイスの操作

操作方法はWindows PCと同様で、適用されるプログラム可能なオプションも同じです。詳しくは、Bluetoothのプログラミングの章を参照してください。

メモ:

- CJSM-BTではAndroidデバイスをオンやオフにできません。
- Androidデバイスのスリープ機能は無効にしてください。
- デバイスが[スリープ状態にする]に入ると、手動で解除する必要があります。
- 各操作に関するデフォルトのプログラミングを以下に示します (図29.10)。



21.9 iOSデバイスの操作

CJSM2-BTではiOSデバイスを次の2通りの方法で制御できます。

- iOSデバイスのスイッチコントロール機能を使用
- iOSデバイスのスイッチコントロールを、iOSデバイスのボイスオーバー機能と組み合わせて使用

この2通りの方法をそれぞれスイッチコントロール、ボイスオーバーと呼び、次の各章で説明します。

スイッチコントロール

スイッチコントロールの原則は、ホームボタンや画面のタップなどの一定のiOSデバイスコマンドを、CJSM2-BTなどの外部機器からBluetooth経由で受けるコマンドに割り当てられることです。CJSM2-BTコマンドをiOSデバイスコマンドに割り当てる手順は、スイッチコントロールの設定の章で扱います。スイッチコントロールの例を次に示します。

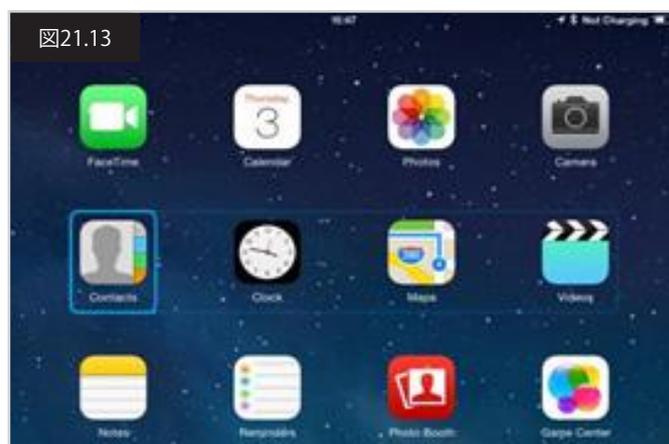
メモ:

画面遷移の順番はCJSM2-BTではなくiOSデバイスで決定します。

スイッチコントロールはアプリケーションウィンドウ内の区域をハイライトして操作します。次にいろいろなコマンドを使ってその区域を移動し、個別のアプリケーションを選びます(図21.11)。

iOSデバイスコマンド[次のアイテム](Next Item)で別のハイライトエリアを選択します(図21.12)。

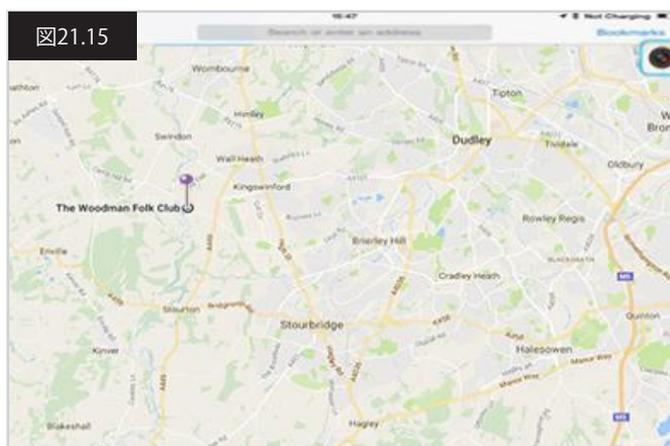
iOSデバイスコマンド[アイテム選択](Select Item)で、そのハイライトエリアに入ります(図21.13)。



iOSデバイスコマンド[次のアイテム](Next Item)と[前のアイテム](Previous Item)を使って、ハイライトエリア内の個別のアイコンを選択します(図21.14)。

iOSデバイスコマンド[アイテム選択](Select Item)で、ハイライトしたアイテムを開きます。アプリケーションの特徴によっては、画面の領域をハイライトして、上記と同様のコマンドを使ってその中を移動することができます(図21.15)。

iOSデバイスコマンドHomeでホーム画面に戻ります(図21.16)。

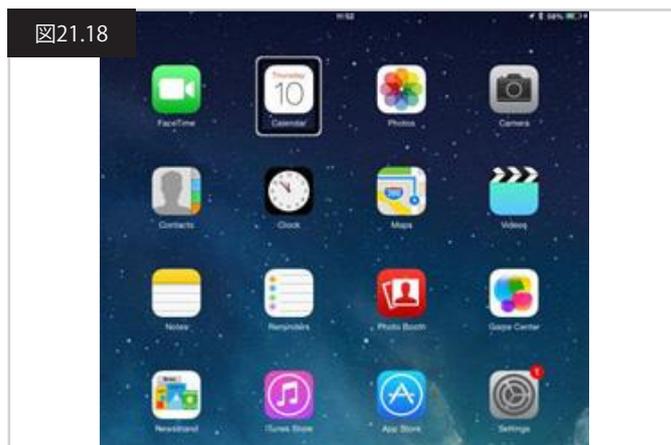


ボイスオーバー

ボイスオーバーはスイッチコントロールと組み合わせて操作します。ただし、画面遷移の方法は別です。例を示します(図21.17～21.20)。画面遷移の順番はCJSM2-BTではなくiOSデバイスで決定するので注意してください。

iOSデバイスコマンド[右カーソル](Cursor Right)と[左カーソル](Cursor Left)で、行内の個別のアイコンを選択できます(図21.17～21.18)。

同じiOSデバイスコマンドで、行の移動もできます。アイテムを開いてホーム画面に戻る方法は、スイッチコントロールと同じです(図21.19～21.20)。



スイッチコントロールの設定

CJSM2-BTコマンドをiOSデバイスコマンドに割り当てることができます。CJSM2-BTコマンドを以下で詳しく説明します。4方向ごとの時間関係のジョイスティックの倒し方(動き)

- ・ 前に短く(Forward Short)
- ・ 後ろに短く(Reverse Short)
- ・ 左に短く(Left Short)
- ・ 右に短く(Right Short)
- ・ 前に中位(Forward Medium)
- ・ 後ろに中位(Reverse Medium)
- ・ 左に中位(Left Medium)
- ・ 右に中位(Right Medium)
- ・ 前に長く(Forward Long)
- ・ 後ろに長く(Reverse Long)
- ・ 左に長く(Left Long)
- ・ 右に長く(Right Long)

動きに関するタイミングはプログラム可能です。詳しくは、Bluetoothのプログラミングの章を参照してください。

R-Netのプログラム可能なパラメーター[モード]を[スイッチコントロール]にセットします。詳しくは、Bluetoothのプログラミングの章を参照してください。

メモ:

アクセシビリティ内に自動スキャンと自動的に隠すのオプションがあります。初期設定ではこれらのオプションをオフにすることを推奨します。

iOSデバイスのスイッチコントロールを有効にしてコマンドを割り当てるには:

- ・ iOSデバイス設定メニューから、一般 > アクセシビリティを選びます (図21.21)。
- ・ スイッチコントロールをオンにする (図21.22)。
- ・ スイッチを選択 (図21.23)。
- ・ 外部を選択 (図21.24)。
- ・ [新しいスイッチを追加]を選びます (21.25)。
- ・ この画面が表示されます (図21.26)。
- ・ iOSデバイスに割り当てたいCJSM2-BTコマンド、たとえば、後ろに長くの動きを有効にします。
- ・ コマンドを受けると、この画面が表示されます (図21.27)。
- ・ 後ろに長く、などのわかりやすい名称を入力して保存します (図21.28)。
- ・ この画面が表示されます (図21.29)。
- ・ Move To Next Itemなど、割り当てたいiOSデバイスコマンドを選択します。(図21.29)。
- ・ この画面が表示されます。他のコマンドを割り当てるには、この手順を繰り返します (図21.30)。

図21.21

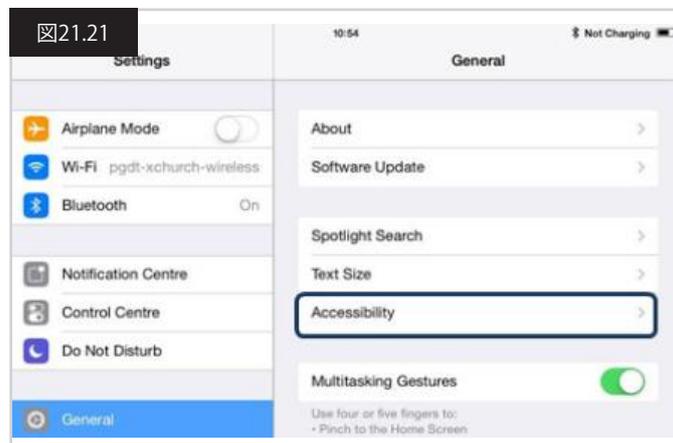


図21.22

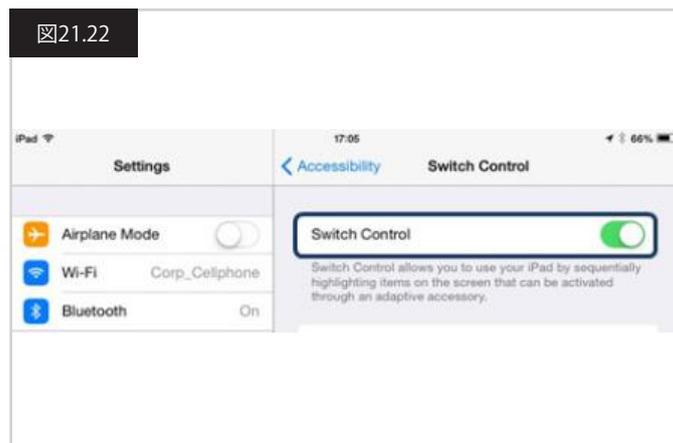


図21.23

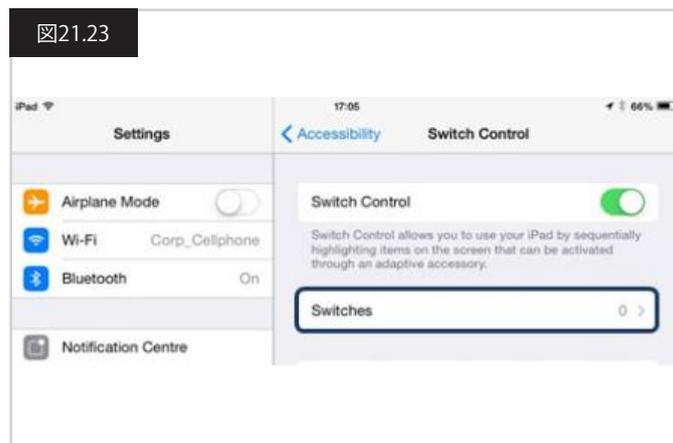


図21.24

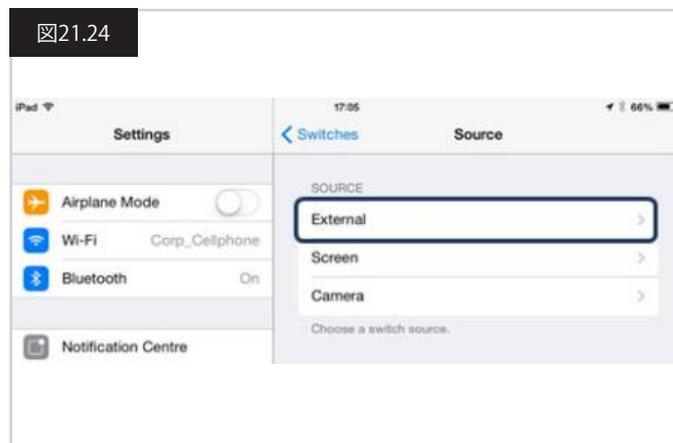


図21.25

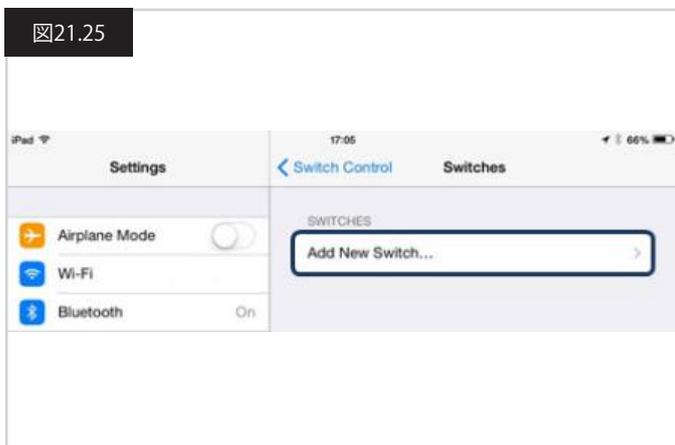


図21.26

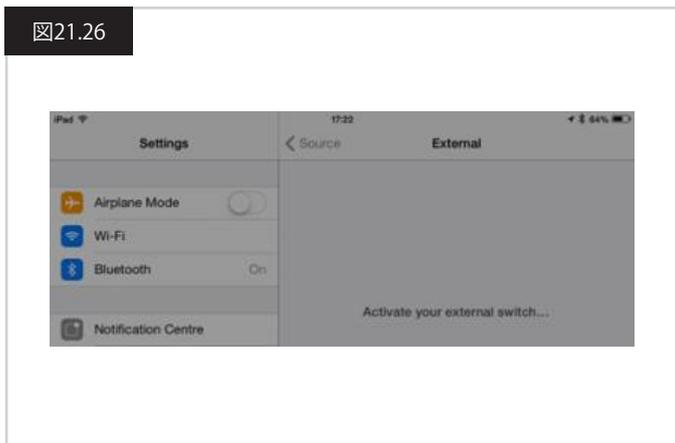


図21.27

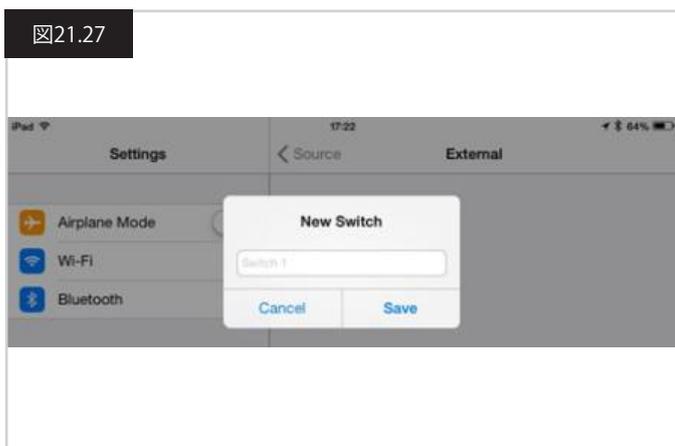


図21.28

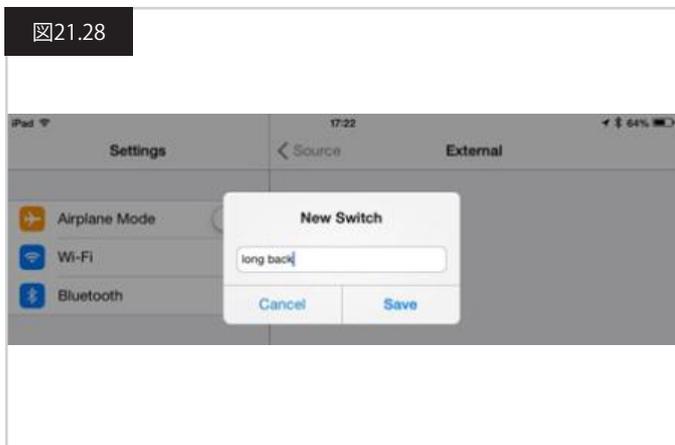


図21.29

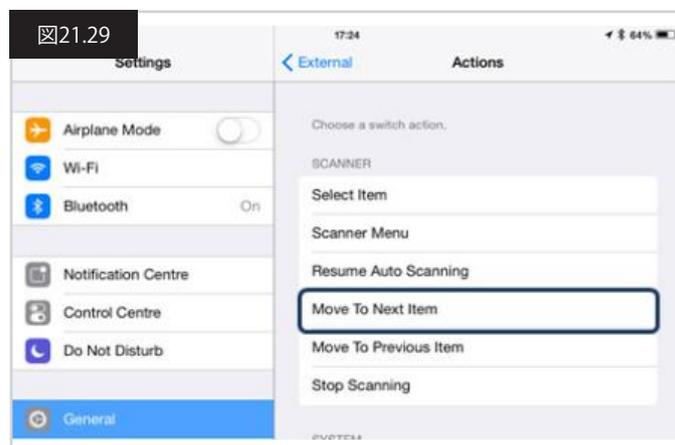
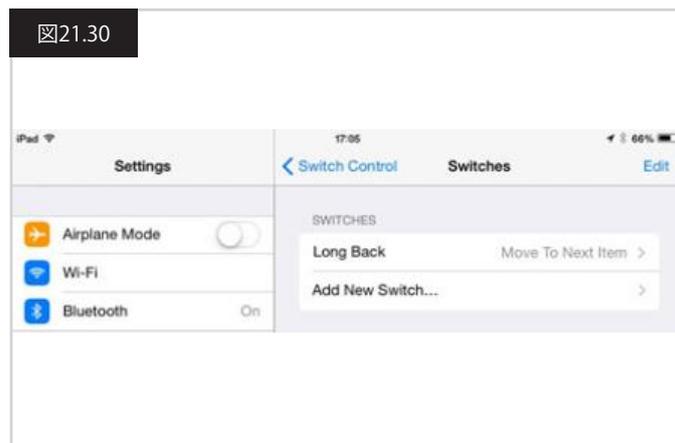


図21.30



ボイスオーバー設定

CJSM2-BTコマンドをiOSデバイスコマンドに割り当てることができます。以下に詳しく説明します。4方向ごとの時間関係のジョイスティックの倒し方(動き)

- 前に短く(Forward Short)
- 後ろに短く(Reverse Short)
- 左に短く(Left Short)
- 右に短く(Right Short)
- 前に中位(Forward Medium)
- 後ろに中位(Reverse Medium)
- 左に中位(Left Medium)
- 右に中位(Right Medium)
- 前に長く(Forward Long)
- 後ろに長く(Reverse Long)
- 左に長く(Left Long)
- 右に長く(Right Long)

動きに関するタイミングはプログラム可能です。詳しくは、Bluetoothのプログラミングの章を参照してください。

2つの外部設定情報ジャックスイッチの時間に関する操作

外部スイッチ操作に関するタイミングはプログラム可能です。詳しくは、Bluetoothのプログラミングの章を参照してください。

加速ボタンと減速ボタン

iOSデバイスのボイスオーバーを有効にしてコマンドを割り当てる手順:

- iOSデバイス設定メニューから、一般 > アクセシビリティを選択し、ボイスオーバーをオンに設定します(図21.31)。

メモ:ボイスオーバー設定の続きはR-NetPCプログラマーで行ないます。

⚠ 警告:

PCのプログラミングは必ず有資格の熟練職員が行なってください。Sunrise Medicalの販売代理店にご連絡ください。

- パラメーター[ボイスオーバー]を設定し、関連するパラメーターを使ってCJSM2-BTをiOSデバイスコマンドに割り当てます。
- 詳しくは、Bluetoothのプログラミングの章を参照してください。

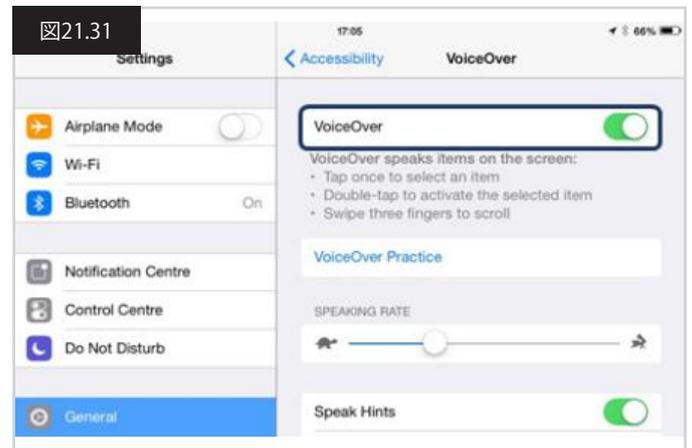


図21.31